

日本新聞協会 NewsML レベル 1 解説書 (第 1.0.3 版)

NewsML チーム作成

(2003.7.2)

この解説書は、IPTC が 2000 年 10 月 24 日にリリースした “NewsML Version1.0 Functional Specification” の日本語訳に、日本新聞協会技術委員会「NewsML チーム」が解説を加えたものである。

なお、機能仕様書の日本語訳には誤りが含まれている恐れがあり、英語版のみを公式な仕様とする。

変更履歴

版	日付	
1.0.1	2001/07/16	初版
1.0.2	2001/08/24	P.2 変更履歴ページの挿入
		P.3 「 NskNewsML レベル1ガイドライン」を 「 NskNewsML レベル1ガイドライン表」に変更
		P.119 「7.1 日本新聞協会 NewsML レベル1」の ContentItem/Comment を に変更
		P.22 NSK リソースセット、Property の4箇所「”」(全角ダブル コーテーション)を「"」(半角ダブルコーテーション)に変更
		P.111 「NewsML レベル1ガイドライン案」を「NewsML レベ ル1ガイドライン表」に変更
		P.4 制限事項に「 NewsMLv1.0.dtd を使用し、IPTC の仕様 に従って利用する。」を追加し、従来の 以下を 以下へ順送り
		P.4 「DataContent 以下で記述するXMLのDTDについては、 エンティティとして記述する。」を「DataContent 以下で記述 するXMLのDTDについては、外部エンティティとして記述す る。」に変更
		P.40 記述形式の説明文「NewsProduct 要素は本来、・・・」の 前に「NskNewsML レベル1に沿ったNewsML 文書であるこ とを識別するためにNewsProduct 要素を利用する。」を挿入
		P.19 「NskNewsaML」を「NskNewsML」に訂正
		P.55 NewsItemType の説明に、Alert を追加
P.21, 22 NSK リソースセットにある IPTCTopicSet ファイルの リビジョンを変更		
P.126-136 サンプルにある IPTCTopicSet ファイルのリビジョ ンを変更		
1.0.3	2003/07/02	<p>変更通知書を反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Scheme の扱いについて (2002-0001 : Scheme20020730.pdf) ・ NSK リソースセットの記述変更 (2002-0002 : ResourceSet20020730.pdf) ・ Characteristics/Property の利用規定変更 (2003-0001 : CharacteristicsProperty20030205.pdf) ・ 添付資料-DefaultVocabularyFor の Context 属性を追加 ・ ガイドライン表(Characteristics/Property × を に変更) ・ NSK リソースセットのリビジョンに関する記述変更 (2003-0006 : ResourceSet-Revision_20030702.pdf) ・ 2期、3期メンバー表を追加

はじめに

2000年9月6日、社団法人日本新聞協会技術委員会の下部組織である制作部会と情報通信部会の2つの部会からなる「新データフォーマット策定チーム」が発足しました。この新データフォーマット策定チームは、新聞協会に加盟する新聞、通信社から22社の委員と、外国通信社、メーカー、ベンダー、プロバイダーなど22社の技術スタッフが集められ、2001年の5月頃までをめどに実装を前提にした日本新聞業界の記事・画像の標準化としてNewsMLを検討するというものでした。

このNewsMLとは、1998年ロイター通信社がテキスト、画像、動画など異なる性質を持つニュース素材をインターネットなどを通じて配信する方法として発案した言語でした。そして、1999年にIPTCは、同社の提案を受け、次世代のニュース配信フォーマットとしてNewsMLの標準化を検討し、2000年10月の拡大会議にて正式にリリースしました。

新データフォーマット策定チームは、このNewsMLver1.0をもとに精力的に検討をこなし大きな成果を得ることができました。当初、チームのメンバーのほとんどにとって、NewsMLを検討するための知識も情報も十分でなかった現実はありましたが、チームをテキスト・メディア分科会と画像分科会の2つの作業グループに分け、各通信社、新聞社の記事をもとにして、その構成要素がNewsMLのどの要素に入れられる(マッピング)かといった検討、サンプル作成、IIM(Information Interchange Model)、NSKTIFFの構成要素とのマッピングの検討を行いました。

全体会議では、それぞれの社によって記事、画像の構成に固有の要素があるため、そのマッピングも必要とのことで、チーム参加の各社にその調査のお願いをしました。またIPTCが作成したNewsML機能仕様書を日本語化しました。これはチームの大きな成果のひとつになっています。この機能仕様書はその後、チームにとってNewsMLの基本機能を学ぶための優れた入門書になりました。

しかし、機能仕様書だけでは、踏み込んだ検討には十分ではなかったため、多くの疑問を一気に解決するために、チームの有志参加という位置付けでロンドンのロイター通信社でのNewsML研修会を行いました。また、チーム幹事団と共同通信社次期システム担当者との懇談会を開催し、貴重な意見交換を行いました。

その結果、新データフォーマット策定チームでは、NewsMLver1.0の使用にあたり新聞・通信社間でデータ交換をする場合の要素(エレメント)、属性の使用の目安が必要と判断し、新聞協会標準とするガイドラインを作成することになりました。このガイドラインは、新データフォーマット策定チームの検討期間が限定されていることから、最初の検討レベルをNskNewsMLレベル1とし、各要素の使用を3段階で表記することになりました。詳細については、利用の手引きにて記述していますので参考にしてください。

以上のような作業を行い、次のようなまとめを作成いたしました。

IPTCが作成したNewsMLver1.0の機能仕様書の日本語版

NskNewsMLレベル1ガイドライン表

NewsMLver1.0の機能仕様書の解説書

サンプル(記事と画像の単体)

このNewsMLver1.0の機能仕様書の解説書は、をもとに新聞協会の解説とNskNewsMLレベル1記述形式、例を入れたものです。この解説書により、容易にNewsMLver1.0、NskNewsMLレベル1の理解が出来るようにしています。また付録についているサンプルを参考にいただければ理解がなお深まると考えます。

NskNewsML レベル 1 の制限事項

NewsMLv1.0.dtdを使用し、IPTCの仕様に従って利用する。

NskNewsMLレベル 1 でDataContent以下にXMLファイルを記述する場合、下記の制限事項があります。

- 日本語の要素名は使用しない。
- NewsMLの要素名と同じ要素名を使用しない。
- DataContent以下で記述するXMLのDTDについては、外部エンティティとして記述する。

NewsML文書全体は、検証済みであること。

Update要素は使用しない。

目次

目次	5
0 利用の手引き	8
1 この文書のステータス	9
2 記述上の規約	9
3 謝辞	9
4 NEWSML 概観	11
4.1 NEWSML はニュースの交換と管理のための枠組みを提供	11
4.2 NEWSML は XML ベース	11
4.3 NEWSML はメディア中立	11
5 NEWSML の機能	12
5.1 NEWSML 文書の構造	12
5.1.1 識別子属性	12
5.1.1.1 The "Document-unique" Identifier (“ドキュメント・ユニーク” 識別子)	12
5.1.1.2 The "Element-unique" Identifier (“エレメント・ユニーク” 識別子)	12
5.2 CATALOGS	13
<i>NSK リソース利用方法一覧</i>	24
5.3 TOPICSETS	26
コラム : “ Topic は NewsML のキモ ”	35
5.4 NEWS ENVELOPE	36
5.4.1 <i>TransmissionId</i>	37
5.4.2 <i>SentFrom</i> と <i>SentTo</i>	37
5.4.3 <i>DateAndTime</i>	39
5.4.4 <i>NewsService</i> と <i>NewsProduct</i>	40
5.4.5 <i>Priority</i>	40
5.4.6 <i>メタデータの割り当て</i>	41
5.5 NEWSITEM の構造	42
5.5.1 <i>NewsItem</i> の識別 (<i>NewsIdentifier</i>)	43
5.5.1.1 <i>ProviderId</i>	45
5.5.1.2 <i>DateId</i>	45
5.5.1.3 <i>NewsItemId</i>	46
5.5.1.4 <i>RevisionId</i>	47
5.5.1.5 <i>PublicIdentifier</i>	48
5.5.2 <i>非形式識別子</i>	51

5.5.2.1 NameLabel.....	51
5.5.2.2 DateLabel.....	52
5.5.2.3 Label.....	52
5.6 NEWSMANAGEMENT	52
5.6.1 NewsItemType	54
5.6.2 FirstCreated.....	55
5.6.3 ThisRevisionCreated.....	56
5.6.4 Status.....	56
5.6.5 StatusWillChange.....	57
5.6.6 Urgency.....	58
5.6.7 RevisionHistory.....	59
5.6.8 DerivedFrom	59
5.6.9 AssociatedWith.....	60
5.6.10 Instruction.....	60
5.6.11 Property.....	61
コラム：独自 Metadata の追加について	64
5.7 NEWSCOMPONENT の構造.....	65
5.7.1 NewsComponents の動きの図解.....	68
5.7.2 EquivalentList.....	71
5.7.3 BasisForChoice.....	72
5.7.4 NewsComponent の他の下位要素.....	73
5.8 CONTENTITEM の構造	73
5.9 メタデータ.....	78
5.9.1 Administrative Metadata (管理メタデータ)	78
5.9.2 Rights Metadata (権利メタデータ)	81
5.9.3 Descriptive Metadata (記述メタデータ)	84
コラム：サブジェクトコードの管理方法について	89
5.10 NEWSLINES はメタデータの人間に対する局面を表す.....	90
5.11 NEWSITEMS への改版の発行.....	94
5.12 ポインタの使用	98
5.13 NEWSML の発展	99
5.14 認証とセキュリティ	99
6 用語	100
7 付録	111
7.1 日本新聞協会 NEWSML レベル 1 ガイドライン表	111
7.2 地域情報の表現方法について	121
7.3 NEWSML 複合ガイドライン	123
7.4 サンプル.....	125

7.4.1	記事単体のサンプル.....	125
7.4.2	画像単体のサンプル.....	131
7.5	NEWSML データ伝送モデルの例.....	137
7.5.1	NewsML 単体ファイル伝送.....	137
7.5.2	外部ファイルを伴う複合データ伝送.....	138
7.5.2.1	PUSH&PULL による NewsML 複合データ伝送.....	138
7.5.2.2	PUSH による NewsML 複合データ伝送.....	139
7.5.2.3	複合データを1つにまとめて PUSH する伝送.....	140
	NEWSML チーム名簿.....	146

0 利用の手引き

日本新聞協会「新データフォーマット策定チーム」が加筆した個所について、この解説書の説明を記述します。

この解説書は、IPTC が 2000 年 10 月 24 日にリリースした”NewsML Version1.0 Functional Spesification”を翻訳した文書に、以下の文書を追加したものです。

1 . 第 5 章「NewsML の機能」

[ツリー図]

「NewsMLv1.0.DTD」を元に、該当要素についてのツリーを図にしたもの。要素名の左にある記号はDTDに規定されているもの。要素名の右にある記号は日本新聞協会（NSK）NewsMLレベル1で規定したもので、その意味は下記[NskNewsML:1記述形式]を参照すること。

[NSK解説]

「機能仕様書 日本語版」をわかり易く解説したもの。

[NskNewsML:1記述形式]

日本新聞協会（NSK）NewsMLレベル1での要素と属性の利用規定と利用例。

必須：NewsML文書を交換する上で、なければならないもの。必須の要素や属性のないNewsML文書はエラーである。

省略可：NewsML文書を交換する上で、省略可能のもの。交換した文書に、この要素や属性があってもなくてもよい。データ交換する当事社間で、利用の可否を決める。

規定外：特に規定はしないもの。当事社間で利用してもよいもの。

× 使用停止：使用を停止しているもの。使用停止の要素や属性のあるNewsML文書はエラーである。

[コラム]

ポイントとなる解説を“コラム”という形で解説しています。

2 . 付録

・ガイドライン表

各要素や属性について[NskNewsML:1記述形式]で規定した必須などの記号を、表形式でまとめたもの。

・地域情報の記述方式について

地域情報をMetadataを使って記述する方法について解説したもの。

・NewsML複合ガイドライン

複合のガイドラインを解説したもの。これ以外の複合は許可されていない。

・サンプル

NskNewsML:1に準拠した記事単体と画像単体のNewsML文書の一例。

・NewsMLデータ伝送モデルの例

伝送モデルの例を解説したもの。例であって、これを推奨しているものではない。

1 この文書のステータス

この仕様書は、NewsML1.0 版の文書型定義(DTD)を説明し、補足するものである。

NewsML の要件 (*Requirements*) 文書は NewsML が与えるべき能力について述べたものである。現在の仕様書はこのような要求を満たすために採用されてきた技術的手段について説明する。要件は以下のように要約される (カッコの中の R で始まる番号は、NewsML の要件文書の対応する項目の参照番号である)。

NewsML は、コンパクトで(R900)拡張可能かつ柔軟な(R700)ニュースの構造的枠組みであり、XML と他の適切な技術的標準や仕様 に基づく(R1000)。NewsML は電子的なニュースアイテム、ニュースアイテムの集合、ニュースアイテム間の関係、それらに付随するメタデータの表現をサポートしなければならない(R100)。同じ情報が様々な表現で供給されることを見越す(R500)必要があり、任意のメディア・タイプ、フォーマット、言語、エンコードの混在を扱えねばならない(R300,R400)。NewsML はニュースのライフサイクルのすべての段階をサポートせねばならず(R600)、そのライフサイクルにわたってニュースアイテムの改版を許さねばならない(R200)。NewsML はメディアに対して独立だが、テキストを扱う特別の機構を提供することになる(R1100)。NewsML はメタデータとニュースコンテンツ両方に対する認証と署名を提供することになる(R800)。

2 記述上の規約

これ以降の章では、以下のような規約を使う : (訳注 この規約は原文のものであり、日本語訳には必ずしも適用されない)

下線付きの青い文字は、この文書以外の Web 上のリソースへのハイパーリンクである。

下線付きの青い太文字は、この文書内でのハイパーリンクである。

斜体 (イタリック) は文書後半の用語集で定義されている術語である。これらの用語には直接その定義を参照できるリンクがついている。MS ワードの "Web" ツールバーにある青い戻る矢印を押すことで元の位置に戻ることができる。

モノスペース文字は、XML 要素かその属性の名前、NewsML の文書インスタンスのサンプルか DTD の断片の記述に用いる。

モノスペースの太文字は説明文の中で XML 要素あるいは属性の名前を定義するのに用いる。これらの語彙に対する用語集の中にそれらの意味についての短い説明へのリンクが用意される。これらの要素や属性の公式の定義は、NewsML 定義それ自身のなかにも現れる。

青い背景は NewsML DTD からの抜粋の記述に対して使われる。

黄色い背景は、NewsML 文書の断片の実例に対して使われる。

3 謝辞

この仕様書は、国際新聞電気通信評議会 (IPTC) のメンバーによるチーム作業と外部の人々による協力の成果である。

特に貢献してくれたのは以下の面々である。

この仕様書は Daniel Rivers-Moore (RivCom : 英) によって編集された。作業全体は NewsML 統括委員会によって指揮、監督された。仕様書が承認された時点でのメンバーは、Klaus Sprick (委員長 : Deutsche Press Agentur : 独)、David Allen (IPTC)、James Hartley (Bridge Information Systems : 米)、John Iobst (米国新聞協会)、Alan Karben (Screaming Media : 米)、Laurant Le Meur (AFP : 仏)、Irving Levine (ライター : 英)、Kevin Roche (Dow Jones : 英) である。この仕様書は、いくつかの IPTC 作業部会、特に

NewsML 構造、NewsML メタデータ、NewsML テキスト作業部会との共同作業によるものである。文書による貢献をしたのは IPTC メンバーからは Paul Harman(Press Association : 英)、Johan Lindgren(Tidningarnas Telegrambyra : スウェーデン)、Jo Rabin(ロイター : 英)、Tony Rentschler(AP : 米)、IPTC の外部からは Martin Bryan(The SGML Centre : 英)、Ron Daniel(Metacode : 米)、Paul Simmonds(BBC : 英)らである。

4 NewsML 概観

NewsML は *XML* や他の適切な標準、仕様をもとに、ニュースにコンパクトで、拡張性が高く、柔軟な構造化の枠組みを提供する。電子的なニュースアイテム、ニュースアイテムの集合、それらの間の関係、および関連のメタデータの表現をサポートする。NewsML は同じ情報の複数表現の規定を許し、任意のメディアタイプ、フォーマット、言語、エンコードを混在して使用する。ニュースのライフサイクルのあらゆる場面をサポートし、ニュースアイテムの繰り返しの改版を許す。NewsML はメディア独立だが、テキストを扱うため特別の手法を提供する。NewsML はメタデータとニュースコンテンツ両方の出所を明らかにする。

4.1 NewsML はニュースの交換と管理のための枠組みを提供

NewsML はもともとニュース交換のためのフォーマットとなることを目的としているが、ニュースの蓄積のためのフォーマットとしてや、ネットワーク・コンピューティング環境におけるニュースの作成、編集、管理、発行の補助としても使用される。

4.2 NewsML は XML ベース

NewsML 文書は *XML* 文書であり、この仕様書の付録 1 に示した NewsML Document Type Definition (文書型定義 = DTD) に従ったものでなければならない。

全ての *XML* 文書のように、NewsML 文書は物理的というより論理的なオブジェクトである。NewsML 文書は *XML* 仕様書で定められたエンティティ参照 (*entity references*) あるいは NewsML 文書内のポインタ (*pointer*) 機構を使って複数の物理ファイルのコンテンツとして構成されてもよい。

4.3 NewsML はメディア中立

NewsML はメディアタイプ、フォーマット、*news objects* のエンコードについて、なにも仮定していない。NewsML 文書はテキスト、ビデオ、オーディオ、グラフィックス、写真、その他のメディア、今後開発されるメディアなど、任意のメディアの組み合わせを含むことができる。

5 NewsML の機能

この章では NewsML 文書構造全体を、そのルート(NewsML) 要素から始めて、各要素 (*element*)、属性(*attribute*)の構造や目的を説明する。重要な構造は図解例を用意する。

5.1 NewsML 文書の構造

NewsML の要素は完全な NewsML 文書のルート要素である。NewsML は NewsEnvelope と一つ以上の NewsItem を含まねばならない。NewsML 文書自体の中あるいは NewsML 文書が参照によって含む ニュースコンテンツ内に参照される Topic (または実世界の物事) を含む 1 個またはそれ以上の TopicSet 要素を含むことができる。また、デフォルトの語彙を識別、指定し、NewsML 文書のどこで、ある Topic が使われたかを示す Catalog 要素を含んでよい。Catalog 要素によって URN を URL に分解することができ、どの語彙 (TopicSet) がある文脈において与えられた要素タイプにとってデフォルトかを示すことができる。

```
<!ELEMENT NewsML (Catalog? , TopicSet* , (NewsEnvelope , NewsItem+ ))>
<!ATTLIST NewsML %localid >
```

```
<?xml version="1.0"?>
<!DOCTYPE NewsML PUBLIC "urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsMLv1.0:1"
"http://www.iptc.org/NewsML/DTD/NewsMLv1.0.dtd">
<NewsML>
  <Catalog>
    ...
  </Catalog >
  <TopicSet>
    ...
  </TopicSet>
  <NewsEnvelope>
    ...
  </NewsEnvelope>
  <NewsItem>
    ...
  </NewsItem>
  <NewsItem>
    ...
  </NewsItem>
</NewsML>
```

5.1.1 識別子属性

NewsML 文書内の各要素は、NewsIdentifier とその下位要素以外に、Duid (ドキュメント・ユニーク識別子) 属性と Euid (エレメント・ユニーク識別子) 属性の両方あるいはいずれかを、オプションとして持つことができる。これらの目的は同じ文書内や、別の NewsML や XML 文書でのポインタ参照を可能にすることである。属性確認の使用により、その文書は世界的に識別される。

5.1.1.1 The "Document-unique" Identifier ("ドキュメント・ユニーク"識別子)

Duid は XML の ID 属性規則に従わねばならない。すなわち、XML 仕様書で定義された名前用文字のみを含み、名前開始文字 (数字であってはいけない) で始めなければならない。その値は NewsML 文書内で唯一でなければならない。

5.1.1.2 The "Element-unique" Identifier ("エレメント・ユニーク" 識別子)

Euid の値は、同じ要素タイプで同じ親要素を持つ要素間で唯一でなければならない。Euid 属性を使うことで、NewsML 文書ツリーのローカルな枝の文脈の中で、NewsML 要素を識別することができる。こ

れによって、Duid の唯一性が損なわれるような場合でも (通常ならば新しい Duid 割り当てが必要) 各要素のアイデンティティを保持したままで、NewsML 文書のサブツリーをコピーし新たに組み合わせたり、参照によって含んだりすることができる。もし Euid が各レベルで管理されるなら、たとえば “ Euid が 1 である NewsComponent に含まれる Euid が abc である ContentItem ” というように、XPath 表現を識別のために使うことができる。そのような識別パターンは、サブツリーを “ 継ぎはぎ ” した後にまで保持される。

```
<!ENTITY % localid " Duid ID #IMPLIED
          Euid CDATA #IMPLIED" >
```

この例では、同じコンテンツが2つの NewsComponent 内で使われている。1 番目の NewsComponent 内の ContentItem は明らかにいくつかのコンテンツ (ここでは... で表わされる) を含む。2 番目の ContentItem は “ ツリーを歩き ” 要求された要素に対する Euid 属性を用いる XPath 表現を通じ、参照によって 1 番目の ContentItem を再利用する。

```
<NewsComponent Duid="a1" Euid="1">
  <ContentItem Euid="abc"> ... </ContentItem>
</NewsComponent>
<NewsComponent Duid="a2" Euid="2">
  <ContentItem Href="#xpather(//NewsComponent[@Euid='1']/ContentItem[@Euid='abc'])"/>
</NewsComponent>
```

5.2 Catalogs

NewsML 文書の主要な構造的要素のどれもが、Resource 要素と TopicUse 要素の両方あるいはいずれかを含む Catalog 要素を含むことができる。

それぞれの Resource 要素が、1 個の Uniform Resource Name (URN) と、1 個かそれ以上の Uniform Resource Locator (URL) の両方あるいはどちらかを通じて外部のリソースを認識する。それはまた、このリソースが主要な要素の content の若干数あるいは全てについて default vocabulary として働くかどうかを示す。Urn 属性は、NewsML URN が典型的なのだが、そのリソースに対しグローバルな識別子を供給する。Url 下位要素があるとすると、それはそのリソースが見つかり得る場所を指している。DefaultVocabularyFor 要素は、XPath パターンを内包する。識別されたリソースは、XPath パターンに合致するすべての要素や属性のために default vocabulary として働く。XPath パターンが要素に合致するものであれば、指定された要素の FormalName 属性値である。XPath パターンが属性に合致するものであれば、指定された属性自体の値である。XPath パターンは default vocabulary が適用される文脈を区別するのに適度な程度、単純であったり複雑であったりし得る。

TopicUse 要素は、あるトピックが NewsML 文書内のどこで使われているかを示す。Topic 属性の値は現在の文書において、#記号に Topic の Duid 属性を続けて構成するポインタである。Context 属性の値は、現在の Catalog が適用されているサブツリー内でこのトピックが使われている文脈を示す XPath パターンである。もし、Context 属性が存在しないのなら、TopicUse 要素は単純に、このトピックがサブツリーのどこかにあると述べているにすぎない。

オプションの Href 属性は、この文書または他の文書内の別の場所にある Catalog 要素へのポインタを提供する。その値は、#記号に、参照された Catalog 要素の Duid 属性値を続けるものからなる。参照された Catalog が現在の文書内になければ、その Catalog が出現する文書または NewsItem を識別する http URL または NewsML URN によって #記号の先に付く。その Href 属性が Catalog 要素上であれば、要素は空とする。下位要素を含んでいれば、NewsML システムはエラーを示すことになる。

```

<!ELEMENT Catalog (Resource* , TopicUse*)>
<!ATTLIST Catalog %localid;
Href CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT Resource (Urn? , Url* , DefaultVocabularyFor*)>
<!ATTLIST Resource %localid; >

<!ELEMENT Urn (#PCDATA)>
<!ATTLIST Urn %localid; >

<!ELEMENT Url (#PCDATA)>
<!ATTLIST Url %localid; >

<!ELEMENT DefaultVocabularyFor EMPTY >
<!ATTLIST DefaultVocabularyFor %localid;
Context CDATA #REQUIRED
Scheme CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT TopicUse EMPTY >
<!ATTLIST TopicUse Topic CDATA #REQUIRED
Context CDATA #IMPLIED >

```

次の例は、単一のResourceと単一のTopicUseからなるCatalogを示す。Resource要素は、IPTC Confidence topic setの第1版のコピーが、IPTCウェブサイト上の特定のURLで見られ、Confidence属性のためのdefault vocabularyとして働くことを示す。TopicUse要素は、Duid属性値がperson1であるTopicが、DescriptiveMetadata要素の文脈内で使われることを示す。このTopicは現在の文書内で発生しなければならない。この例では、TopicがIPTC Topic Type vocabularyで定義されるPersonタイプであり、英語でDavid Allen, Managing Director of IPTCと記述していることを宣言している。

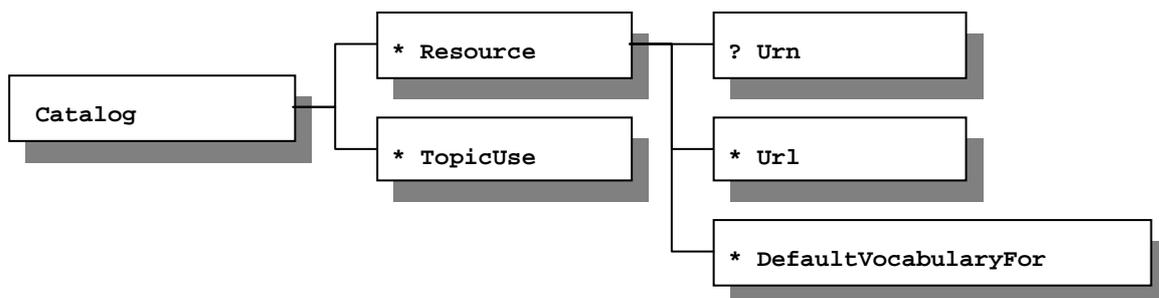
```

<Catalog>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:iptcConfidence:1</Urn>
    <Url>http://www.iptc.org/NewsML/topicsets/iptc-confidence.xml</Url>
    <DefaultVocabularyFor Context="@Confidence"/>
  </Resource>
  <TopicUse Topic="#person1" Context="DescriptiveMetadata"/>
</Catalog>

<TopicSet>
  <Topic Duid="person1">
    <TopicType FormalName="Person"
Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:iptcTopicTypes:1" Scheme="IptcTopicTypes"/>
    <Description xml:lang="en">David Allen, Managing Director of IPTC</Description>
  </Topic>
</TopicSet>

```

[ツリー図]



[NSK 解説]

Catalog 要素は NewsML ドキュメント内の要素や属性に、どの **controlled vocabulary** がデフォルトがボキャブラリとして使われるかを記述するために主に利用される。

controlled vocabulary とは、NewsML 内のある要素や属性の値として利用できるものを集めた値の集合（ボキャブラリ、語彙）である（次章 TopicSet の章、および仕様書用語集参照）。

一般的には Catalog 要素は、NewsML ドキュメント内で使用するリソース（外部ファイルなど）を定義するために使用する。Catalog 内に宣言・定義されるリソースは、下位要素である Resource 要素を用いて記述される。リソースは、その Catalog が含まれる NewsML ドキュメントの外部にあるものを指す場合と、NewsML ドキュメント内のある部分の場合がある。NewsML で、Catalog に記述される最も重要なリソースは **controlled vocabulary** である。

デフォルトボキャブラリの定義

Resource 要素では、NewsML 内のさまざまな要素に含まれる Vocabulary 属性 と Scheme 属性の省略値を提供する。この指定は DefaultVocabularyFor 下位要素を使い、Context 属性で省略値を提供する NewsML 内の要素と属性の場所を XPath パターンで記述する。この XPath パターンの最後に属性が記述されていない場合は、属性として @FormalName が記述されていると解釈する。

Context 属性の指す先が、要素の場合と属性の場合とで次の違いがある。

指す先が要素の場合、その要素のもつ FormalName 属性のデフォルトのボキャブラリが指定される。

注：Context 属性が、FormalName 属性を持たない要素を指してはならない。

指す先が属性の場合、その属性自身のボキャブラリが指定される。

注：NewsML 内のどの属性にでも **controlled vocabulary** を割り当てることができる。

Catalog を利用したデフォルトボキャブラリの指定方法について

NewsML では、FormalName 属性をもつ全ての要素は **controlled vocabulary** の利用が必要となる。NskNewsML:1 では、これら要素に割り当てる **controlled vocabulary** は、Catalog/Resource を用いて指定する。

NewsML では、各要素の Vocabulary 属性と Scheme 属性によって、各要素で利用する **controlled vocabulary** と Scheme をそれぞれ指定することができるが、NskNewsML:1 では各個所での指定方法は推奨しない。

1.0.3 版で変更された。注 1 (P.19) を参照

ボキャブラリの決定アルゴリズム

NewsML 内の要素(の FormalName)や属性の **controlled vocabulary** は次のアルゴリズムで探し当てられる（その要素や属性に Vocabulary 属性指定がない場合のボキャブラリの決定方法）

1. その要素から親を辿る。
2. その要素の親要素が直下の下位要素として Catalog 要素を持っているならば、その Catalog 要素が次の条件に合致する Resource 要素をもつかどうかを判断する。
「DefaultVocabularyFor/@Context 属性値（XPath 値）がその属性に合致するか」
合致すればその Resource 要素の Urn 要素または Url 要素の値が該当する **controlled vocabulary** である。

3. この条件に満を満たす Resource 要素がない場合、さらに次の親要素を辿り、見つけた Catalog 要素が上記条件に合致する Resource 要素を持つかどうかを判断する。
4. これを、ボキャブラリが見つかるまで繰り返す。最上位の Catalog(NewsML/Catalog)まで遡ってもボキャブラリが見つからなければ FormalName 属性に限ってはエラーである。その他の場合は自由形式を表すので、エラーにならない。

(DTD の Vocabulary 属性に関するコメントより)

1.0.3 版でより厳密な Xpath の用法が明記された。添付資料-DefaultVocabularyFor の Context 属性 (P.142) を参照

Catalog の使用例

例 1 : NewsML/Catalog にのみ Catalog を宣言した場合。

```

<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource> . . . . . 1
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-party:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Scheme="NskParty" Context="//Party/@FormalName"/>
    </Resource>
  </Catalog>

  <NewsEnvelope>
    <SentFrom>
      <Party FormalName="KYODO"/>
      この Party/@FormalName 値 "KYODO" は、上記 Resource 1 で示される
      controlled vocabulary に定義されている。
    </SentFrom>
  </NewsEnvelope>
  <NewsItem>
    <NewsComponent>
      <AdministrativeMetadata>
        <Provider>
          <Party FormalName="KYODO"/>
          この Party/@FormalName 値にも同じく、
          1 の controlled vocabulary が適用される。
        </Provider>
        <Creator>
          <Party FormalName="Reuter"/>
          この Party/@FormalName 値にも同じく、
          1 の controlled vocabulary が適用される。
        </Creator>
      </AdministrativeMetadata>
    </NewsComponent>
  </NewsItem>
</NewsML>

```

例 2 : NewsML/Catalog と AdministrativeMetadata/Catalog に Catalog が配置され、両方に Context="Party" の Resource が宣言されている場合。

```

<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource> . . . . . 1
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-party:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Scheme="NskParty" Context=" ../Party/@FormalName" />
    </Resource>
  </Catalog>
  <NewsEnvelope>
    <SentFrom>
      <Party FormalName="KYODO" />
      この Party/@FormalName 値"KYODO"は上記 Resource 1 で示される
      controlled vocabulary に定義されている。
    </SentFrom>
  </NewsEnvelope>
  <NewsItem>
    <NewsComponent>
      <AdministrativeMetadata>
        <Catalog>
          <Resource> . . . . . 2
            <Urn>urn:newsml:MyDomain:20010516:topicset.my-party</Urn>
            <DefaultVocabularyFor Scheme="MyParty" Context=" ../Party/@FormalName " />
          </Resource>
        </Catalog>
        <Creator>
          <Party FormalName="Ken Domon" />
          この値"Ken Domon"は、 2 の controlled vocabulary に定義されている。
        </Creator>
      </AdministrativeMetadata>
    </NewsComponent>
  </NewsItem>
</NewsML>

```

[NskNewsML:1 記述形式]

Catalog 要素は下記の複数の要素の下位要素であり、NewsML:1 での使用許可は次の通り。

場所	使用許可	備考
NewsML/Catalog		
NewsItem/Catalog		
TopicSet/Catalog		TopicSet 要素は、次の複数の要素の下位要素である。 NewsML、NewsItem、NewsComponent 上記すべてについて TopicSet/Catalog は。
TopicSet/Topic/Catalog		Topic 要素は、TopicSet 要素の下位要素であり、上欄に示すとおり複数の要素内に現れるがいずれも。
NewsComponent/Catalog		
AdministrativeMetadata/Catalog		
RightsMetadata/Catalog		
DescriptiveMetadata/Catalog		
Metadata/Catalog		

ContentItem/Catalog		
DataContent/Catalog		Catalog/@Href で参照されるファイルを作る場合には、ここを使用すること。

Catalog要素の低位要素

- Catalog/Resource 要素.....
- Catalog/Resource/Urn 要素.....
- Catalog/Resource/Url 要素.....
- Catalog/Resource/DefaultVocabularyFor 要素.....
- Catalog/Resource/DefaultVocabularyFor/@Context 属性 ...
- Catalog/Resource/DefaultVocabularyFor/@Scheme 属性.... (注1)

注1 . Scheme 属性のある Topic を指定する場合に、FormalName 属性だけで良いとしていたが、IPTC の通信社ガイドラインに基づき Scheme 属性もセットすることに変更する。

Scheme をつける場合は Catalog/Resource/DefaultVocabularyFor の@Scheme 属性か、各要素の Scheme 属性のどちらを使用しても良い。両方につけることも可である。

通信社ガイドライン v1.01 よりの引用

TopicSet

TopicSetsもNewsMLの各階層に置くことができる。TopicSetsを含むことができる要素は、NewsML、NewsItem、NewsComponentの各要素である。TopicSet要素がこれらの要素内にある場合は、Local Vocabulariesと呼ばれる。TopicSetはVocabulary属性を使用することで指定される。Vocabularyには、そのFormalNameの意味を解析するために使えるcontrolled vocabularyであるTopicSetへのポインターを与える。Vocabulary属性の値はhttp URLか、(外部Vocabulariesの)NewsML URNか、#文字に要素の存在する文書中のTopicSet (Local Vocabularyのこと)のDuidを続けるかのいずれかである。Vocabularyポインターは特定のTopicSetを識別できるだけなので、TopicSetの所在は継承されない。けれども、VocabularyポインターはCatalogによって指し示されたデフォルト・ボキャブラリーよりも優先して使われる。

(Topicの) FormalName要素は、特定のネーミング・スキームに属することを示すためにScheme属性を持つことができる。同じScheme属性を持ち、FormalNameが同じであるTopicが同じTopicSetに存在すればエラーとなる。Scheme属性が存在すれば、controlled vocabularyにある複数のネーミング・スキームのうち、どれがこのFormalNameを管理するものであるかを区別するために利用できる。controlled vocabularyから一致するTopicを探すには、FormalNameとSchemeがともに一致しなければならない。当該の要素にScheme属性がなければ、当該のFormalNameを持ち、Schemeを持たないローカルのボキャブラリー内のアイテムと一致しなければならない。

当該の要素にScheme属性があれば、ローカルのcontrolled vocabulary中のFormalNameとSchemeがともに一致しなければならない。外部VocabularyがCatalogからポイントされると、そのCatalogの関連Resourceの低位要素であるDefaultVocabularyForにおけるScheme属性値によって適切なSchemeが表示される。カレント要素内にFormalName属性値を持つScheme属性が存在しなければ、CatalogのDefaultVocabularyForエントリーのSchemeの記述がその要素にとってデフォルトとなる。Schemeを付け加えることができる。

例) Catalog で Scheme を指定

```
<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-newsitemtype-ja:2</Urn>
      <Url>../topicsets/topicset.iptc-newsitemtype-ja.xml</Url>
      <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcNewsItemType"
        Context="//NewsItemType/@FormalName"/>
    </Resource>
  </Catalog>
  <NewsItem>
    .....
    <NewsManagement>
      <NewsItemType FormalName="TopicSet"/>
    .....
  </NewsItem>
</NewsML>
```

例) 要素で Scheme を宣言

```
<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-newsitemtype-ja:2</Urn>
      <Url>../topicsets/topicset.iptc-newsitemtype-ja.xml</Url>
      <DefaultVocabularyFor Context="//NewsItemType/@FormalName"/>
    </Resource>
  </Catalog>
  <NewsItem>
    .....
    <NewsManagement>
      <NewsItemType FormalName="TopicSet" Scheme="IptcNewsItemType" />
    .....
  </NewsItem>
</NewsML>
```

NskNewsML:1 リソースセット

NskNewsML:1 では、利用を指定または推奨する Resource のリストを用意している。これを「NskNewsML リソースセット」と呼ぶ。NskNewsML:1 では利用者は、このリソースセットの中にある Resource をベースに Catalog を構成する。

Catalog は Href 属性によって外部ファイルとして参照してもよい。

外部ファイルとする場合、DataContent 要素内に Catalog 要素を配置し、NewsML ドキュメントとする。

下記の URN で示される IPTC の MasterCatalog を参照。

urn:newsml:iptc.org:20001006:catalog.IptcMasterCatalog:16
(iptc のサイトを参照)

NskNewsML リソースセットに含まれる controlled vocabulary については、5.3 TopicSet に記述する。

----- NskNewsML:1 リソースセット -----

以下のリソースの一部を必要に応じて適宜 Catalog 内に配置し、NewsML ドキュメントを構成する。このリソースセットの Resource 要素に Url 要素を入れることもできる。さらにリソースが必要な場合は下記に準じた方法で追加する。

注：このリソースセットは 2003 年 2 月 13 日現在のサンプルです。最新の TopicSet のリビジョンに関しては日本新聞協会のウェブサイトを参照してください。

```
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-format-nsk:8</Urn>
  <!-- 下記 Scheme は NskFormats 等になることもある -->
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcFormat" Context="//Format/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iso-language-ja:3</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="ISO639" Context="//Language/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-mediatype-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcMediaTypes" Context="//MediaType/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-metadatatype-nsk:2</Urn>
  <!-- 下記 Scheme は NskMetadataTypes 等になることもある -->
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcMetadataTypes" Context="//MetadataType/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-mimetype-ja:3</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcMimeTypes" Context="//MimeType/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-newsitemtype-ja:3</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcNewsItemType" Context="//NewsItemType/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-newslinetype:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="NskNewsLineType" Context="//NewsLineType/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-newsproduct:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="NskNewsProduct" Context="//NewsProduct/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-jpnareacode:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="Code"
    Context="//Property[@FormalName='NskJpnAreaCode']/@Value"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iso-country-ja:3</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="ISO3166-alpha3"
    Context="//Property[@FormalName='NskCountry']/@Value"/>
</Resource>
```

```

<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-party:3</Urn>
  <!-- 下記 Scheme は NskTiffServiceId 等になることもある -->
  <DefaultVocabularyFor Scheme="NskParty" Context="//Party/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-priority-ja:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcPriority" Context="//Priority/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-property-nsk:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcProperty" Context="//Property/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-status-ja:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcStatus" Context="//Status/@FormalName"/>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcStatus" Context="//FutureStatus/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:7</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcSubjectCodes" Context="//Subject/@FormalName"/>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcSubjectCodes"
    Context="//SubjectMatter/@FormalName"/>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcSubjectCodes"
    Context="//SubjectDetail/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-subjectqualifier-ja:7</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcSubjectQualifiers"
    Context="//SubjectQualifier/@FormalName"/>
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsmml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-topictype-nsk:3</Urn>
  <!-- 下記 Scheme は NskTopicType 等になることもある -->
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcTopicType" Context="//TopicType/@FormalName"/>
  <!-- 下記 Scheme は NskTopicType 等になることもある -->
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcTopicType" Context="//TopicSet/@FormalName"/>
</Resource>

```

ボキャブラリの種類

NskNewsML:1 では、ボキャブラリを派生の仕方によって次の種類に分けた。

ボキャブラリの種類						
	IPTC ボキャブラリ	IPTC-ja ボキャブラリ	IPTC-NSK 拡張 ボキャブラリ	NSK オリジナル ボキャブラリ	ユーザー拡張 ボキャブラリ	ユーザー ボキャブラリ
説明	IPTC の用意するボキャブラリ。	IPTC ボキャブラリの各 Topic に、日本語訳 Description を追加したもの。	IPTC-ja ボキャブラリに、NSK が Topic を追加したボキャブラリ。	NSK が独自に作成したボキャブラリ。	IPTC や NSK の用意するボキャブラリに、ユーザーが Topic を追加したり、Description を追加するなどしたボキャブラリ。	ユーザーが独自に作ったボキャブラリ。すでにある TopicSet の一部を組み込んだボキャブラリもこれに該当する。
ネーミング説明		オリジナル名の末尾に "-ja" を付ける	オリジナル名の末尾に、"-nsk" を付ける	IPTC のネーミングに倣う	末尾に識別子をつける	他のボキャブラリと混同しないように命名する
ネーミングサンプル	topicset.iptc-format	topicset.iptc-subjectcode-ja, topicset.iso-country-ja	topicset.iptc-format-nsk	topicset.nsk-NewsProduct	topicset.nsk-party-xxx	topicset.xxx

NSK リソース利用方法一覧

以下の表は、Context をキーとして、1 行が Resource ひとつに対応している。

Context の主要部分	ボキャブラリタイプ				
	IPTC-ja ボキャブラリ	IPTC-NSK 拡張 ボキャブラリ	NSK オリジナル ボキャブラリ	ユーザー拡張 ボキャブラリ	ユーザー ボキャブラリ
Format/@FormalName	使用不可	使用可(推奨) topicset.iptc-format-nsk	なし	使用可	使用不可 (ユニーク性を維持するため)
Language/@FormalName	使用可 topicset.iso-language-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
MediaType/@FormalName	使用可 topicset.iptc-mediatype-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
MetadataType/@FormalName	使用不可	使用可 topicset.iptc-metadatatype-nsk	なし	使用可	使用可
MimeType/@FormalName	使用可 topicset.iptc-mimetype-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
NewsItemType/@FormalName	使用可 topicset.iptc-newsitemtype-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
NewsLineType/@FormalName	なし	なし	使用可 topicset.nsk-newslinetype	使用可	使用不可
NewsProduct/@FormalName	なし	なし	使用可 topicset.nsk-newsproduct	使用不可	使用不可
Property[@FormalName='NskJpnAreaCode']/@Value	なし	なし	使用可 topicset.nsk-jpnareacode	使用不可	使用不可
Property[@FormalName='NskCountry']/@Value	使用可 topicset.iso-country-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
Party/@FormalName	なし	なし	使用可(推奨) topicset.nsk-party	使用可	使用可 (ユーザーボキャブラリの使用の可能性が高いため)
Priority/@FormalName	使用可 topicset.iptc-priority-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
Property/@FormalName	使用不可	使用可 topicset.iptc-property-nsk	なし	使用可	使用可

Context の主要部分	ボキャブラリタイプ				
	IPTC-ja ボキャブラリ	IPTC-NSK 拡張 ボキャブラリ	NSK オリジナル ボキャブラリ	ユーザー拡張 ボキャブラリ	ユーザー ボキャブラリ
Status/@FormalName FutureStatus/@FormalName	使用可 topicset.iptc-status-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
Subject/@FormalName SubjectMatter/@FormalName SubjectDetail/@FormalName	使用可 topicset.iptc-subjectcode-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
SubjectQualifier/@FormalName	使用可 topicset.iptc-subjectqualifier-ja	なし	なし	使用不可	使用不可
TopicType/@FormalName TopicSet/@FormalName	使用不可	使用可 topicset.iptc-topictype-nsk	なし	使用可	使用不可 (ユニーク性を維持するため)

5.3 TopicSets

TopicSet は Topic 要素を含み、それらは実世界事情 (トピック) への参照である。これらは人、場所、会社、あるいはある種の重要性をもつそのほかの物であるかもしれない。そして、NewsML 文書にあるニュース・コンテンツがメタデータ内で参照されるか、さもなければ関連しているかのどちらかである。

ひとつのトピックは、1つ以上の FormalName 下位要素、1つ以上の Description 下位要素の両方、あるいはどちらかを持ち得る。記述は、それがどちらの個別のものであるかについて識別するように意図される。FormalName 要素は、それが特定の naming scheme に属することを示すために、Scheme 属性を持っているかもしれない。同じ Scheme 属性を伴う同じ FormalName を持つ同じ TopicSet に2つの Topic が存在するのは誤りである。従って、特定の形式名を確かめるために、controlled vocabulary として TopicSet を使うことは可能である。

Topic 要素はまた、Details 属性を持つことができ、それは URL や URN の形で、そのトピックに関する追加情報へのポインタとなる。それはまた、そのトピックの特有のプロパティに値を提供する1つか複数の Property 下位要素を持ち得る。Topics と TopicSet は追加的に、自然の言語で非形式的な追加情報を与える Comment を持つことができる。

追加の Topics は、TopicSetRef 下位要素の使用を通じて TopicSet 内に参照によって含まれる。TopicSetRef 要素の TopicSet 属性は、現在の TopicSet の中に参照によって含まれている Topics をもつ TopicSet へのポインタである。このポインタは、内部あるいは外部の TopicSet を識別する http URL または NewsML URN か、あるいは現在の文書中にある TopicSet の Duid 属性の値があとに続く # 記号からなる fragment identifier のいずれかある。

もし、参照によって含まれるべき Topics の1つが、すでに TopicSet に含まれる1つの Topic と同じ FormalName と Scheme を持っていれば、これは、それら両方が同じ実世界のものを参照するということを意味する。それゆえに、これら2つの Topic 要素は、マージされると考えられる。Topics のマージは、システムによって物理的に実行される必要はない。しかし、データの意味は、まるでマージが実際に実行されたのと全く同じである。

すべての Topic は、1つまたはそれ以上の TopicType 下位要素を持っていて、それがどのようなタイプであるかをいう。トピックタイプは、TopicType 要素の FormalName 属性で命名される。TopicType 要素の Vocabulary 属性は、その FormalName の意味を定義する controlled vocabulary へのポインタである。Scheme 属性は、もし、存在すれば、ボキャブラリ内のどの naming scheme がこの形式名に当てはまるかを識別する。

```
<!ENTITY % formalname " FormalName CDATA #REQUIRED
                        Vocabulary CDATA #IMPLIED
                        Scheme CDATA #IMPLIED" >

<!ELEMENT TopicSet (Comment* , Catalog? , TopicSetRef* , Topic*)>
<!ATTLIST TopicSet %localid;
              %formalname; >

<!ELEMENT TopicSetRef (Comment*)>
<!ATTLIST TopicSetRef %localid;
                  TopicSet CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT Topic (Comment* , Catalog? , TopicType+ , FormalName* , Description* , Property*)>
<!ATTLIST Topic %localid;
              Details CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT TopicType EMPTY >
<!ATTLIST TopicType %localid;
              %formalname; >

<!ELEMENT FormalName (#PCDATA) >
<!ATTLIST FormalName %localid;
```

```
Scheme CDATA #IMPLIED >
<!ELEMENT Description (#PCDATA) >
<!ATTLIST Description %localid;
          xml:lang CDATA #IMPLIED
          Variant CDATA #IMPLIED >
```

以下の例では、TopicSetが出来事 (Event)、人物 (Person)、会社 (Company) という3つのタイプのTopicを持つ。これらのTopicTypeはすべてIPTC Topic Types *vocabulary*から引き出される形式名によって識別される。このIPTC *vocabulary*はCatalogでTopicType要素のための*default vocabulary*であると宣言される。

最初のTopicは出来事 (Event) で、英語でIran-Iraq war (イラン・イラク戦争) と書かれている。

第2のTopicは人物 (Person) で、Tony Blair(トニー・ブレア。その記述に関しては言語は特定されていない) と書かれている。さらにこの人物についてのDetailsが、外部ファイル「whoswho.xml」でブックマークされたtonyblairで見られる。

あとの2つのTopicは会社 (Company) で、より形式的に識別される。それぞれ会社名 (Company Name) の、あるVariant属性を持つDescriptionを持つ。さらに、それぞれが2つのFormalNameを持ち、そのうち1つはRIC *naming scheme*に、もう1つがNASDAQ *naming scheme*に属する。

```
<?xml version="1.0"?>
<!DOCTYPE NewsML PUBLIC "urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsMLv1.0:1"
"http://www.iptc.org/NewsML/DTD/NewsMLv1.0.dtd">
<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:iptcTopicTypes:1</Urn>
      <Url>http://www.iptc.org/NewsML/topicsets/iptc-topicatypes.xml</Url>
      <DefaultVocabularyFor Context="TopicType"/>
    </Resource>
  </Catalog>
  <TopicSet>
    <Topic Duid="event1">
      <TopicType FormalName="Event"/>
      <Description xml:lang="en">Iran-Iraq war</Description>
    </Topic>
    <Topic Duid="person1" Details="whoswho.xml#tonyblair">
      <TopicType FormalName="Person"/>
      <Description>Tony Blair</Description>
    </Topic>
    <Topic Duid="company1">
      <TopicType FormalName="Company"/>
      <FormalName Scheme="RIC">DELL.O</FormalName>
      <FormalName Scheme="NASDAQ">DELL</FormalName>
      <Description Variant="Company Name">Dell Computer</Description>
    </Topic>
    <Topic Duid="company2">
      <TopicType FormalName="Company"/>
      <FormalName Scheme="RIC">RTRSY.O</FormalName>
      <FormalName Scheme="NASDAQ">RTRSY</FormalName>
      <Description Variant="Company Name">Reuters</Description>
    </Topic>
  </TopicSet>
  ...
</NewsML>
```

以下の例では、IPTCサブジェクト・コード *vocabulary*が、TopicSet内のTopicSetRef要素を通じて参照によって含まれる。また、追加のTopic要素も与えられる。これはSubjectMatterのTopicTypeを持ち、IPTC *topic types naming scheme*によって定義される。追加のTopicにはBuilding Designという短い英語の記述と、The art and

science of designing buildingsというフルの英語記述がある。それにも2つのFormalNameが与えられる。IptcSubjectCodes *naming scheme*ではそのFormalNameが「01002000」、myscheme *naming scheme*ではFormalNameが「BDES」である。このことは、myscheme *naming scheme*でのそのFormalName「BDES」への参照が、IPTCサブジェクト・コード*vocabulary*で「01002000」と名づけられたものとまさに同じものを参照することを意味する。

```
<TopicSet Duid="mysubjects">
  <TopicSetRef TopicSet="urn:newsml:iptc.org:iptc:20001006:IptcSubjectCodes"/>
  <Topic Duid="mysubject1">
    <TopicType FormalName="SubjectMatter" Vocabulary="urn:iptc:20001006:IptcTopicTypes"
Scheme="IptcTopicTypes"/>
    <FormalName Scheme="myscheme">BDES</FormalName>
    <FormalName Scheme="IptcSubjectCodes">01002000</FormalName>
    <Description xml:lang="en" Variant="ShortDesc">Building Design</Description>
    <Description xml:lang="en" Variant="FullDesc">The art and science of designing
buildings</Description>
  </Topic>
</TopicSet>
```

システムが実際にIPTCサブジェクト・コード*vocabulary*にアクセスし、システム内にローカルに含まれるTopicsとIPTCのTopicsをマージするとしたら、結果として次に示すようにマージされたTopicエレメントが生じるだろう。これにより、BDESと呼ぶtopicが、IPTC *vocabulary*では建築 (Architecture) であることがわかる。

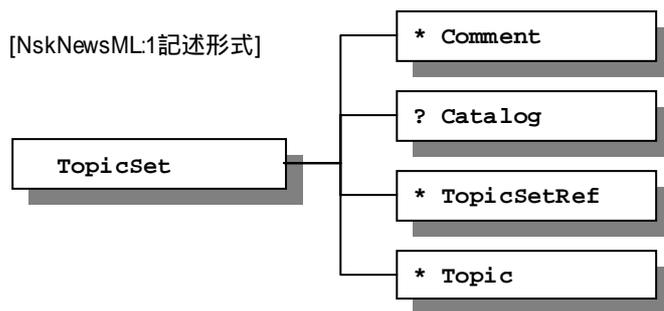
```
<Topic Duid="mergedtopic1">
  <TopicType FormalName="SubjectMatter"/>
  <FormalName Scheme="IptcSubjectCodes">01002000</FormalName>
  <FormalName Scheme="myscheme">BDES</FormalName>
  <Description xml:lang="en" Variant="ShortDesc">Building
Design</Description>
  <Description xml:lang="en" Variant="FullDesc">The art and science of
designing buildings</Description>
  <Description xml:lang="en" Variant="Name">Architecture</Description>
</Topic>
```

上記の技術は、ほかの*vocabulary*から引き出された用語を持つ1つの*controlled vocabulary*の中で用語の等価性を表明するため、汎用目的のメカニズムとして使用することができる。このメカニズムの使用を容易にするために、コントロールされた*controlled vocabularies*としての使用を意図したTopicSetにおけるすべてのFormalName上のScheme属性を含むのは良い方法である。

[NSK 解説]

TopicSet 要素

TopicSet は Topic の集まりである。NewsML には Topic 要素と Topic 属性があるので、注意が必要である。IPTC の例では入っていないが TopicSet 要素の意味を FormalName 属性で表す。この FormalName 属性の重要度は低い。TopicSet には Topic 下位要素の他に、補助的に下位要素として Comment、Catalog、TopicSetRef を持つ。TopicSet は宣言であって、他の要素で TopicSet 内の該当 Topic をポイントして使用する。



TopicSet は2つの使い方がある。1つは、実世界事情(トピック)の集合を表す。これは人、場所、会社、あるいはある種の重要性をもつそのほかの物であるかもしれない。もう1つは、*controlled vocabulary*である。

仕様書では実世界事情(トピック)に *controlled vocabulary*が含まれているが、解説書ではこれを区別して説明することとする。

controlled vocabulary (コントロールド・ボキャブラリ)

controlled vocabulary (コントロールド・ボキャブラリ)とは、Scheme 属性と FormalName 属性の組み合わせで TopicSet 内の唯一の Topic を示ようにコントロールされたボキャブラリのことである。つまり FormalName 下位要素を持つ Topic のことである。

*controlled vocabulary*では Topic が使用する値の候補の1つに対応し、TopicSet が値の候補の集合(ボキャブラリ)に対応する。通常、*controlled vocabulary*では TopicType 下位要素は1つである。

実世界事情(トピック)を外部 TopicSet ファイルで管理する場合など、*controlled vocabulary*として扱えるように FormalName 下位要素を持たせることもある。だが、実世界事情(トピック)をポイントする要素では FormalName 属性を使用できない。*controlled vocabulary*は FormalName 属性で Topic をポイントするような要素で利用される。

TopicSet 要素が記述できる個所

TopicSet は NewsML 文書中のいくつかの個所に記述できる。NewsML 要素の中と NewsComponent 要素の中で記述された場合は、各サブツリーの中でのみ有効な TopicSet として使用される。NewsItem 要素の中で記述された場合は、外部参照される TopicSet ファイルを作成するために使用される。これによって作成された NewsML ファイルは通常 *controlled vocabulary*として使用される。なぜならば、*controlled vocabulary*ではない Topic をポイントするための Topic 属性が TopicUse、TopicOccurrence、Party 各要素に存在するが、参照範囲が同じ文書内に限られるからである。

TopicSet 要素が記述できる個所 (1)

次の例は、通常の (NewsComponent がある) NewsML ファイルに TopicSet 要素を記述できる個所を表している。

```

<NewsML>
  <Catalog>
    ...
  </Catalog>
  <TopicSet ...>
    ...
  </TopicSet>
</NewsItem>
  
```

```

<NewsManagement>
  <NewsItemType FormalName="News" />
</NewsManagement>
<NewsComponent>
  <TopicSet ...>
    ...
  </TopicSet>
</NewsComponent>
</NewsItem>
</NewsML>

```

TopicSet 要素が記述できる個所 (2)

次は、外部参照される TopicSet ファイルで、TopicSet 要素を記述する個所を表している。

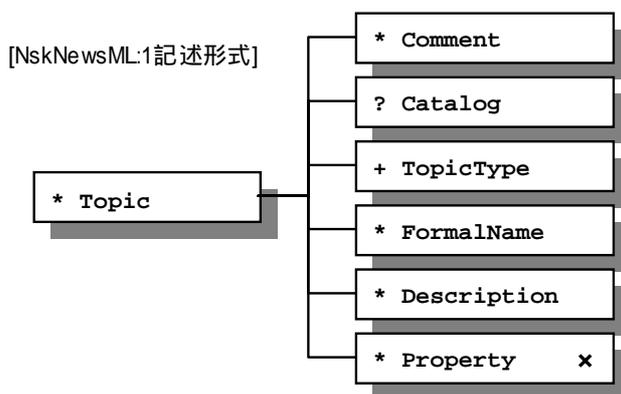
```

<NewsML>
  <NewsItem>
    <NewsManagement>
      <NewsItemType FormalName="TopicSet" />
    </NewsManagement>
    <TopicSet>
      ...
    </TopicSet>
  </NewsItem>
</NewsML>

```

Topic 要素

Topic 要素は実世界事情 (トピック) あるいは *controlled vocabulary* の 1 つを表す。Topic 要素は *Details* 属性を持つことができ、これによって URL や URN の形でその Topic に関する追加情報をポイントする。TopicType 下位要素は Topic の種別 (タイプ) を表す。Description 下位要素には Topic の説明が記述される。FormalName 下位要素があれば *controlled vocabulary* としても使用できる。Topic 要素には他に、補助的に下位要素として Comment, Catalog, Property を持つ。



Topic 要素は FormalName 下位要素を持つタイプと持たないタイプの 2 つに分類される。NewsML には FormalName 要素と FormalName 属性があるので、注意が必要である。

Topic 要素で FormalName 下位要素を持たないものは、実世界事情 (トピック) を表現する。1 つ以上の TopicType 下位要素を持つことも多々あると推測できる。

実世界事情 (トピック) を指定する方法は、TopicUse, TopicOccurrence, Party 各要素に含まれる Topic 属性に #記号と該当 Topic の Duid を続けて構成する *ポイント* で指定する。

実世界事情 (トピック) を指定する例

```

<NewsComponent>
  <Catalog>

```

```

    <TopicUse Topic="#topic01" Context="DescriptiveMetadata">
</Catalog>
<TopicSet FormalName="LocalVocabulary">
  <Topic Duid="topic01">
    <TopicType FormalName="Event"/>
    <Description> ... </Description>
  </Topic>
</TopicSet>
<DescriptiveMetadata>
  <TopicOccurrence Topic="#topic01"/>
  ...
</DescriptiveMetadata>

```

controlled vocabulary の 1 つの値を指定する方法は、対象要素に含まれる *FormalName* 属性に該当 *Topic* の *FormalName* 下位要素の内容を記述する。より明確に *Topic* を指定するために *naming scheme* を指定することもできる。*naming scheme* の指定方法は対象要素の *scheme* 属性に、該当 *Topic* の *FormalName* 下位要素に含まれる *scheme* 属性の値を指定する。

controlled vocabulary を指定する例

```

<NewsComponent>
  <TopicSet Duid="LocalTopicSet" FormalName="LocalVocabulary">
    <Topic Duid="topic.nskcontentprice">
      <TopicType FormalName="MetadataType" Scheme="IptcTopicType"/>
      <FormalName Scheme="NskMetadataType">NSK:ContentPrice</FormalName>
      <Description xml:lang="ja">コンテンツ単価</Description>
    </Topic>
    <Topic Duid="topic.nskprice">
      <TopicType FormalName="Property" Scheme="IptcTopicType"/>
      <FormalName Scheme="NskProperty">NSK:PriceYEN</FormalName>
      <Description xml:lang="ja">価格(円)</Description>
    </Topic>
  </TopicSet>
  <Metadata>
    <Catalog>
      <Resource>
        <Url>#LocalTopicSet</Url>
        <DefaultVocabularyFor Context="MetadataType"/>
        <DefaultVocabularyFor Context="Property"/>
      </Resource>
    </Catalog>
    <!--コンテンツ単価の情報-->
    <MetadataType FormalName="NSK:ContentPrice"/>
    <!--このコンテンツ単価(円)は1000 -->
    <Property FormalName="NSK:PriceYEN" Value="1000"/>
  </Meatadata>
  ...
</NewsComponent>

```

TopicSetRef 要素

既存の *TopicSet* を引用したい場合、*TopicSetRef* 要素を使うことによって、これが含まれる *TopicSet* にポイントされている *TopicSet* の *Topic* をすべて含めることができる。含める *Topic* をもつ *TopicSet* へのポインタを、*TopicSetRef* 要素の *TopicSet* 属性に指定する。このポインタは、内部あるいは外部の *TopicSet* を識別する *http URL* または *NewsML URN* か、あるいは現在の文書中にある *TopicSet* の *Duid* 属性の値があとに続く # 記号からなる *fragment identifier* のいずれかある。

TopicSetRef を使って *Topic* を追加する例

つぎの例は、IPTC の Provider に NSK (日本新聞協会) を追加している。

```

<NewsComponent>

```

```

<Catalog>
  <Resource>
    <Url>#LocalTopicSet</Url>
    <DefaultVocabularyFor Context="Party"/>
  </Resource>
</Catalog>
<TopicSet Duid="LocalTopicSet" FormalName="LocalVocabulary">
  <TopicSetRef TopicSet=" urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-provider"/>
  <Topic Duid="NskProvider.NSK">
    <TopicType FormalName="Provider" Scheme="IptcTopicType"/>
    <FormalName Scheme="NskTiffServiceId">NSK</FormalName>
    <Description xml:lang="ja">日本新聞協会</Description>
  </Topic>
</TopicSet>
<AdministrativeMetadata>
  <Provider>
    <Party FormalName="NSK"/>
  </Provider>
  <Creator>
    <Party FormalName="IPTC"/>
  </Creator>
</AdministrativeMetadata>
...
</NewsComponent>

```

すでに定義されている Topic を拡張する場合も、TopicSetRef 要素が使用できる。TopicSetRef 要素によって含める Topic と新しい TopicSet の Topic において、同じ FormalName と Scheme の組み合わせがある場合は、これら 2 つの Topic が同じものを指している。このようなケースでは、2 つの Topic を合成（マージ）すると解釈すればよい。Topic のマージは、システムによって物理的に実行される必要はないが、マージされたように解釈する必要がある。

TopicSetRef を使って Topic をマージする例

つぎの例は、IPTC の Provider に NSK（日本新聞協会）と KYODO NEWS（共同通信社）を追加している。共同通信社については IPTC が既に定義した KYODO と同じ Topic にしている。このため、KYODO の Topic も KYODONEWS として扱われることを意味している。（別の表現をすると、KYODO NEWS も KYODO と同じ処理をすることが期待される。）

```

<NewsComponent>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Url>#LocalTopicSet</Url>
      <DefaultVocabularyFor Context="Party"/>
    </Resource>
  </Catalog>
  <TopicSet Duid="LocalTopicSet">
    <TopicSetRef TopicSet=" urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-provider"/>
    <Topic Duid="IptcProvider.KYODO">
      <TopicType FormalName="Provider" Scheme="IptcTopicType"/>
      <FormalName Scheme="NskTiffServiceId">KYODO NEWS</FormalName>
      <FormalName Scheme="IptcProvider">KYODO</FormalName>
      <Description xml:lang="ja">共同通信社</Description>
    </Topic>
    <Topic Duid="NskProvider.NSK">
      <TopicType FormalName="Provider" Scheme="IptcTopicType"/>
      <FormalName Scheme="NskTiffServiceId">NSK</FormalName>
      <Description xml:lang="ja">日本新聞協会</Description>
    </Topic>
  </TopicSet>
  ...
</NewsComponent>

```

サンプル TopicSet の説明

上記のサンプル TopicSet をポイントするには、つぎのように記述する。

(1) FormalName 属性でポイントする場合

```
<Party FormalName="B 欄" Scheme="C 欄" Vocabulary="#LocalTopicSet"/>
```

(2) Topic 属性でポイントする場合

```
<TopicOccurrence Topic="#A 欄"/>
```

(通常は、Provider の Topic を TopicOccurrence でポイントすることはない)

A Topic/@Duid	B Topic/FormalName	C Topic/FormalName/@Scheme	D Topic/TopicType	補足
NskProvider.NSK	NSK	NskTiffServiceId	Provider	
IptcProvider.KYODO	KYODO NEWS	NskTiffServiceId	Provider	同 一 Topic
	KYODO	IptcProvider	Provider	同 一 Topic
:	:	:	:	

TopicType 要素

Topic は必ず TopicType 下位要素を持つ。TopicType 要素で Topic の種別を表す。1つの Topic が複数の TopicType 下位要素を持つ場合もある。Topic の種別は TopicType 要素の FormalName 属性に、Topic の種別のために用意された *controlled vocabulary* の値を設定することによって表す。

TopicType の例

```
<Topic Duid="topic.nskstdnewsinfomation">
  <TopicType FormalName="MetadataType" Scheme="IptcTopicType"/>
  <FormalName Scheme="NskMetadataType">NskMetadata</FormalName>
  <Description xml:lang="ja">N S K 拡張用メタデータ</Description>
</Topic>
```

Topic の種別のための *controlled vocabulary* には、IPTC の TopicType を記述した TopicSet ファイル(urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset:iptc-topictype)もしくは、このファイルを TopicSetRef でマージした TopicSet を使う。これらの *controlled vocabulary* の中にある Topic の種別は "TopicType" である。

urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset:iptc-topictype:1 の抜粋

```
<TopicSet Duid="newsmltopictypes" FormalName="TopicType">
  ...
  <!-- Topic の種別 "MediaType" を定義している -->
  <Topic Duid="TopicTypes.NewsML.MediaType">
    <TopicType FormalName="TopicType"/>
    <FormalName Scheme="IptcTopicType">MediaType</FormalName>
  </Topic>
```

Topic の種別に IPTC で定義した値を使用することによって、ある程度の自動的な処理が期待できる。例えば、"Person" の Topic の種別に属する Topic は人物データベースに、"Event" の Topic の種別に属する Topic はイベントデータベースに自動登録するシステムを作ることができる。

controlled vocabulary の場合は Topic の種別だけでなく、FormalName そのものも IPTC に定義した値を使用することによって、共通の制御を表すことができるものがある。Topic の種別が "Status", "NewsItemType" である Topic は、その例である。IPTC の FormalName に独自の意味を与えてはならない。もし、独自の制御を指定したい場合は、Topic を追加して、その FormalName を利用する。追加した Topic に対する制御は配信側と受信者側の間で事前に理解されている必要がある。

FormalName 要素

FormalName 要素は、Topic をポイントする際の名称を定義する。FormalName 要素は、Scheme 属性を持つことができる。NewsML には FormalName 要素と FormalName 属性があるので、注意が必要である。

FormalName 要素の Scheme 属性は任意の名前型(*naming scheme*)を定義して、これを FormalName に割り当てることができる。FormalName 要素の Scheme 属性は他の要素の Scheme 属性と仕様が異なるので注意が必要である。

(他の要素の Scheme 属性は、この FormalName 要素の Scheme 属性によって割り当てられた既存の名前型を指定するものである。これに対して FormalName 要素の Scheme 属性は名前型を作り出す。)

FormalName 要素の内容と、Scheme 属性値 の組み合わせは TopicSet の中で唯一(ユニーク)でなければならない。Topic 要素には複数の FormalName 下位要素を持つことができる。これにより複数の、FormalName と Scheme 属性値の組み合わせが1つの Topic をポイントすることもある。

FormalName 要素を複数持つ例

```
<Topic Duid="topic.nsk.kyodo">
  <TopicType FormalName="Provider" Scheme="IptcTopicType"/>
  <FormalName Scheme="NskProvider">NSK:Kyodo</FormalName>
  <FormalName Scheme="NskServiceId">KYODO NEWS</FormalName>
  <Description xml:lang="ja">共同通信社</Description>
</Topic>
```

[NskNewsML:1 記述形式]

	使用許可	備考
NewsML/TopicSet		
NewsItem/ TopicSet		TopicSet ファイルを作成するために使用する
NewsItem/NewsComponent/TopicSet		
TopicSet/@FormalName		
TopicSet/@Scheme		
TopicSet/@Vocabulary		
TopicSet/Topic		
Topic/TopicType		
Topic/FormalName		
Topic/FormalName/@Scheme		
Topic/Description		
Topic/Property	×	
TopicType/@FormalName		
TopicType/@Scheme		

コラム：“Topic は NewsML のキモ”

XML は要素の値を DTD では規定できません。属性値に関しては DTD で規定することも可能ですが、値を変更、追加するたびに DTD を変えなければなりません。

これらに対応するために XML スキーマの実装が待たれるところです。

要素という入れ物は用意したが、その用途となかに入っている値が各社ばらばらでは完全なデータ交換はできません。NewsML では、これを“かなり”回避するために値を規定する仕組みがあります。これを参照することにより、各社共通の値を使うことができます。

値を規定する為に使用するのが、**”Topic” (トピック)**です。

一つの事柄について、一つの”Topic”で表現します。

”Topic” (トピック) には、一つの事柄を表す値を示す FormalName 要素、内容の説明が記述されている Description 要素等が用意されており、NewsML 文書内で使用する要素や属性値の値とそれのもつ意味合いが規定できます。

NewsML が共通フォーマットとして機能するために用意された、”NewsML のキモ”です。この Topic を列挙してまとめたのが、**”TopicSet” (トピックセット)**です。

各要素や、属性ごとに使用できる値の範囲をまとめるなど、“セット”とすることで意味合いを持たせることができます。値の一覧として利用する場合には、これを正式には“Controlled Vocabulary”と呼びますがより一般的に**“ボキャブラリ”**と呼びます。

このボキャブラリを NewsML 文書内から、URL や URN によって参照する要素名が、**”Catalog” (カタログ)**です。

Catalog では、各要素ごとのボキャブラリを Resource 要素を使って参照先を記述します。また、この Catalog 自体を Href 属性を使って参照することもできます。この際に、必要な Resource 要素を全て集めて別ファイルとしたのが、**”マスターカタログ”**です。

常に NewsML 文書内に長い Catalog を書かないで済むのでデータが小さくなる、更新したいときも一つの”マスターカタログ”を変更すれば良いなどの利点があります。

また、利用社間において、同一のマスターカタログを使用すれば、より共通フォーマットとしての意味合いが強くなります。

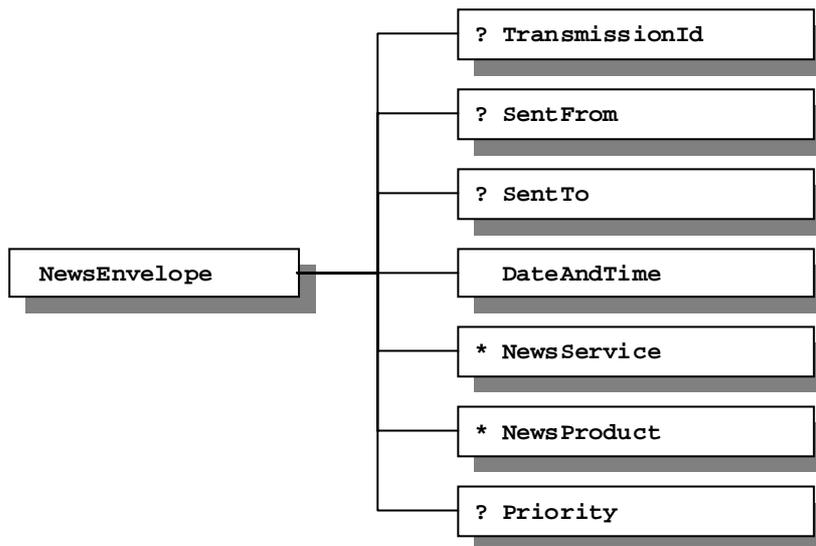
IPTC ではマスターカタログは NewsML の形を取っていますので、NskNewsML:1 も同じ形で使用することになりましたが、使用社の使いたい要素、ボキャブラリによってマスターカタログは異なるため、各社共通な万能マスターカタログは存在しません。

NskNewsML:1 では、マスターカタログを使用する場合は、利用社間で作成することを前提として、マスターカタログを作成するために利用可能な Resource 要素を列記するだけにしました。これをマスターカタログと区別するために、**“リソースセット”**と呼びます。

5.4 NewsEnvelope

NewsEnvelope 要素は NewsML 文書がどのようにしてビジネス・ワークフローやニュース配信社と受信社との契約関係で使われるかについての情報を記述するためのものであり、1つの NewsML 文書に必ず1つだけ存在する。この要素は最低限1つの **DateAndTime** 要素を含まねばならない。それに加えて、1つの **TransmissionId**、**SentFrom**、**SentTo**、**Priority**、1つ以上の **NewsProduct** 要素と **NewsService** 要素の両方またはいずれかを含んでもよい。

```
<!ELEMENT NewsEnvelope (TransmissionId? , SentFrom? , SentTo? , DateAndTime , NewsService* , NewsProduct* , Priority? )>
<!ATTLIST NewsEnvelope %localid; >
```



[NSK 解説]

NewsEnvelopeとは送信時刻や送信 ID、送信元、受信先など NewsML 文書全体の送受信に関わる情報を記述する場所であり、封筒の宛名の役目をする。

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsEnvelope 要素 ……

[例]

```
<NewsEnvelope>
  <TransmissionId>20010313provider0001:2+20010222:0001</TransmissionId>
  <SentFrom>
    <Party FormalName="A-COMPANY" />
  </SentFrom>
  <SentTo>
    <Party FormalName="B-COMPANY" />
  </SentTo>
  <DateAndTime>20010313T1500+0900</DateAndTime>
  <NewsProduct FormalName="NskNewsML:1" />
  <Priority FormalName="5" />
</NewsEnvelope>
```

</NewsEnvelope>

5.4.1 TransmissionId

TransmissionId は NewsML 文書伝送のための識別子である。この要素は同じ配信社からの異なった伝送すべてにおいて唯一でなければならない。もし(おそらく送信側が、受信がうまく行われたことに確信が持てないため)伝送が繰り返されたときは同じ内容の TransmissionId が使われてよいが、最初の伝送と二度目とを区別するために Repeat 属性を提供しなければならない。Repeat 属性の値がとる形式は配信社が決める。同様に TransmissionId 自体のフォーマットも配信社の決定事項である。たとえばチャンネル識別子の後にシーケンス番号が続くといった形式が考えられる。

```
<!ELEMENT TransmissionId (#PCDATA )>
<!ATTLIST TransmissionId %localid;
                Repeat CDATA #IMPLIED >
```

```
<TransmissionId Repeat="second attempt">abc123</TransmissionId>
```

[NSK 解説]

通信レベルの再送時は変更しなくてもよい。ユーザー要求による再送時は TransmissionId を変更するか、変更しない代わりに Repeat 属性をつける。同じ相手で TransmissionId が同じ場合は同じ NewsML ファイルが送られたことを示す。

TransmissionId を唯一にするために NewsItemId や PublicIdentifier を使用してはならない。NewsItemId や PublicIdentifier は NewsItem の識別子であり、伝送の識別子にはならないからである。例えば TransmissionId に NewsItemId を使用した場合、NewsItem の改版が起きると NewsItemId は変わらないが、TransmissionId は変更して送らないと TransmissionId の重複が発生する。よって使用してはならないのである。

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsEnvelope/TransmissionId 要素 …

5.4.2 SentFrom と SentTo

SentFrom 要素は、NewsML 文書を送信した 1 つ以上の組織を識別し、SentTo 要素はその文書を送られた 1 つ以上の組織を識別する。これら 2 つの内容モデルは party エンティティによって提供され、ニュース・ワークフローにおいて特定の役割を果たす個人、組織、企業を記述する。オプションの Comment 要素は、自然言語で非形式的な追加情報を提供する。Comment 要素はオプションとして xml:lang 属性と TranslationOf 属性を持つ。xml:lang 属性は XML 要素のコンテンツに使用される言語を識別する。これは XML 仕様書で定義されており、その値は ISO 言語コードでなければならない。TranslationOf 属性は、この Comment が直訳となる他の Comment 要素へのポインタである。

FormalName 属性、Vocabulary 属性、Scheme 属性を通して、party 要素は当該の組織である Topic を識別する。オプションの Topic 属性はその Topic への直接のポインタとして使用できる。そのポインタは http の URL 形式、または NewsML の URN 形式、または #記号の後に現行文書での Topic 要素の Duid 属性の値を続ける形をとる。

```
<!ENTITY % party " (Comment* , Party+ )">
<!ELEMENT SentFrom (%party;)>
<!ATTLIST SentFrom %localid; >
```

```

<!ELEMENT SentTo (%party;)>
<!ATTLIST SentTo %localid; >

<!ELEMENT Comment (#PCDATA)>
<!ATTLIST Comment %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                TranslationOf IDREF #IMPLIED >

<!ELEMENT Party EMPTY>
<!ATTLIST Party %localid;
                %formalname;
                Topic CDATA #IMPLIED >

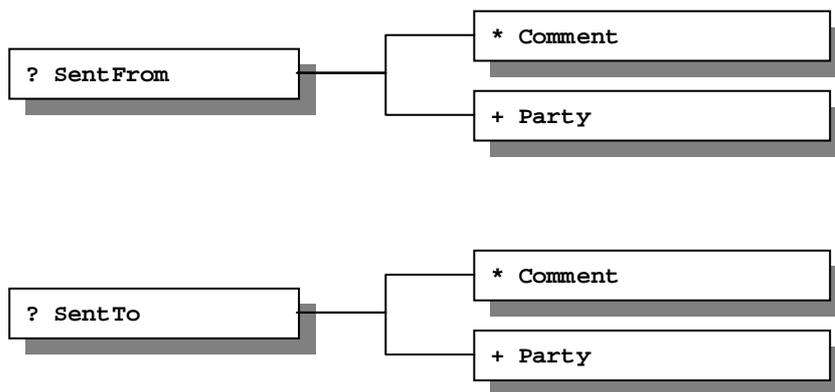
```

以下の例は、文書を送信しているPartyの、MyCompanyCodes *controlled vocabulary*におけるxyz *naming scheme*での形式名が、MYCODEであることを表している。Party要素のVocabulary属性は、MYCODEの意味を解析するために使用される *controlled vocabulary*を提供するTopicSetを識別する。

```

<SentFrom>
<Party FormalName="MYCODE" Scheme="xyz"
  Vocabulary="urn:newsml:mycompany.com:20010101:MyCompanyCodes:1"/>
</SentFrom>

```



[NSK 解説]

SentFrom/Party と SentTo/Party のボキャブラリは同じである必要はない。

[NskNewsML:1 記述形式]

Party のボキャブラリは新聞社・通信社間の場合、NSK オリジナルボキャブラリを推奨するが、配信社と受信社で決める。

- NewsEnvelope/SentFrom 要素 ……
- NewsEnvelope/SentFrom/Party 要素 …
- NewsEnvelope/SentTo 要素 ……
- NewsEnvelope/SentTo/Party 要素 …

```
<SentFrom>
  <Party FormalName="A-company" />
</SentFrom>
<SentTo>
  <Party FormalName="B-company" />
</SentTo>
```

5.4.3 DateAndTime

DateAndTime 要素は、伝送時の日付とオプションとしての時間を含む。これは、ISO 8601 フォーマットで規定されているとおり、日付は CCYYMMDD 形式で表現する。続けてオプションとして文字 T と現地時間を HHMMSS 形式、さらにオプションとして+、- に続けて現地時間と協定世界時(UTC)との時差を HHMM 形式で表現する。

```
<!ELEMENT DateAndTime (#PCDATA )>
<!ATTLIST DateAndTime %localid; >
```

以下の例は、このNewsItemは現地時間における 2000 年 10 月 6 日 14 時に送られたものであり、協定世界時(UTC)より 2 時間早いことを示している。

```
<DateAndTime>20001006T1400+0200</DateAndTime>
```

[NSK解説]

ISO8601の書式がすべて許されているのではなくCCYYMMDD形式のみである。オプションの時間はhhmmss形式のみで、協定世界時との時差はhhmm形式のみある。ユーザーが明示的に再送を要求したときには別の値となる。通信レベルでの再送については、同一の値にする。

[参考：ISO8601記述形式]

- ・ 暦日付(こよみひづけ)の完全表記： CCYYMMDD 例) 20010313
- ・ 地方時の時刻の下位省略表記： hhmmss 例) 150000
- ・ 地方時と協定世界時との差(時差)を付けた場合： ±hhmm 例) 150000+0900
- ・ 日付と時刻の組み合わせの表記： 時刻の先頭に文字“T”を指示記号として付ける。

ISO8601は、1988年に発行された国際規格で、この様式に沿って一部記述を追加したものがJIS X 0301として1992年に発行されている。

[NskNewsML:1記述形式]

NSKではつぎのいずれかの形式にする。日本時刻の協定世界時との差は+0900である。

CCYYMMDD

CCYYMMDDThhmmss±hhmm

NewsEnvelope/DateAndTime 要素 ……

5.4.4 NewsService と NewsProduct

NewsService 要素と NewsProduct 要素はそのパッケージが含まれているサービスやプロダクトを示している。複数の NewsService 要素と NewsProduct 要素が許可されている。FormalName 属性の値は、サービスまたはプロダクトの形式名である。その意味と許される値は、Vocabulary 属性と Scheme 属性で識別される *controlled vocabulary* により決定される。

```
<!ELEMENT NewsService EMPTY>
<!ATTLIST NewsService %localid;
                %formalname; >
<!ELEMENT NewsProduct EMPTY>
<!ATTLIST NewsProduct %localid;
                %formalname; >
```

以下の例は、スポーツ (SPORTS) サービス、一般情報 (GENERALINTEREST) サービスと、WebWire プロダクトに属するパッケージを表している。スポーツと一般情報という用語は、MyPressCompany's Services の *vocabulary* から引け、WebWire という用語は MyPressCompany's Products の *vocabulary* から引ける。

```
<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcPriority:1"
      <Urn>urn:newsml:mpc.com:20010101:MpcServices:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="NewsService"/>
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:mpc.com:20010101:MpcProducts:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="NewsProduct"/>
    </Resource>
  </Catalog>
  <NewsEnvelope>
    <DateAndTime>20001225T1200+0100</DateAndTime>
    <NewsService FormalName="SPORTS"/>
    <NewsService FormalName="GENERAL INTEREST"/>
    <NewsProduct FormalName="WebWire"/>
  </NewsEnvelope>
  ...
</NewsML>
```

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsEnvelope/NewsService 要素 ……

NewsEnvelope/NewsProduct 要素 …… で繰り返しなし

NskNewsML レベル 1 に沿った NewsML 文書であることを識別するために NewsProduct 要素を利用する。NewsProduct 要素は本来、省略可、繰り返しありだが、NSK ガイドラインでは で繰り返しなし。ボキャブラリは NSK オリジナルボキャブラリを使用する。

(例) <NewsProduct FormalName="NskNewsML:1"/>

NewsService 要素の FormalName 属性値とボキャブラリは各社自由。

5.4.5 Priority

Priority 要素は NewsItem の優先順位を示す。FormalName 属性の値はその優先順位の形式名である。その意味と許される値は、vocabulary 属性と scheme 属性で識別される *controlled vocabulary* によって決定される。

```
<!ELEMENT Priority EMPTY>
<!ATTLIST Priority %localid;
                %formalname; >
```

この例では、Priorityの値がIptcPriority *vocabulary*における「5」と宣言されている。

```
<Priority FormalName="5" Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcPriority:1"
Scheme="IptcPriority"></Priority>
```

[NSK 解説]

Priority 要素は送信の優先度を設定する場合に指定する。

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsEnvelope/Priority 要素 ……

FormalName のボキャブラリは IPTC のボキャブラリを使用する。FormalName 属性値は1 (高) ~ 5 (normal) ~ 8 (低) で、9はユーザー用である。

(例) <Priority FormalName="3" />

5.4.6 メタデータの割り当て

assignment エンティティは AssignedBy 属性、Importance 属性、Confidence 属性、HowPresent 属性、DateAndTime 属性からなる。

AssignedBy 属性はメタデータを割り当てている団体を識別する。それは非形式的に団体を示す文字列(たとえば人の名前)か、#記号に続いてその団体に対応する Topic の Duid 属性の値からなる *fragment identifier* 書式のポインタになり得る。

Confidence 属性はメタデータが割り当てられた信用度を示す。Importance 属性はその団体が割り当てたメタデータの重要性を示している。HowPresent 属性はメタデータを適用する方法を示している。これら3つの属性の値は形式名で、その意味は *controlled vocabularies* によって決められている。それ故、どこで使われるにしてもこれらの属性のそれぞれに適切な *default vocabularies* を宣言した Catalog が必要である。さらに、それぞれの *default vocabulary* における完全な用語の集合が、対応する属性に許される値の範囲を決定する。もし、*default vocabulary* が存在し、Catalog で示されたりソースが、NewsML の TopicSet であるならば、許される値の範囲は正確に TopicSet における Topic の集合であることに注意すべきである。

DateAndTime 属性は、メタデータが割り当てられた日付、(オプションとして)時間を示し、使用されるフォーマットは CCYYMMDDTHHMMSS±HHMM(世紀、年、月、日、時間区切り、時刻、分、秒、タイムゾーン区切り、時間、分)である。これは ISO 8601 で決められた標準フォーマットである。

```
<!ENTITY % assignment " AssignedBy CDATA #IMPLIED
                        Importance CDATA #IMPLIED
                        Confidence CDATA #IMPLIED
                        HowPresent CDATA #IMPLIED
                        DateAndTime CDATA #IMPLIED">
```

下記の例は、どのようにメタデータが割り当てられるかを明らかにするため、assignment属性の使用を示している。Catalogは、次のことを宣言している。「Confidence属性のためのデフォルト vocabularyは、IPTC confidence vocabularyにおけるIptcConfidence naming schemeであり、そのURNにより識別される。Importance属性のためのデフォルト vocabularyは、brs.comのウェブサイト上のimportance.xml vocabularyにおけるxyz naming schemeである。AssignedBy属性のためのデフォルト vocabularyは、Duid属性値がLocalTopicSetである現在の文書内のTopicSetにおけるcompanycode naming schemeである。」LocalTopicSetの値を持つTopicSetはただ1つのTopicを含み、そのTopicTypeはCompanyでIPTC topic types vocabularyのIptcTopicTypes naming schemeに定義されている。この会社は英語のDescriptionを通じ非形式的にBloomsbury Review Serviceと識別されているが、companycode naming schemeでBRSのFormalNameが与えられている。最終的に、記述メタデータ(descriptive metadata)は協定世界時 (UTC) の2000年12月31日正午にBRS (BRSは上記からBloomsbury Review Serviceとわかる) によって割り当てられ、重要度はbrs.comのウェブサイト上のimportance.xml vocabularyにおいてFormalNameがnormal (普通) と示され、信用度はIPTC confidence vocabularyでHigh (高い) と示されている。これらの設定は、要素・ツリーの下部で明確に再定義されない限り、DescriptiveMetadata要素の下位要素すべてに適用できる。

```

<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcConfidence:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcConfidence" Context="@Confidence"/>
    </Resource>
    <Resource>
      <Url>http://www.brs.com/vocabularies/importance.xml</Url>
      <DefaultVocabularyFor Scheme="xyz" Context="@Importance"/>
    </Resource>
    <Resource>
      <Url>#LocalTopicSet</Url>
      <DefaultVocabularyFor Scheme="companycode" Context="@AssignedBy"/>
    </Resource>
  </Catalog>
  <TopicSet Duid="LocalTopicSet">
    <Topic Duid="company1">
      <TopicType FormalName="Company" Scheme="IptcTopicTypes"
Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcTopicTypes:1" Scheme="IptcTopicTypes"/>
      <FormalName Scheme="companycode">BRS</FormalName>
      <Description xml:lang="en">Bloomsbury Review Service</Description>
    </Topic>
  </TopicSet>
  ...
  <DescriptiveMetadata AssignedBy="BRS" Importance="normal" Confidence="High"
DateAndTime="20001231T1200+0000">
  ...
  </DescriptiveMetadata>
  ...
</NewsML>

```

5.5 NewsItem の構造

NewsItem はイベントについて、ある時点での視点を表す管理された情報の集合である。NewsItem の Identification と NewsManagement 下位要素は情報の識別と管理をしやすいとする。さらに、NewsItem には1つの NewsComponent か、同じ NewsItem の前の版を修正した1つ以上の Update 要素、あるいは1つの TopicSet を含むことができる。

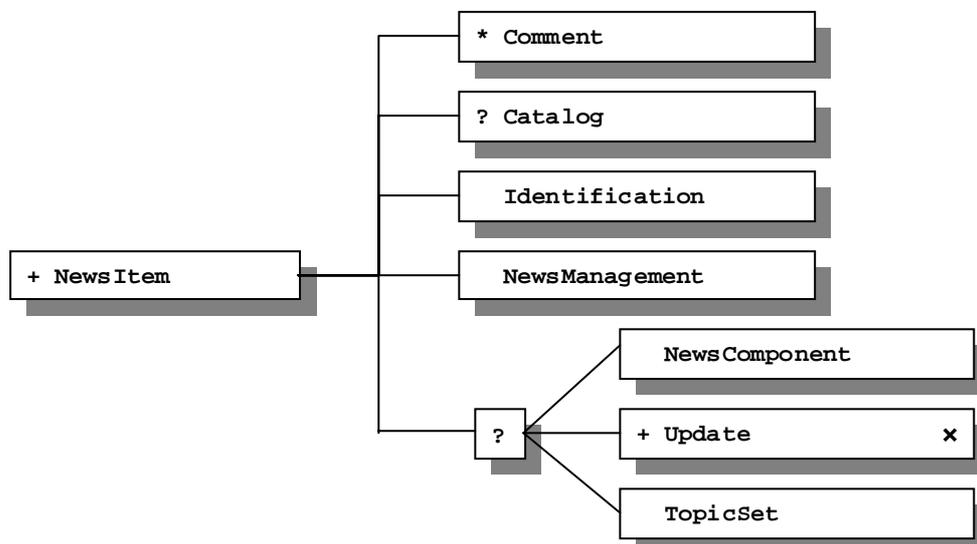
NewsItem に適用する Catalog は Catalog 下位要素に含まれるか、この文書内か他の文書内のどこかで記述されている Catalog 要素へのポインタを示す Catalog 下位要素のオプションの Href 属性によって参照される。

```

<!ELEMENT NewsItem ( Comment* , Catalog? , Identification , NewsManagement ,
    ( NewsComponent | Update+ | TopicSet )? )>
<!ATTLIST NewsItem %localid;
    xml:lang CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT Identification ( NewsIdentifier , NameLabel? , DateLabel? , Label* )>
<!ATTLIST Identification %localid; >

```



[NSK 解説]

NewsItem は、発行可能なニュース単位である。

[NskNewsML:1 記述形式]

NSK ガイドラインでは NewsItem を一つとする。

- NewsItem 要素
- NewsItem/Comment 要素
- NewsItem/Catalog 要素
- NewsItem/Identification 要素
- NewsItem/NewsManagement 要素
- NewsItem/NewsComponent 要素 ..
- NewsItem/Update 要素 x
- NewsItem/TopicSet 要素

Comment は変更箇所などのコメントを入れることができる。Update 要素は NskNewsML:1 では使用禁止。改版の情報に関しては「*****5.11 NewsItems への改版の発行」のコラムを参照。

5.5.1 NewsItem の識別 (NewsIdentifier)

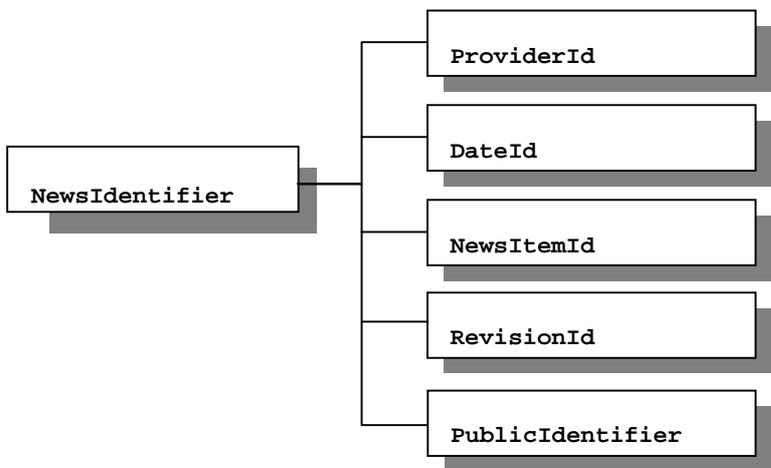
ビジネスのワークフロー上での移動や、場所の移動、システム間での移動があっても、NewsItem を識別することができなければならない。それゆえに NewsML において、NewsItem は世界で唯一の識別子

を NewsIdentifier 要素の書式で持つ必要がある。

NewsIdentifier は 4 つの component の要素 ProviderId、DateId、NewsItemId、RevisionId と、これら 4 つの component すべてを 1 本に結び付ける **PublicIdentifier** から成る。NewsItem における NewsIdentifier は、世界で唯一の識別子でなければならない。それゆえに、配信社は同じ ProviderId、DateId、NewsItemId、RevisionId を持つ 2 つの NewsItem がないことを保証しなければならない。もしも内容を変えたあとで NewsItem を再生成したら、それがわずかな変更であっても新たに RevisionId を新しい版に割り当てなければならない。

```
<!ELEMENT NewsIdentifier ( ProviderId , DateId , NewsItemId , RevisionId , PublicIdentifier )>
```

[ツリー図]



[NSK 解説]

NewsIdentifier 要素は NewsItem の識別子を表す。それは NewsItem がシステム間で移動やコピーを繰り返しても、その NewsItem を識別できるように世界で唯一のものでなければならない。同じ NewsIdentifier を持つ NewsItem があれば、それはまったく同じものである。配信社は同じ NewsIdentifier を持つ異なる NewsItem がないことを保証しなければならない。

NewsIdentifier 要素は配信社を識別する ProviderId 要素、日付を表す DateId 要素、NewsItem の識別子となる NewsItemId 要素、NewsItem の版を表す RevisionId 要素と、これら 4 つの要素の内容を 1 つにつなげた PublicIdentifier 要素から成る。

NewsItem の内容を変更した場合 RevisionId に新しい版を割り当てる。

[NskNewsML:1 記述形式]

- NewsIdentifier 要素
- NewsIdentifier / ProviderId 要素
- NewsIdentifier / DateId 要素
- NewsIdentifier / NewsItemId 要素
- NewsIdentifier / RevisionId 要素
- NewsIdentifier / PublicIdentifier 要素 ..

(例) NewsIdentifier の一般的な使用方法

```
<NewsIdentifier>
  <ProviderId>pressnet.or.jp</ProviderId>
  <DateId>20010426</DateId>
  <NewsItemId>ID0001</NewsItemId>
  <RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
  <PublicIdentifier>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010426:ID0001:1</PublicIdentifier>
</NewsIdentifier>
```

```
<!ELEMENT NewsIdentifier (ProviderId , DateId , NewsItemId , RevisionId, PublicIdentifier)>
```

5.5.1.1 ProviderId

ProviderId 要素の内容は、DateId 要素で識別される日付に配信社が保持しているドメイン名か、Vocabulary 属性で分類された URN で識別される *controlled vocabularies* から書き出された配信社名でなければならない。NewsIdentifier が完全であれば正確に配信社を識別できる。

```
<!ELEMENT ProviderId (#PCDATA)>
<!ATTLIST ProviderId Vocabulary CDATA #IMPLIED >
```

この例では、配信社は International Press Telecommunications Council で、その ProviderId は DateId によって識別される日に、その配信社が保持しているドメイン名である。

```
<ProviderId>iptc.org</ProviderId>
<DateId>20001005</DateId>
```

[NSK 解説]

ProviderId 要素は NewsItem を発行した配信社を識別する。それは DateId で示される日付において、その配信社の正式なドメイン名でなければならない。IPTC では機能仕様書には 2 種類の方法が記述されているが、現状では IPTC 自身がドメイン名の使用を推奨している。

[NskNewsML:1 記述形式]

ProviderId 要素 ………

ProviderId/@Vocabulary ×

ドメイン名を使うこととする。

(例) ProviderId の一般的な使用例

```
<ProviderId>pressnet.or.jp</ProviderId>
```

5.5.1.2 DateId

DateId は ISO8601 の標準フォーマット(CCYYMMDD)の日付で、CCYY は 4 桁の年、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日である。DateId は NewsItem を形式的に識別する部分なので、同じ NewsItem の連続したレビジョンを通して同じでなければならない。これは、現在のレビジョンをリリースした日付を表したものではない。

```
<!ELEMENT DateId (#PCDATA )>
```

この例では、2000年10月6日という日付は、そのNewsItemが最初に作られた日でも、そうでなくてもよい。必要条件是、ProviderIdがドメイン名ならば、その日付は配信社がそのドメイン名を保持している日の日付でなければならないということと、そのDateIdはこのNewsItemのすべての改版を通じて変えないということだけである。

```
<DateId>20001006</DateId>
```

[NSK 解説]

DateId は NewsItem を識別するための日付を表す。この要素は日単位で NewsItemId を唯一にするための日付である。

DateId は NewsItem の識別子の一部なので、NewsItem の内容を変更し改版しても前のものと同じでなければならない。

[NskNewsML:1 記述形式]

DateId 要素 ..

記述形式は ISO8601 の標準フォーマット(CCYYMMDD)で、CCYY は 4 桁の年、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日である。

(例) DateId の一般的な使用例

```
<DateId>20010426</DateId>
```

5.5.1.3 NewsItemId

NewsItemId は、NewsItemの識別子である。同じ配信社から発するNewsItemの間で、NewsItemId と DateId の組み合わせは、唯一でなければならない。この条件を満たせば、NewsItemId は配信社が望む通りの形式をとることができる。NewsItemの名前は人が見て意味のある形式をとることができるが、これは必要条件ではない。

配信社は、オプションとしてNewsItemIdの値を Vocabulary 属性に呼び出される *controlled vocabulary*に関連づけてもよい。Vocabulary 属性の値は、httpのURL形式、またはNewsMLのURN形式、または#記号の後にその文書中にあるTopic要素のDuid属性の値を続ける形をとる。Scheme属性が存在すれば、それは*controlled vocabulary*においてとり得る複数の*naming scheme*のうち、NewsItemIdを制御するものを区別するのに役立つ。

```
<!ELEMENT NewsItemId (#PCDATA )>
<!ATTLIST NewsItemId Vocabulary CDATA #IMPLIED
           Scheme CDATA #IMPLIED >
```

```
<NewsItemId>IPTC approves NewsML 1.0</NewsItemId>
```

[NSK 解説]

NewsItemId は NewsItem の識別子である。それは同じ ProviderId で識別される配信社が発行した NewsItem の中で DateId が示す日付ごとに唯一なものでなければならない。

自由形式で記述できるが、使える文字に制限があることに注意すること。(5.5.1.5PublicIdentifier の項参照)

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsItemId 要素 …

(例) NewsItemId の一般的な使用例

```
<NewsItemId>ID0001</NewsItemId>
```

5.5.1.4 RevisionId

RevisionId は、これがNewsItemのどの版であるかについて示す正整数である。いかなる正整数でも使うことができるが、常に気をつけなければならないのは、同じ ProviderId、DateId、NewsItemId を持つ2つのNewsItemのうち、RevisionId 値が大きい方が最新版でなければならないということである。「0」の RevisionId は許されない。PreviousRevision 属性は存在しなければならない。その値は、NewsItemの前の版があればその RevisionId 要素の内容と等しく、前の版がなければ「0」でなければならない。NewsItem が1つあるいは複数の Update 要素を含むならば、Update 属性には「U」がセットされなければならない。NewsItem が NewsManagement データの置き換えセットだけからなるならば、Update属性は「A」にセットされなければならない。これらのどちらのケースでもない場合は、Update 属性は「N」にセットされなければならない。

```
<!ELEMENT RevisionId (#PCDATA )>
<!ATTLIST RevisionId PreviousRevision CDATA # REQUIRED
Update CDATA # REQUIRED >
```

この例では、現在の版番号は「1」であり、前の版はない。

```
<RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
```

この例では、現在の版番号は「2」であり、前の版番号は「1」であった。

```
<RevisionId PreviousRevision="1" Update="N">2</RevisionId>
```

下の例では、RevisionId 要素のUpdate属性の値が「U」であることは、NewsItemが1つあるいは複数のUpdate要素を含むことを示す。そして、それは前の版を修正するのに役立つ。現在の版番号は20001023であり、前の版番号は20001005であった。PreviousRevisionの値が連続している必要がないことに注意すること。必要条件は同じNewsItemの前のどの版の数字よりも値が大きくなければならないということだけである。

```
<RevisionId PreviousRevision="20001005" Update="U">20001023</RevisionId>
```

[NSK 解説]

RevisionId は NewsItem がどの版であるかを示す正の整数である。

NewsItem を改版する場合は、ProviderId、DateId、NewsItemId は元のままとし、RevisionId の値を以前のものより大きくする。同じ ProviderId、DateId、NewsItemId を持つ2つの NewsItem があるならば、RevisionId の大きい方が最新の版である。

PreviousRevision 属性値は NewsItem の前の版 (RevisionId の値) を表す。最初の版では「0」に設定する。

Update 属性は通常「N」に設定する。NewsItem の NewsManagement 情報のみを変更する場合 Update 属性は「A」に設定し、RevisionId はもとのままにする。この場合、NewsComponent を付加してはいけない。

NewsItem に Update 要素が含まれる場合「U」に設定される。

[NskNewsML:1 記述形式]

RevisionId 要素

RevisionId/@PreviousRevision ..

RevisionId/@Update

Update 属性値は「N」か「A」のみである。（「U」は [NskNewsML:1]では使用禁止）

すでに発行されている NewsItem の NewsManagement の情報のみを変更する場合（Status の変更など）に「A」を利用する。この場合は指定された版の NewsItem の NewsManagement 情報に直接反映される。

（例）Update 属性が「N」の使用例

- ・初版（前の版がない）の場合

```
<RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
```

- ・現在の版が「2」で前の版が「1」の場合

```
<RevisionId PreviousRevision="1" Update="N">2</RevisionId>
```

（例）Update 属性が「A」の使用例

以下の例はすでにある NewsItem をキャンセル（Canceled）することを表す。

このとき PublicIdentifier に A が付加されていることに注意すること。

Status の意味と記述形式は Status の項を参照。

```
<NewsML>
  . . .
  <NewsItem>
    <NewsIdentifier>
      . . .
      <RevisionId PreviousRevision="0" Update="A">1</RevisionId>
      <PublicIdentifier>urn:newsml:prennnet.or.jp:20010426:ID0001:1A</PublicIdentifier >
    </NewsIdentifier>
    <NewsManagement>
      . . .
      <Status FormalName="Canceled"/>
    </NewsManagement>
  </NewsItem>
</NewsML>
```

5.5.1.5 PublicIdentifier

XML1.0 の仕様によって定義される意味で、PublicIdentifier 要素は、NewsItem のために *public identifier* を用意する。これは、NewsItem のために以下のような URN の形式をとる：

urn:newsml:{ProviderId}:{Dateld}:{NewsItemId}:{RevisionId}{RevisionId@Update}

ここで{x}は「NewsIdentifierのx下位要素の内容」を意味する。{x@y}は「NewsIdentifierのx下位要素のy属性の属性値を意味する。例外として、RevisionId要素のUpdate属性がNのデフォルト値を持つ場合、URNから省かれる。

URNの中に含むことができる文字セットが制限される点に注意しなさい。許される文字は、IETF (Internet Engineering Task Force) が指定したもので、そのRTF (Request for Comments) 2141 番に示されている。この文書は、<http://www.ietf.org/rfc/rfc2141.txt> で手に入る。URN文字セットに認められた文字セットにない文字は、%記号にUTF-8エンコーディングの1~6バイトのシーケンスを続けて表さなければならない。16進の形式をとる。例えば、URNの中のスペース文字は「%20」、%記号自体は「%25」として現れる。このメカニズムがすべてのユニコードまたはUTF-16文字を満たすわけではない。従って、UTF-8でコード化できない文字をNewsItemIdに含まないことは重要である。

このURNの存在によりNewsItemが、他のXML要素またはリソースからポインタによって明確に参照づけられることでできる点に注意しなさい。そのようなポインタ内でRevisionId、その前の「:」記号、その次のUpdate属性の記述が省略されたら、ポインタは解析された最新の版を示す。

```
<!ELEMENT PublicIdentifier (#PCDATA )>
```

NewsIdentifierの以下の例は、RevisionId要素のUpdate属性が値「N」を持つ場合に、PublicIdentifierがとる形式を示す。NewsItemの内容は1つのNewsComponentか1つのTopicSetで、Updateの集合ではないことを示している。

```
<NewsIdentifier>
  <ProviderId>iptc.org</ProviderId>
  <DatId>20001006</DatId>
  <NewsItemId>NewsML Approved</NewsItemId>
  <RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
  <PublicIdentifier>urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsML%20Approved:1</PublicIdentifier>
</NewsIdentifier>
```

URNのスペース文字は、%記号にスペースのための16進の文字コード(20)を続けて表さなければならないので、NewsItemId要素の内容のスペースは、PublicIdentifier要素の内容において%20となることに注意する。

下記の例では、RevisionId要素のUpdate属性は値「U」を持ち、NewsItemの内容は1つ以上のUpdateの集合であることを示している。

```
<NewsIdentifier>
  <ProviderId>iptc.org</ProviderId>
  <DatId>20001006</DatId>
  <NewsItemId>i123</NewsItemId>
  <RevisionId PreviousRevision="20001005" Update="U">20001023</RevisionId>
  <PublicIdentifier>urn:newsml:iptc.org:20001006:i123:20001023U</PublicIdentifier>
</NewsIdentifier>
```

この例では、RevisionIdとPreviousRevisionの値が連続していないが、現在の改訂番号はそれでもその改訂番号よりも大きい点に注意すること。ニュース配信社が1から始まる連続した数字よりむしろ改訂値を産み出すために、日付を使う方を選んだように見える。これは完全に認められる方法である。

このNewsItemを受け取る際、Updateによって示された変化を反映する完全なNewsItemを生成するために、システムはUpdate指示をNewsItemの前の改訂に適用しなければならない。この結果、NewsItemは以下のNewsIdentifierを持つことになる。そこにおいて、RevisionId要素のUpdate属性は値「N」を持ち、アップデートを示す文字はPublicIdentifierの文字列の終わりから省かれる。

```
<NewsIdentifier>
  <ProviderId>iptc.org</ProviderId>
```

```
<DateId>20001006</DateId>
<NewsItemId>i123</NewsItemId>
<RevisionId PreviousRevision="20001005" Update="N">20001023</RevisionId>
<PublicIdentifier>urn:newsml:iptc.org:20001006:i123:20001023</PublicIdentifier>
</NewsIdentifier>
```

最後に、RevisionID を全く指定しない URN のポインタが、参照が解析されたときに、NewsItem の最新版が何であろうともそれを指し示すということに注意しなさい。それ故、urn:newsml:iptc.org:20001006:i123 の文字列は、今の例で NewsItem の現在の改訂が何であれそれを示す。

[NSK 解説]

PublicIdentifier 要素は NewsItem の公開識別子を表し、他の NewsML から参照する際に使用される重要な要素である。

これは以下のような URN 形式で ProviderId、DateId、NewsItemId、RevisionId、RevisionId の Update 属性値をつなげ合わせたものである。

```
urn:newsml:{ProviderId}:{DateId}:{NewsItemId}:{RevisionId}{RevisionId@Update}
```

RevisionId 要素の Update 属性が「N」の場合、URN から省かれることに注意しなければならない。

この NewsML URN により他の NewsML 文書から NewsItem を参照することが可能である。その際 RevisionId の直前の「:」記号以降がすべて省略された場合には、参照される NewsItem の最新版を示すことになる。

NewsML URN 補足

NewsML URN の NID (ネームスペース識別子、ここでは newsml) は IANA に認められ、RFC2611 で公表されている。そして URN は RFC3085 (<http://www.ietf.org/rfc/rfc3085.txt>) に示されている。

[NskNewsML:1 記述形式]

PublicIdentifier 要素

(例) PublicIdentifier の標準的な記述例

```
<NewsIdentifier>
  <ProviderId>pressnet.or.jp</ProviderId>
  <DateId>20010426</DateId>
  <NewsItemId>ID0001</NewsItemId>
  <RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
  <PublicIdentifier>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010426:ID0001:1</PublicIdentifier>
</NewsIdentifier>
```

(例) NewsML URN を利用した NewsItem の参照例

・ 版を指定して参照する例

```
<DerivedFrom NewsItem="urn:newsml:pressnet.or.jp:20010426:ID0001:1"> . . . </
DerivedFrom >
```

DerivedFrom の意味と記述形式は DerivedFrom の項を参照。

- ・最新版を参照する例

```
<AssociatedWith NewsItem="urn:newsml:pressnet.or.jp:20010426:ID0001"> . . .
</AssociatedWith>
```

AssociatedWith の意味と記述形式は AssociatedWith の項を参照。

NewsML URN に使える文字の補足

URN の中に含むことの出来る文字には制限がある。それは IETF によって RFC2141 (<http://www.ietf.org/rfc/rfc2141.txt>) で示されている。

使用できる文字には以下の文字がある。

- ・ A-Z、a-z、0-9、
- ・ "("、")"、"+"、","、"-",".",":","="、"@",";","\$","_","!","*","'"

これ以外の文字を使用する場合、UTF-8エンコーディングされた1～6バイトの文字を%記号のあとに16進文字(0-9、A-F)を続けて表す。例えば、スペース文字は「%20」、%記号自体は「%25」として表す。この機構がすべてのユニコードまたはUTF-16の文字を満たすわけではない。従ってUTF-8でコード化できない文字をNewsItemIdで使用してはいけない。

(例) NewsItemId に URN で使用できない文字が含まれる場合の記述例

(スペース文字が含まれる場合)

```
<NewsIdentifier>
  <ProviderId>pressnet.or.jp</ProviderId>
  <DateId>20010426</DateId>
  <NewsItemId>NSK NewsML Level1</NewsItemId>
  <RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
  <PublicIdentifier>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010426:NSK%20NewsML%20Level1:1</Public
Identifier>
</NewsIdentifier>
```

5.5.2 非形式識別子

上で記述した形式的な識別メカニズムに加えて、NewsML は NewsItem を識別するために人間のユーザーによって使用することができる一連の Label 要素を提供する。NewsML システムに関する限り、これらは任意のストリングで、強力な識別メカニズムの提供はあてにできない。それらの唯一の目的は、非形式の交換および通信に、あるいはユーザー・インターフェースの一部として人間が特別の NewsItem を識別するべく、便利な方法を提供することである。

5.5.2.1 NameLabel

NameLabel 要素は、NewsItem の識別を支援するための名前として、人間のユーザーが使用するストリングを含んでいる。その形式は、配信社によって決定される。例えば、それは slugLine 要素の原文の内容と同じかもしれないが、たとえそうであるとしても、システムは slugLine として NameLabel を処理してはならない。それが人間による NewsItem の識別を支援することができるという事実を越えて、NameLabel 内のストリングの性質に関して何も想定することができない。

```
<!ELEMENT NameLabel (#PCDATA )>
<!ATTLIST NameLabel %localid; >
```

```
<NameLabel>IPTC approves NewsML 1.0</NameLabel>
```

5.5.2.2 DateLabel

DateLabel 要素は、日付の文字列表現を含む。ラベルの目的がユーザーに便利なことであるので、ISO 標準の日付形式には必ずしも従わなくてよい。

```
<!ELEMENT DateLabel (#PCDATA )>
<!ATTLIST DateLabel %localid; >
```

```
<DateLabel>6 October 2000</NameLabel>
```

5.5.2.3 Label

Label 要素は、**LabelType** と **LabelText** 下位要素からなり、**NewsItem** のための、オプションの読みやすいラベルである。**LabelText** は、特定の **LabelType** の **Label** を構成するテキストである。**LabelType** はユーザーが定義するタイプのラベルである。**FormalName** 属性の値はラベル・タイプのための形式的な名前である。その意味および設定値は、**vocabulary** と **scheme** 属性によって識別された *controlled vocabulary* により決定される。

```
<!ELEMENT Label (LabelType, LabelText)>
<!ATTLIST Label %localid; >

<!ELEMENT LabelType EMPTY>
<!ATTLIST LabelType %localid;
                %formalname; >

<!ELEMENT LabelText (#PCDATA)>
<!ATTLIST LabelText %localid; >
```

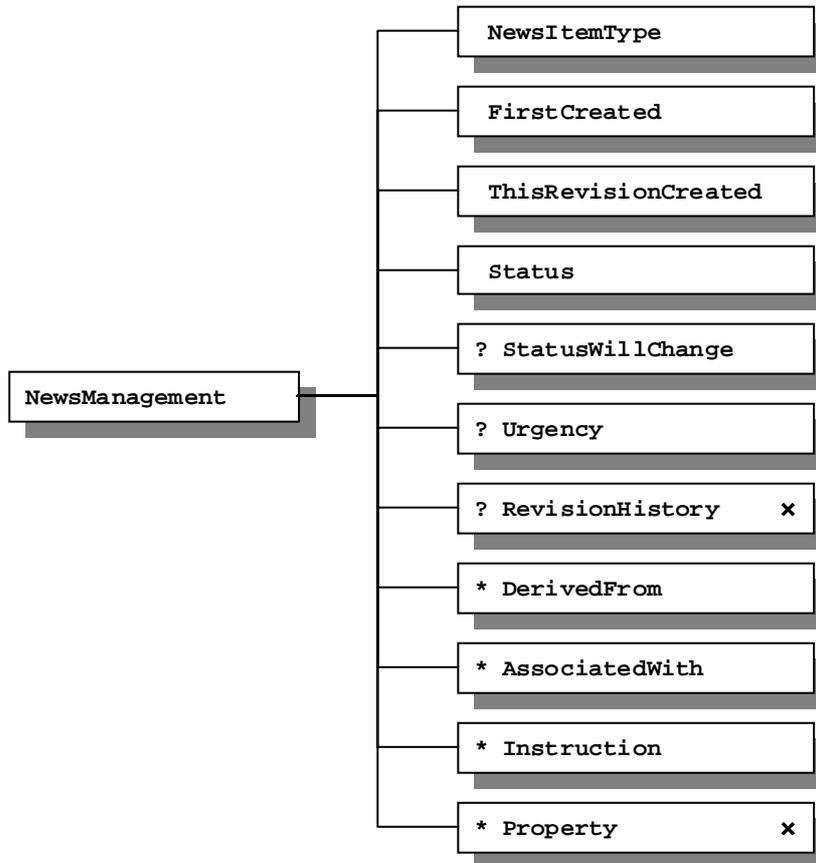
```
<Label>
  <LabelType FormalName="ShortRef"
  Vocabulary="urn:newsml:mydomain.com:20001006:MyLabelTypes:1" Scheme="labeltypes"/>
  <LabelText>NewsMLv1.0</LabelText>
</Label>
```

5.6 NewsManagement

NewsManagement 要素は、**NewsItem** のタイプ、情報、履歴、ステータス、他の **NewsItem** との関係、適用されるべき特別の指示や追加のプロパティなど **NewsItem** の管理に関連する情報を与える。

```
<!ELEMENT NewsManagement (NewsItemType , FirstCreated , ThisRevisionCreated ,
  Status , StatusWillChange? , Urgency? , RevisionHistory? , DerivedFrom* ,
  AssociatedWith* , Instruction* , Property* )>
<!ATTLIST NewsManagement %localid; >
```

[ツリー図]



[NSK解説]

NewsManagement 要素は、**NewsItem**ごとの管理情報を表す。ニュースやデータなどであるかを表す種類 (**NewsItemType**)、最初に作成された日時 (**FirstCreated**) やこの Revision が作成された日時 (**ThisRevisionCreated**)、利用可否を示すステータス (**Status**)、緊急度 (**Urgency**)、派生元 **NewsItem** (**DerivedFrom**)、関連する **NewsItem** (**AssociatedWith**) などを表す情報を含む。

NewsItem/Identification/NewsIdentifier/RevisionId の update 属性値が「A」のときは、**NewsManagement** 内の情報の書き換えを意味することに注意。(「Updateの方法」参照)

[NskNewsML:1記述形式]

- NewsManagement** 要素
- NewsItemType** 要素
- FirstCreated** 要素
- ThisRevisionCreated** 要素
- Status** 要素
- DerivedFrom** 要素
- AssociatedWith** 要素

RevisionHistory要素 …………… x
Property要素は…………… x

(例)

```
<NewsManagement>  
  <NewsItemType FormalName="News" />  
  <FirstCreated>20010424T150100+0900</FirstCreated>  
  <ThisRevisionCreated>20010424T210100+0900</ThisRevisionCreated>  
  <Status FormalName="Usable" />  
  <Urgency FormalName="5" />  
  <DerivedFrom  
    NewsItem="urn:newsml:provider.or.jp:20010312:0001:2">  
    <Comment>第2報</Comment>  
  </DerivedFrom>  
  <AssociatedWith  
    NewsItem="urn:newsml:provider.or.jp:20010313:P0001:1">  
    <Comment>記事併用写真</Comment>  
  </AssociatedWith>  
</NewsManagement>
```

5.6.1 NewsItemType

NewsItemType 要素は、NewsItem のタイプを指定する。FormalName 属性の値は、ニュース-アイテム・タイプのための形式的な名前である。その意味と許される値は、Vocabulary 属性と Scheme 属性によって識別される *controlled vocabulary* により決定される。

```
<!ELEMENT NewsItemType EMPTY >  
<!ATTLIST NewsItemType %localid;  
           %formalname; >
```

```
<NewsItemType FormalName="News"  
Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:iptcNewsItemTypes:1"  
Scheme="IptcNewsItemTypes"/>
```

[NSK 解説]

NewsItemType 要素は、NewsItem の種別を示す。

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsItemType 要素……

NewsItemType の値とその意味

1) News

TopicSet の訳：記事、写真、ビデオ、音声レポートなど、ニュースイベントの基本的な報道内容

2) Data

TopicSet の訳：通常、編集者が編集したり、修正したりすることのない非叙述情報、あるいは配信社によって第三者からユーザーへ機械的に流される情報。たとえば、スポーツの試合結果や株価など。

3) Advisory

TopicSet の訳：編集連絡や配信予定などのニュースイベントに関連した外部には出さない情報

受信したシステム以降へ流れるべきものではない。

4) Maintenance

TopicSet の訳：NewsML を送受信するシステムの通信経路（チャンネル）に関するシステムからシステムへのメッセージ

5) TopicSet

TopicSet の訳：NewsML で外部参照する、コントロールド・ボキャブラリ（TopicSet ファイル）を単独で送る場合に使用する。

6) DTD（IPTC のみが利用する）

TopicSet の訳：XML ドキュメントの DTD(文書型定義)を送る場合に使用する。

7) Document（IPTC のみが利用する）

TopicSet の訳：ニュースではない文書

8) Catalog

TopicSet の訳：NewsML で外部参照する、Resouc エlement と TopicUse エlement の入った Catalog ファイルを単独で送る場合に使用する。

9) Alert

TopicSet の訳：重要な突発的なニュースについての事前の警告メッセージ。

(例) <NewsItemType FormalName="News"/>

5.6.2 FirstCreated

この必須の要素は NewsItem が最初に作られた日付と、オプションとして時間を、ISO 8601 標準フォーマットで示す。

```
<!ELEMENT FirstCreated (#PCDATA)>
<!ATTLIST FirstCreated %localid; >
```

この例は NewsItem が最初に作られた日が、ローカル時間で2000年10月6日14時で、協定世界時(UTC)より2時間進んでいることを示している。

```
<FirstCreated>20001006T1400+0200</FirstCreated>
```

[NSK 解説]

FirstCreated とは、この NewsItem の最初の Revision (5.5.1.4RevisionId 参照) が作成された日付情報を示す要素である。

年月日は必須だが、時間はオプションである。

[NskNewsML:1 記述形式]

FirstCreated 要素 ..

5.6.3 ThisRevisionCreated

この必須の要素は `NewsItem` が改訂された日付と、オプションとして時間を、ISO 8601 標準フォーマットで示す。

```
<!ELEMENT ThisRevisionCreated (#PCDATA)>
<!ATTLIST ThisRevisionCreated %localid; >
```

下の例は、`NewsItem`のこの版がローカル時間で2000年10月6日16時15分に作られ、協定世界時(*UTC*)より2時間進んでいることを示している。

```
<ThisRevisionCreated>20001006T1615+0200</ThisRevisionCreated>
```

[NSK 解説]

`ThisRevisionCreated` とは、この `Revision` の `NewsItem` が作成された日付情報を示す要素である。年月日は必須だが、時間はオプションである。

[NskNewsML:1 記述形式]

`ThisRevisionCreated` 要素 .

5.6.4 Status

この必須の要素は、`NewsItem`の現在のステータスを示す。`FormalName`属性の値は、ステータスのための形式的な名前である。その意味および許可される値は、`Vocabulary`属性と`Scheme`属性によって識別される *controlled vocabulary*によって決定される。

```
<!ELEMENT Status EMPTY >
<!ATTLIST Status %localid;
               %formalname; >
```

```
<Status Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcStatus:1" Scheme="IptcStatus"
FormalName="Embargoed"/>%formalname; >
```

[NSK解説]

`status`要素は`NewsItem`が利用可能かどうかを示す。

IPTCボキャブラリの値と意味は以下の通り。

1) Usable (公開可能)

この版の `NewsItem` を利用して良い。

2) Canceled (公開取消)

既に送られたこの版の `NewsItem` を公開取り消しする場合に使用する。

この場合、既に送った `NewsItem` の `RevisionId` の値が同じで `Update` 属性が "A" とした上で、`status` 値を "Canceled" とする。

"Canceled" の場合、`NewsComponent` は付けない (`Update` の項参照) 。

3) Embargoed (公開待機)

この版のNewsItemは公開待ちとする。

この値は、StatusWillChangeと併せて使用されることが考えられる。公開待機期間(後日、公開予定)のニュースは、Statusを"Embargoed"とし、StatusWillChangeで公開日時を指定する使い方がある。

公開の予定(ステータス変化する予定)が立っている場合に利用される。

4) Withheld (公開未定)

この版のNewsItemの公開は未定である。

NewsItem(の情報)が不正確であるときや、法的問題となる可能性がある場合に利用される。"Withheld"のNewsItemを受けても、(送信元から)何らかのフォローがあるとは限らない。

[NskNewsML:1記述形式]

Status要素 ..

ボキャブラリはIPTCのボキャブラリを使用する。

配信済みのNewsItemの状態を変更する方法については「Updateの方法」参照。

5.6.5 StatusWillChange

オプションの statusWillChange 要素は、指定された日時に自動的に起こるステータス変化の事前通知を行う。StatusWillChange 中の必須の FutureStatus 要素は、NewsItem が将来の指定日時に持つステータスを示す。FormalName 属性の値は、ステータスのための形式的な名前である。その意味と許される値は、Vocabulary 属性と Scheme 属性によって識別される *controlled vocabulary* によって決定される。必須の DateAndTime 要素は、ISO 8601 標準フォーマットを用い、ステータス変化が起きる日時を示す。例えば「embargoed (公開待機)」Status の NewsItem は、StatusWillChange 要素を持つことにより指定された時間に「usable (公開可能)」になる。これは公開待機が終わり、NewsItem がリリースされる時間を、事前にアナウンスすることに相当する。

```
<!ELEMENT StatusWillChange ( FutureStatus , DateAndTime )>
<!ATTLIST StatusWillChange %localid; >

<!ELEMENT FutureStatus EMPTY >
<!ATTLIST FutureStatus %localid;
                    %formalname; >
```

以下の例では、NewsItemがその生成時には公開待機(embargoed)だったのが、UTC時間の2000年7月7日12時に公開可能(usable)になることを示している。NewsItemのステータスの変更は、ニュース配信社内のローカルなイベントではなく、グローバルなイベントであることに留意すること。なぜならばそのNewsItemはグローバルな識別子を持ち、そのステータスは世界中で適応されるからである。

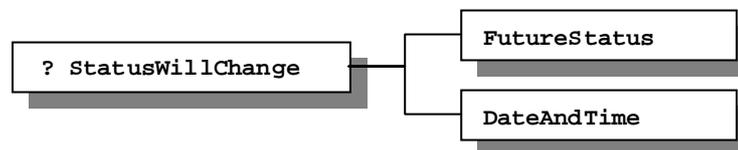
```
<Catalog>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:iptcStatus:1</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcStatus" Context="Status|FutureStatus"/>
  </Resource>
</Catalog>
...
<Status FormalName="Embargoed"/>
<StatusWillChange>
```

```
<FutureStatus FormalName="Usable"/>
<DateAndTime>20000707T1200+0000</DateAndTime>
</StatusWillChange>
```

2つのDefaultVocabularyFor要素が、XPathの文法を代替パターンでマッチングするのに使用することにより、1つに結合されていることに注目すること。以下の例において、DefaultVocabularyFor要素で表現されているのは、IPTC status vocabularyを「要素名 = Statusまたは要素名 = FutureStatus」のパターンにマッチするあらゆるデータに適用するということである。

```
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:iptcStatus:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcStatus" Context="Status|FutureStatus"/>
</Resource>
```

[ツリー図]



[NSK解説]

statusWillChange要素は指定日時に指定ステータスに変更することを示す。

例えば、公開禁止期間(後日、公開予定)のニュースを先に提供する場合に、公開日時をこの要素で指定する。

ステータス変更時刻以降、該当する版のNewsItemをurnなどで呼び出した場合、ステータスの変更が反映されたNewsItemを示す。

[NskNewsML:1記述形式]

StatusWillChange 要素

FutureStatus のボキャブラリは status と同じく IPTC のボキャブラリを使用する。また、DateAndTime は、5.4.3 DateAndTime に準じる。

5.6.6 Urgency

オプションのUrgency要素はNewsItemの緊急性を示す。FormalName属性の値は緊急度を示す形式名である。その意味と許される値は、Vocabulary属性及びScheme属性によって識別される controlled vocabularyによって決定される。

```
<!ELEMENT Urgency EMPTY>
<!ATTLIST Urgency %localid;
               %formalname; >
```

```
<Urgency Vocabulary="urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcUrgency:1" Scheme="IptcUrgency"
```

```
FormalName="1"/>
```

5.6.7 RevisionHistory

オプション(0回もしくは1回出現)のRevisionHistory要素は、NewsItemの改訂履歴(revision history)を含むファイルへのポインタを示す。このポインタはHref属性によって示される。配信社はこのファイルをどのような文章や構造でも使用して好きなように表現すればよい。

```
<!ELEMENT RevisionHistory EMPTY>
<!ATTLIST RevisionHistory %localid;
                Href CDATA #REQUIRED >
```

この例では、NewsItemの改訂履歴についての情報は、NewsItem自体を入れたディレクトリのhistoryサブディレクトリ内のrev_1376.logファイルにあることが示されている。

```
<RevisionHistory Href="../history/rev_1376.log"/>
```

5.6.8 DerivedFrom

オプションで反復可能(0回以上出現)のDerivedFrom要素はこれがどのNewsItemから派生したかのポインタを示す。NewsItem属性によって関連するNewsItemを示し、属性値はhttp URLか、NewsML URNが使用できる。その由来を示すのにオプションでCommentが使える。

```
<!ELEMENT DerivedFrom (Comment*)>
<!ATTLIST DerivedFrom %localid;
                NewsItem CDATA #IMPLIED >
```

この例では、現在のNewsItemがどのNewsItemから派生したかを、URNによって示している。Comment要素は、もとのNewsItemとの従属関係を示すために使われている。ニュース配信社が元のNewsItemとのDerivedFrom関係を使用して新たにNewsItemを作るか、または同じNewsItemの新しい版を作るかは、独自の判断、手順に基づいてかまわない。DerivedFromが採用されるのは、NewsItemが修正され、異なったニュースサービスでリリースされる場合であり、同一のニュースサービスでリリースされる場合は新しい版が使われてもよい。NewsMLはこれについては特別な運用手順を示すものではない。

```
<DerivedFrom NewsItem="urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsML%201.0%20approved" >
<Comment>Statement from the Chair of the NewsML Steering Committee.</Comment>
</DerivedFrom>
```

[ツリー図]



[NskNewsML:1記述形式]

DerivedFrom要素……

Comment要素 ……………

Comment要素は派生元NewsItemの位置づけを記述する。

次の例は、派生元のNewsItemNewsML URNで指定している。Comment要素により、派生元のNewsItemが第2報であることを示している。

```
<DerivedFrom NewsItem="urn:newsml:provider.or.jp:20010312:0001:2" >
  <Comment>第2報</Comment>
</DerivedFrom>
```

5.6.9 AssociatedWith

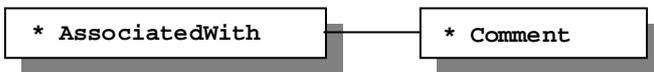
オプションで反復可能(0回以上出現)のAssociatedWith要素は関連のあるNewsItemへのポインタを示す(例えば、そのNewsItemを含む関連記事、または写真集の一部など)。NewsItem属性によってNewsItemの参照先を示し、属性値はhttp URLか、NewsML URNが使用できる。オプションのCommentは関連性についての説明を示すのに使用できる。

```
<!ELEMENT AssociatedWith (Comment*)>
<!ATTLIST AssociatedWith %localid;
  NewsItem CDATA #IMPLIED >
```

この例では、現在のNewsItem が、URNによって識別されたものと関連があることを示している。Comment要素はその関連性を示すために使われる。

```
<AssociatedWith NewsItem="urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsML%201.0%20approved" >
  <Comment>This is a sequel to the previous story.</Comment>
</AssociatedWith>
```

[ツリー図]



[NskNewsML:1 記述形式]

AssociatedWith要素
AssociatedWith/Comment要素

この例では、このNewsItem が、別のNewsItemと関連があることを示している。関連があるのがどのNewsItemなのかを識別するために、PublicIdentifier をNewsML urnとして使っている。

Comment要素(省略可)でこのNewsItemと別のNewsItemがどのように関連しているかを記述している。

```
<AssociatedWith NewsItem="urn:newsml:provider.or.jp:20010313:P0001:1">
  <Comment>記事併用写真</Comment>
</AssociatedWith>
```

5.6.10 Instruction

オプションで反復可能(0回以上出現)のInstruction要素は、ニュース配信社からNewsItemを受け

取る側へのinstruction (指示) を示す。Instructionの特別なケースとしては、最新の版のNewsItemが、受信側のシステム内に残っているNewsItemの前の版のステータスに与える影響を示す。この場合Instruction要素は1つ以上のRevisionStatus要素を持つ。あるいは、FormalName属性の属性値はその指示の形式名である。この形式名の意味と使用可能な値は*controlled vocabulary*によって示される。*controlled vocabulary*はvocabulary属性及びscheme属性によって指定される。

RevisionStatus要素は、現在の版がリリースされた結果、前の改訂が今どのようなステータスにあるかを示す。オプションのRevision属性は整数値であり、問題となる改訂のRevisionIdと同じにする。これが無い場合、前の改訂すべてに例外なくここでのステータスが適用される。

```
<!ELEMENT Instruction (RevisionStatus*)>
<!ATTLIST Instruction %localid;
                    %formalname; >

<!ELEMENT RevisionStatus (Status)>
<!ATTLIST RevisionStatus %localid;
                    Revision CDATA #IMPLIED >
```

この例では、NewsItemの前の版のすべてのステータスが「公開取消」になることを示す。

```
<Instruction FormalName="CancelAll" Vocabulary="#MyInstructionCodes">
  <RevisionStatus>
    <Status FormalName="Canceled"/>
  </RevisionStatus>
</Instruction>
```

この例では、第1版と第2版のステータスは「公開取消」だが、第3版はまだ「公開可能」であることを示す。

```
<Instruction FormalName="MostRecentStillUsable" Vocabulary="#MyInstructionCodes">
  <RevisionStatus Revision="1">
    <Status FormalName="Canceled"/>
  </RevisionStatus>
  <RevisionStatus Revision="2">
    <Status FormalName="Canceled"/>
  </RevisionStatus>
  <RevisionStatus Revision="3">
    <Status FormalName="Usable"/>
  </RevisionStatus>
</Instruction>
```

5.6.11 Property

Property要素はContentItem、Topic、NewsComponent、NewsItemのいくつかのプロパティの値を表すのに使われる。そのプロパティには形式名が付いていなければならない、複雑なプロパティを扱うための下位プロパティを含んでもよい。

Propertyは名称を持ち、単純な値または、さらに入り組んだプロパティのセットでなる複雑な値のどちらかである。value属性はPropertyの値を表す文字列である。valueRef属性はPropertyの値へのポインタを与えている。これはTopicSetにあるTopicかもしれないし、何か他のデータの一部であるかもしれない。もしvalue属性とvalueRef属性の両方が与えられたなら、valueRefはPropertyの実際の値を表し、valueは文字列の表現か記憶を与えるだけのものである。AllowedValues属性がある場合、それは一連のプロパティの値を定めた*controlled vocabulary*へのポインタである。この場合http URLかNewsML URN、または#文字の後に現在の文章中にある要素のDuidが続く*fragment identifier*であろう。ポインタは外部の*controlled vocabulary*を示すResource要素か、それ自体が*controlled vocabulary*である TopicSet要素のどちらかを必ず参照しなければならない。

```

<!ELEMENT Property (Property*)>
<!ATTLIST Property %localid;
                %formalname;
                %assignment;
                Value CDATA #IMPLIED
                ValueRef CDATA #IMPLIED
                AllowedValues CDATA #IMPLIED >

```

以下の例は、Characteristics 要素配下にある Property の形式名のための *default vocabulary* が Characteristics であることを、Catalog が宣言しているもので、ボキャブラリは www.mydomain.com の vocabs というサブディレクトリの中で見つけることができる。Context 属性の値は2つの // 文字を含む XPath 文法の形式で、Characteristics 内にある Property の入れ子の度合いを任意に示すものである。Width (幅) Property は、Quantity (量) Property と Unit (単位) Property を含んでいる。3つの名前 (Width、Quantity、Unit) は上記で宣言した *controlled vocabulary* によってすべて管理される。Quantity の値は7.5で、Unit の値は URN が urn:newsml:mydomain.com:20010101:Units:1 のリソース内にある要素である。この URN 文字列の後ろに続く #cm は、cm という値である Duid 属性を持つ要素を結び付ける fragment identifier である。Duid は NewsML DTD で ID 属性となるように宣言されており、これはどのように fragment identifier が XML 文書内で解析するかということである。この例では、URN が TopicSet を識別するだろう。また、fragment identifier は、“センチメートル (centimeter)” 単位であることを示す Description 下位要素を持つ Topic へ行き着くだろう。例えば、Topic はまた、メートル単位の長さの ISO 標準記述を指す Href 属性を持つかもしれない。

```

<Catalog>
  <Resource Duid="resource1">
    <Urn>urn:newsml:mydomain.com:20010101:Characteristics:3</Urn>
    <Url>www.mydomain.com/vocabs/characteristics.xml</Url>
    <DefaultVocabularyFor Context="Characteristics//Property"/>
  </Resource>
</Catalog>
...
<Characteristics>
  <Property FormalName="Width">
    <Property FormalName="Quantity" Value="7.5"/>
    <Property FormalName="Unit" ValueRef="urn:newsml:mydomain.com:20010101:Units:1#cm"/>
  </Property>
</Characteristics>

```

[ツリー図]



[NSK 解説]

Property 要素は NewsML に規定されている要素では表現できない情報を記述する。基本的な使い方としては FormalName 属性で種別を表し、Value 属性にその値を記述する。Property 要素の中に Property 要素を入れ子構造で記述する場合は、親の Property 要素は FormalName 属性だけを記述する。その値は、子の Property に記述する。Value 属性値は原則として自由形式である。AllowedValues 属性には、Value 属性値の候補の入っている TopicSet ファイルへのポインタを記述する。

(例) 入れ子構造のない単純な Property 要素の例

```

<Property FormalName="ISBN" Value="ISBN-87966-870-2" />
<Property FormalName="PageCount" Value="462" />

```

入れ子構造のサンプルは地域情報を参照のこと。

[NskNewsML:1 記述形式]

Metadata/Property要素・・・

Characteristics/Property要素

その他のPropertyは………… x

コラム：独自 Metadata の追加について

以下、Property を使ったメタデータの拡張方法について記述する。

NskNewsML：1 では Metadata/Property のみの使用が許されている。

他の Property については IPTC での使い方が規定される可能性があるため、当面使用禁止としている (Characteristics/Property は、日本新聞協会 NewsML レベル 1 解説書(第 1.0.3 版)で「使用停止(x)」から「規定外()」に変更)。

Property 要素は入れ子にすることで階層表現が可能であるが、構造を定義できないため、複雑な構造にすることは避けるべきである。NskNewsML:1 の地域情報の表し方では、2 階層までの構造とした。(7.2 地域情報の表現方法について参照)

Property 要素は FormalName 属性で種別、Value 属性でその値を記述する。

Value 属性のとり得る値は自由記述形式、または Catalog/Resource でボキャブラリを宣言することにより controlled vocabulary として使用できる。

階層構造をとった場合は最下層の Property 要素のみ Value をもつこととする。

1 階層の場合も含めて、最下層の Property 要素に Value がない場合はエラーとする。

例)

- ・ 1 階層並列表記の場合

```
<Property FormalName="ImageWidth" Value="1000"/>
<Property FormalName="ImageHigh" Value="1500"/>
```

- ・ 2 階層表記の場合

```
<Property FormalName="NskOriginatedArea">
  <Property FormalName="NskCountry" Value="USA"/>
  <Property FormalName="NskLocation" Value="ハワイ島ホノルル沖"/>
</Property>
```

各社独自に Metadata を使用する場合は、独自の MetadataType のボキャブラリを用意できる。MetadataType 要素の FormalName 属性の値により拡張されたメタデータのタイプを記述する。NSK、IPTC のボキャブラリを拡張することにより NSK、IPTC で定義する FormalName (メタデータタイプ) を同時に使用することもできる。

Property のボキャブラリについての規定は無い。IPTC、NSK、その他独自のものが使用できる。

補足 : MetadataType として、“NskAreaInformation” を指定した場合の Property の記述は、NskNewsML:1 記述形式に従うものとする。

例) 独自 Metadata で写真の値段を入れた場合

- 1 . Value が自由記述形式の場合

```
<Metadata>
  <Catalog>
    <Resource>
      <!--MetadataType のボキャブラリを宣言( MyMetadataType 中では、MediaPrice が定義されてい
る ) -->
      <Urn>urn:newsml:Mycompany.or.jp:20010602:MyMetadataType:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="MetadataType/@FormalName"/>
```

```

</Resource>
<Resource>
<!--Property のボキャブラリを宣言 ( MyMediaPrice 中では、 PhotoPrice が定義されている ) -->
  <Urn>urn:newsml:Mycompany.or.jp:20010602:MyMediaPrice:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Property/@FormalName"/>
</Resource>
</Catalog>
<MetadataType FormalName="MediaPrice"/>
<Property FormalName="PhotoPrice" Value="5000"/>
</Metadata>

```

2 . Value に controlled vocabulary の値を使用する場合。

```

<Metadata>
  <Catalog>
    <Resource>
      <!--MetadataType のボキャブラリを宣言 ( MyMetadataType 中では、 MediaPrice が定義されてい
る ) -->
        <Urn>urn:newsml:Mycompany.or.jp:20010602:MyMetadataType:1</Urn>
        <DefaultVocabularyFor Context="MetadataType/@FormalName"/>
      </Resource>
      <Resource>
        <!-- Property のボキャブラリを宣言 ( MyMediaPrice 中で PhotoPrice が定義されている ) -->
          <Urn>urn:newsml:Mycompany.or.jp:20010602:MyMediaPrice:1</Urn>
          <DefaultVocabularyFor Context="Property/@FormalName"/>
        </Resource>
        <Resource>
          <!-- Value のボキャブラリを宣言 ( MyPhotoPrice 中で Price1 が定義されている ) -->
            <Urn>urn:newsml:Mycompany.or.jp:20010602:MyPhotoPrice:1</Urn>
            <DefaultVocabularyFor Context="Property[@FormalName='PhotoPrice']/@Value"/>
          </Resource>
        </Catalog>
        <MetadataType FormalName="MediaPrice"/>
        <Property FormalName="PhotoPrice" Value="Price1"/>
      </Metadata>

```

5.7 NewsComponent の構造

ニュースに特徴的なこととして、複数のデータオブジェクト、たとえば文章、写真とそのキャプション、グラフィックスが同時に流れることが多い。その上、複数の完結した記事を一緒に流し、たとえば週の主な記事の要約のように、それらを関連付けて扱うことや、特定のイベントやテーマに関係する記事の検索結果として扱うことがしばしば必要となる。この複雑さを解決するために、NewsComponentsを使って管理する。それらは*news objects*同士の関係構造を明確にしている。

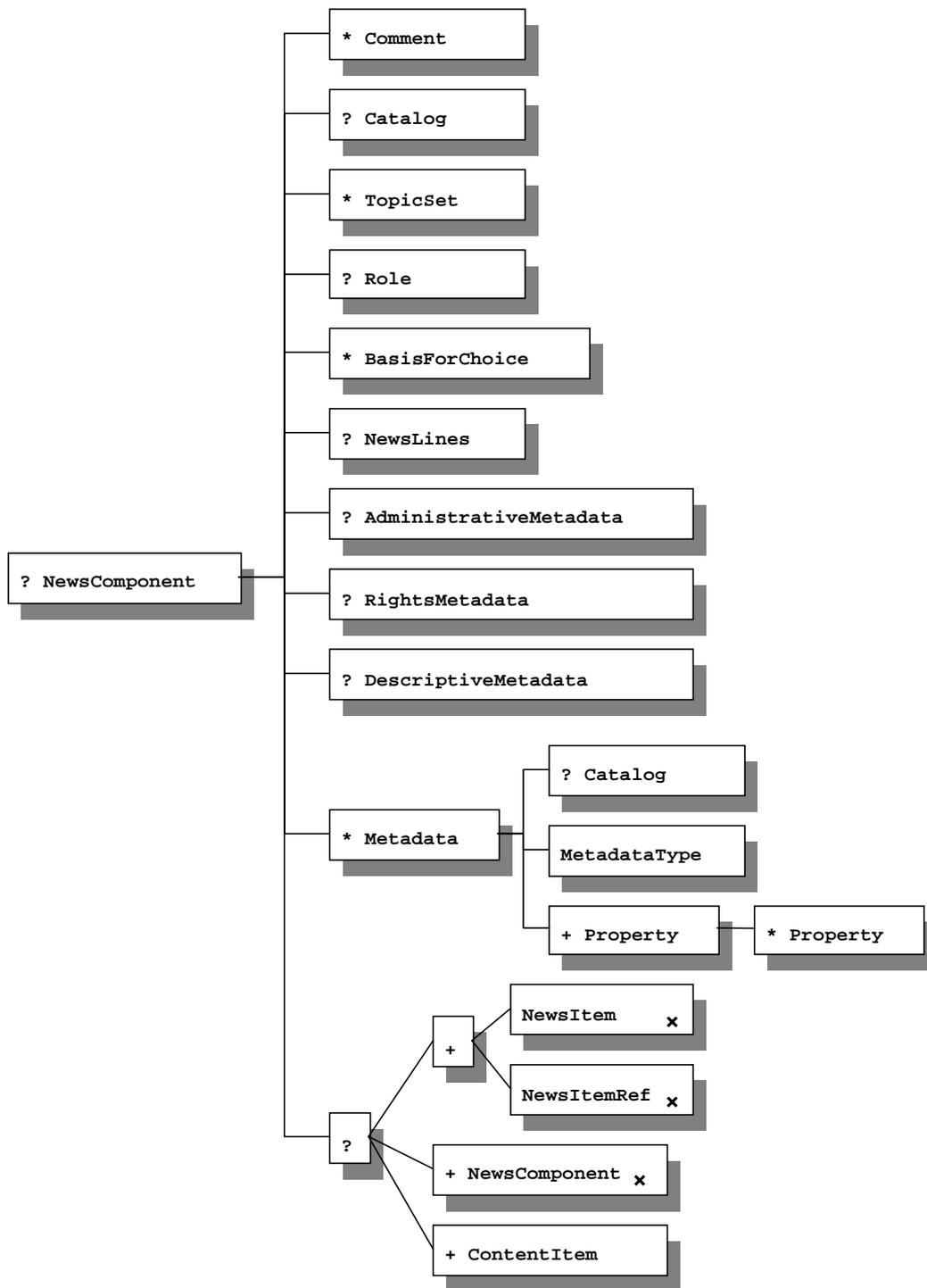
NewsComponentは*news objects*の入れ物となる。これは*news objects*のお互いの関係を示すことや、メタデータをNewsComponentに関連付けることに使われる。Essential属性は、このNewsComponentがその属性を含むNewsComponentの意味にとって必須であると配信社がみなしているかどうかを示す。EquivalentList属性は、この中に含まれるNewsItemかNewsItemRef、NewsComponentかContentItemが、お互いに内容が意味(又は両方)において同等であるかどうかを示している。NewsComponentのRole下位要素は、それを含むNewsComponentの中にあるNewsComponentが担う役割を明らかにしている。

NewsItemの一番外側のNewsComponentにRole属性の値を明記する必要はない。FormalName属性の値は、Roleの形式名である。その意味と取りうる値は*controlled vocabulary*によって決まる。

```
<!ELEMENT NewsComponent (Comment* , Catalog? , TopicSet* , Role? , BasisForChoice* ,
NewsLines? , AdministrativeMetadata? , RightsMetadata? , DescriptiveMetadata? , Metadata* ,
((NewsItem | NewsItemRef)+ | NewsComponent+ | ContentItem+)?)>
<!ATTLIST NewsComponent %localid;
          Essential (yes | no ) "no"
          EquivalentList (yes | no ) "no"
          xml:lang CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT Role EMPTY>
<!ATTLIST Role %localid;
          %formalname; >
```

[ツリー図]



[NSK 解説]

NewsComponent は記事や写真、グラフィックスなど、単一あるいは複数のオブジェクトの入れ物となる。

Essential 属性を省略した場合は'no'となる。

EquivalentList 属性を省略した場合は'no'となる。

[NskNewsML:1 記述形式]

NewsComponent 要素

NewsComponent/@xml:lang

xml:lang 属性値は ISO639 に準じる。日本語を使うときは"ja"を記述する。指定がない場合は親要素の属性値に従う。

(例)<NewsComponent xml:lang="ja">

NewsComponent/Comment要素

注意喚起、変更箇所などの連絡事項を入れる。

(例)<Comment>愛知県注意。とりあえず送ります。過去形手直しあり。</Comment>

NewsComponent/Catalog要素 ..

Role要素

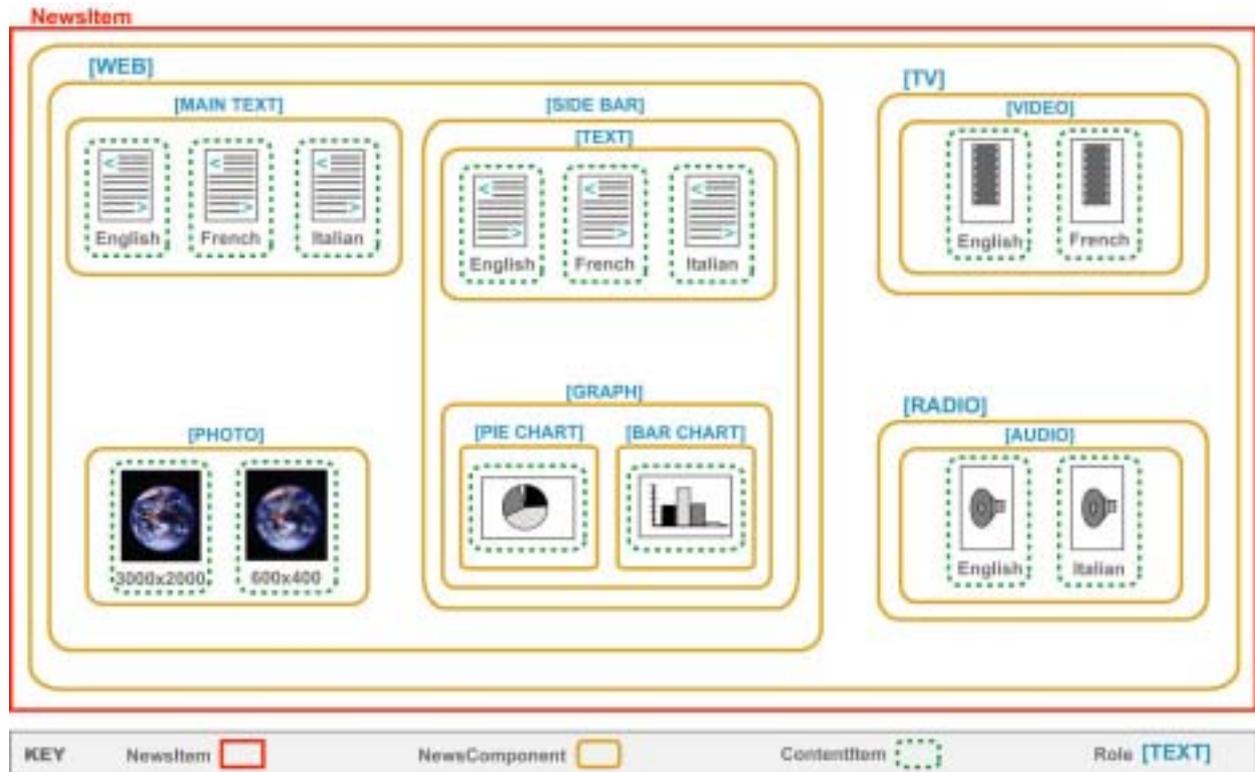
NewsComponentの抽象的な役割を示すものであり、物理的属性を示すことには使わない。

複数素材の扱いについては、別途「7.3 NewsMLNewsML 複合ガイドライン」を参照。

5.7.1 NewsComponents の動きの図解

次の図は同じ記事をウェブ、テレビ、ラジオ用として作った3つのNewsComponentからなる1つのNewsItemを表している。テレビ、ラジオ版は、それぞれ1つのNewsComponentを含んでいる(それぞれビデオVIDEO、音声AUDIO)。ウェブ版はいくつものNewsComponentから構成されている(主テキストMAIN TEXT、写真PHOTO、サイドバーSIDE BAR)。サイドバーは2つのNewsComponentを持っている(テキスト、グラフGRAPH)。最後に、グラフは、同じ情報を異なる方法で見せた2つのNewsComponentを持っている(円グラフPIE CHART、棒グラフBAR CHART)。

ビデオ、音声、テキスト、主テキストのNewsComponentは、異なる言語の記事を入れたContentItemを含んでいる。写真のNewsComponentは、異なる解像度のContentItemを含んでいる。円グラフ、棒グラフのNewsComponentは、それぞれ1つだけのContentItemを含んでいる。



ここでは、上にイラストで示した例がどのようにNewsML文書で構造化されているかを見せている。

```

<NewsItem>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Url>http://www.mysite.com/MyRolesVocabulary.xml</Url>
      <DefaultVocabularyFor Context="Role"/>
    </Catalog>
    ...
    <NewsComponent EquivalentsList="yes">
      <BasisForChoice>./Role/@FormalName</BasisForChoice>
      <NewsComponent EquivalentsList="no">
        <Role FormalName="WEB"/>
        <NewsComponent EquivalentsList="yes">
          <Role FormalName="MAIN TEXT"/>
          <BasisForChoice>./Role/@FormalName</BasisForChoice>
          <ContentItem>...</ContentItem>
          <ContentItem>...</ContentItem>
          <ContentItem>...</ContentItem>
        </NewsComponent>
        <NewsComponent EquivalentsList="yes">
          <Role FormalName="PHOTO"/>
          <ContentItem>...</ContentItem>
          <ContentItem>...</ContentItem>
          <ContentItem>...</ContentItem>
        </NewsComponent>
        <NewsComponent EquivalentsList="no">
          <Role FormalName="SIDE BAR"/>
          <NewsComponent EquivalentsList="yes" Essential="yes">
            <Role FormalName="TEXT"/>
            <ContentItem>...</ContentItem>
            <ContentItem>...</ContentItem>
            <ContentItem>...</ContentItem>
          </NewsComponent>

```

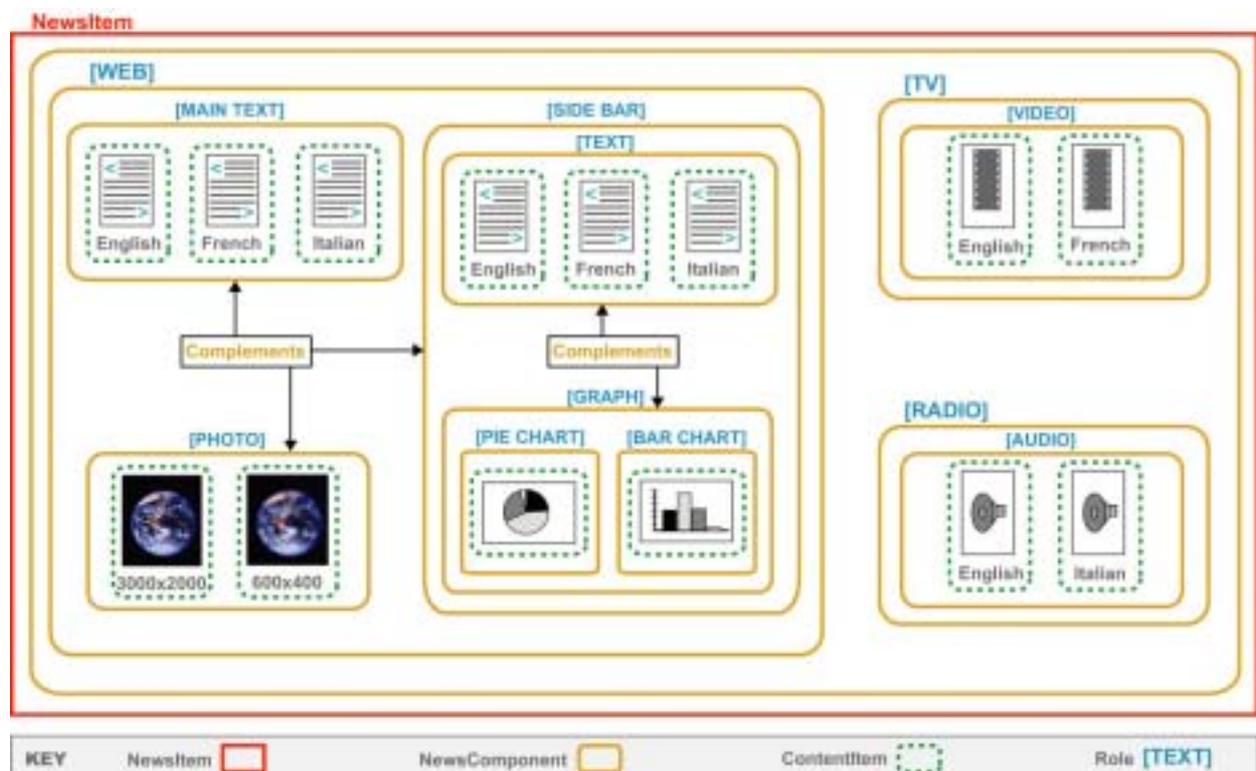
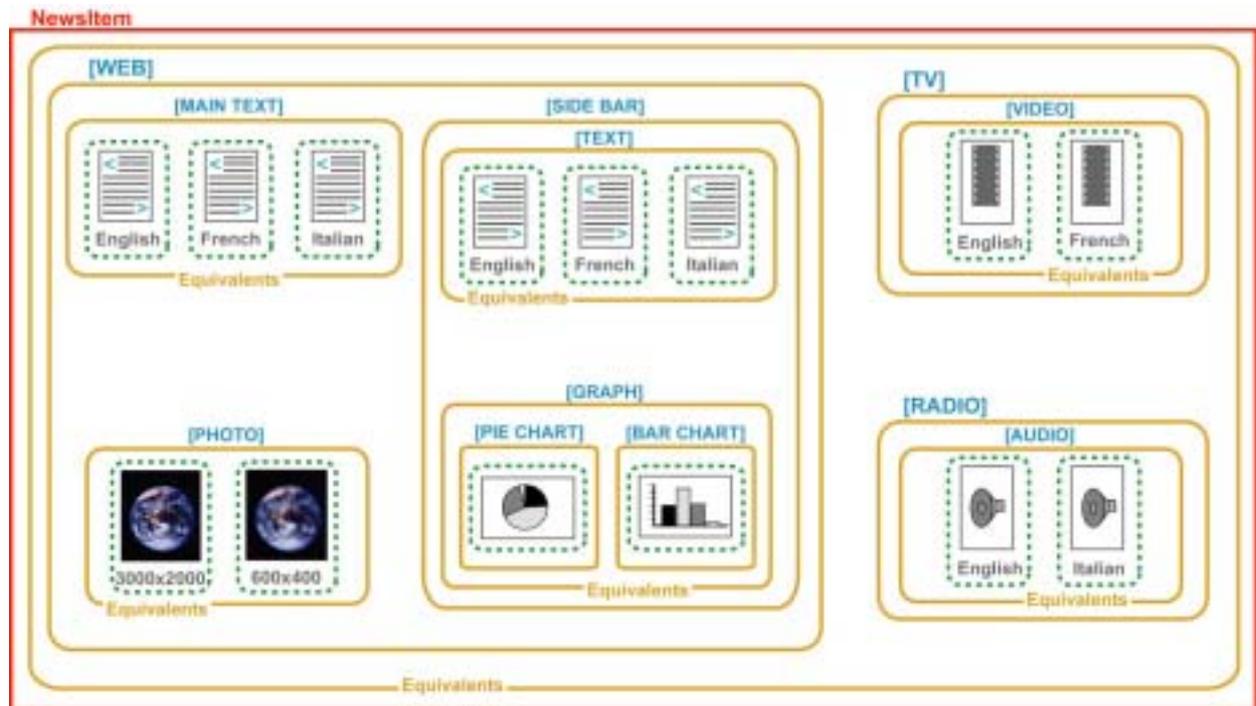
```

    <NewsComponent EquivalentsList="yes" Essential="yes">
      <Role FormalName="GRAPH"/>
    <BasisForChoice>./Role/@FormalName</BasisForChoice>
    <NewsComponent>
      <Role FormalName="PIE CHART"/>
      <ContentItem>...</ContentItem>
    </NewsComponent>
    <NewsComponent>
      <Role FormalName="BAR CHART"/>
      <ContentItem>...</ContentItem>
    </NewsComponent>
  </NewsComponent>
</NewsComponent>
</NewsComponent>
<NewsComponent>
  <Role FormalName="TV"/>
  <NewsComponent EquivalentsList="yes">
    <Role FormalName="VIDEO"/>
    <ContentItem>...</ContentItem>
    <ContentItem>...</ContentItem>
  </NewsComponent>
</NewsComponent>
<NewsComponent>
  <Role FormalName="RADIO"/>
  <NewsComponent EquivalentsList="yes">
    <Role FormalName="AUDIO"/>
    <ContentItem>...</ContentItem>
    <ContentItem>...</ContentItem>
  </NewsComponent>
</NewsComponent>
</NewsComponent>
</NewsItem>

```

5.7.2 EquivalentsList

EquivalentsListであるNewsComponentとそうでないNewsComponentの区別が、次の2つの絵で明らかにされている。



5.7.3 BasisForChoice

BasisForChoice の構成要素は、**NewsComponent** または **ContentItem** にある情報を識別する *XPath* パターンあるいは要素タイプ名であり、同等の **NewsComponent** または **ContentItem** を選択する際の基礎として用いられる。*XPath* パターンが「.」(ピリオド)で始まっている場合には、*XPath* の「ルート(root)」を表し、**NewsComponent** あるいは **ContentItem** 自体に相当する。*XPath* パターンを等価の組み合わせの中で順番に個々の **NewsComponent** や **ContentItem** に適用することにより、システムは項目間の選択を行う基礎となるデータを抽出することができる。*XPath* パターンに適合するものが、「root」で始まるサブツリーに多数存在する場合には、文書の順番で最初に適合したもののみが重要である。オプションの **Rank** 属性により、配信社が異なった **BasisForChoice** を付加した場合には、数値により重要度に優先順位を付けることができる。この場合、数値が小さいほど重要度が高くなる。

```
<!ELEMENT BasisForChoice (#PCDATA)>
<!ATTLIST BasisForChoice %localid;
          Rank CDATA #IMPLIED >
```

次の例では、内部**NewsComponent** (この場合は円グラフまたは棒グラフ)の役割 (**Role**) を示している。それらは、**NewsComponent**間の選択の基礎として示されている。**BasisForChoice**内の「./」(ピリオド+スラッシュ)は、そのパス (path) のルート (root) の下位要素を示す *XPath* シンタックスであり、選択肢となる個々の**NewsComponent**を示す。

```
<NewsComponent EquivalentsList="yes" Essential="yes">
  <Role FormalName="GRAPH"/> <BasisForChoice>./Role</BasisForChoice>
  <NewsComponent>
    <Role FormalName="PIE CHART"/> <ContentItem>...</ContentItem>
  </NewsComponent>
  <NewsComponent>
    <Role FormalName="BAR CHART"/>
    <ContentItem>...</ContentItem>
  </NewsComponent>
</NewsComponent>
```

次の例では、**PixelWidth**という値の**FormalName**属性を持つ**Property**要素の**Value**属性が、**ContentItem**間の選択の基礎となることを示すために、さらに複雑な *XPath* 表現を用いる。

```
<Catalog>
  <Resource Duid="resource1">
    <Urn>urn:newsml:mydomain.com:20010101:Characteristics:3</Urn>
    <Url>www.mydomain.com/vocabs/characteristics.xml</Url>
    <DefaultVocabularyFor Context="Property"/>
  </Resource>
</Catalog>
...
<NewsComponent EquivalentsList="yes">
  <BasisForChoice>Property[@FormalName="PixelWidth"]/@Value</BasisForChoice>
  <ContentItem Href="pictures/4769w336.jpg">
    <MimeType FormalName="image/jpeg"/>
    <Characteristics>
      <SizeInBytes>22999</SizeInBytes>
      <Property FormalName="PixelWidth" Value="336"/>
      <Property FormalName="PixelHeight" Value="224"/>
    </Characteristics>
  </ContentItem>
  <ContentItem Href="pictures/4769w170.jpg">
    <MimeType FormalName="image/jpeg"/>
    <Characteristics>
      <SizeInBytes>8449</SizeInBytes>
```

```
<Property FormalName="PixelWidth" Value="170"/>
<Property FormalName="PixelHeight" Value="224"/>
</Characteristics>
</ContentItem>
</NewsComponent>
```

5.7.4 NewsComponent の他の下位要素

NewsComponent は、オプションの NewsLines、AdministrativeMetadata、RightsMetadata、DescriptiveMetadata の各要素を含んでもよい。これらの要素の機能は、本文の 5.9 [Metadata](#) に述べられている。また、NewsComponent は、NewsML 仕様書に定義されていない、ユーザーが定義するいくつかのメタデータを含む Metadata 要素をいくつか含んでもよい。

5.8 ContentItem の構造

ContentItem は、人間へのプレゼンテーションを意図した表現内容（テキスト、イメージ、映像、音声など）を運ぶ、あるいは識別する *news object* である。NewsML はメディアに依存しない記述言語であるので、その表現はいかなるメディアを介しても、人間のさまざまな感覚（視覚、聴覚、触覚あるいはこれらの組み合わせを含む）に対応できるということを認識すべきである。ContentItem に格納するテキストの推奨フォーマットは IPTC-NAA NITF である。

ContentItem には、DataContent 要素の中に列として含まれるいくつかの生データ (*raw data*)、あるいは ContentItem の Href 属性を用いた生データへのポインタを含まなければならない。ポインタが使用される場合でも、NewsML 文書は生データが直接含まれる場合と全く同じように解釈されなければならない。ポインタを使用する主な理由は、転送や蓄積に物理的に必要なデータ量を削減することや、整形形式 (well-formed) XML 文書の中で必要とするデータオブジェクトのフォーマットが直接扱えない場合があるからである。

DataContent 要素は、エンコード方法を示す 1 つ以上の Encoding 要素に包含されることがある。DataContent 要素の生データが同じ行に含まれる場合には、整形形式 XML 化を中止したり、NewsML DTD に従うことをやめたりして、NewsML 文書が破綻しないように保証する注意が必要である。この問題が起きないように保証する技術的要件は以下の通りである。

- XML マークアップのように見える文字をデータに含まないことを保証すること。
- XML マークアップのように見えるいくつかの文字があった場合でも、XML1.0 仕様書にあるように、特定の文字列]]> をどこにも含まず、CDATA セクションでデータを包含すること。
- データが XML コンテンツで構成され、NewsML の要素名と同じ名前の要素を持たない場合には、文書の内部 DTD サブセットに使用される要素タイプを宣言すること。

ContentItem の下位要素であるオプションの MediaType、MimeType、Format、Notation は、それぞれメディア・タイプ、MIME タイプ、フォーマット、記法 (notation) を表している。その意味とこれらの要素の FormalName 属性に許可された値は、Vocabulary 属性と Scheme 属性によって識別される *controlled vocabularies* により決定される。

ContentItem はまた、その物理的特徴についての情報を提供する Characteristics 要素を含むことができる。Characteristics 要素の目的は、解釈前後のデータを扱うため必要なシステム要件の決定を補助することである。つまり、ファイルサイズで言えば、(ラスター・イメージに対しては) 縦横のピクセル数、(ビデオ・クリップに対しては) フレーム数、(音声ファイルに対しては) 持続時間、(すべての対象に対しては) バイト数をカバーすることができる。NewsML1.0 版では、特定の要素タイプとして SizeInBytes のみが特性として規定されている。他のすべての特性としては、一般的な Property 要素が使用されている。この一般的な要素の使用に関する説明については、5.6.11 [Property](#) の項を参照のこと。

```

<!ENTITY % data " (Encoding | DataContent )?">

<!ELEMENT Encoding %data; >
<!ATTLIST Encoding %localid;
           Notation CDATA #REQUIRED >

<!ELEMENT DataContent ANY>
<!ATTLIST DataContent %localid; >

<!ELEMENT ContentItem (Comment* , Catalog? , MediaType? , Format? , MimeType? , Notation? ,
Characteristics? , %data; )>
<!ATTLIST ContentItem %localid;
           Href CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT MediaType EMPTY>
<!ATTLIST MediaType %localid;
           %formalname; >

<!ELEMENT Format EMPTY>
<!ATTLIST Format %localid;
           %formalname; >

<!ELEMENT MimeType EMPTY>
<!ATTLIST MimeType %localid;
           %formalname; >

<!ELEMENT Notation EMPTY>
<!ATTLIST Notation %localid;
           %formalname; >

<!ELEMENT Characteristics (SizeInBytes? , Property* )>
<!ATTLIST Characteristics %localid; >

<!ELEMENT SizeInBytes (#PCDATA )>
<!ATTLIST SizeInBytes %localid; >

```

この例は、コンテンツを解凍するために、unbinhex (binhexのデコード)を行ってから、unzipを行う必要のあるインライン・データを載せている。

```

<ContentItem>
  <Encoding Notation="binhex">
    <Encoding Notation="zip">
      <DataContent>A873B6FE ...</DataContent>
    </Encoding>
  </Encoding>
</ContentItem>

```

この例は、NewsML 1.0の承認に関するIPTC文書の第2版の中でDuidがitem2であるContentItemを参照により再利用するContentItemを示している。このContentItemは、メディアタイプがText、TTNITF フォーマット、MIME-type text/vnd.IPTC.NITFで、ノーテーションがNITFである。2736バイト長で、myproperties.xmlで定義されたWordCountプロパティが450の値を持つ。ノーテーションを解するXMLプロセッサでオブジェクトが扱えるように、NewsML文書の内部サブセット内で、NITFノーテーションが公式に宣言されている。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE NewsML PUBLIC "urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsMLv1.0.dtd:1"
"http://www.iptc.org/NewsML/NewsMLv1.0.dtd"
[
<INOTATION NITF PUBLIC "-//IPTC-NAA//DTD NITF-XML 1.0//EN">
]
<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource>

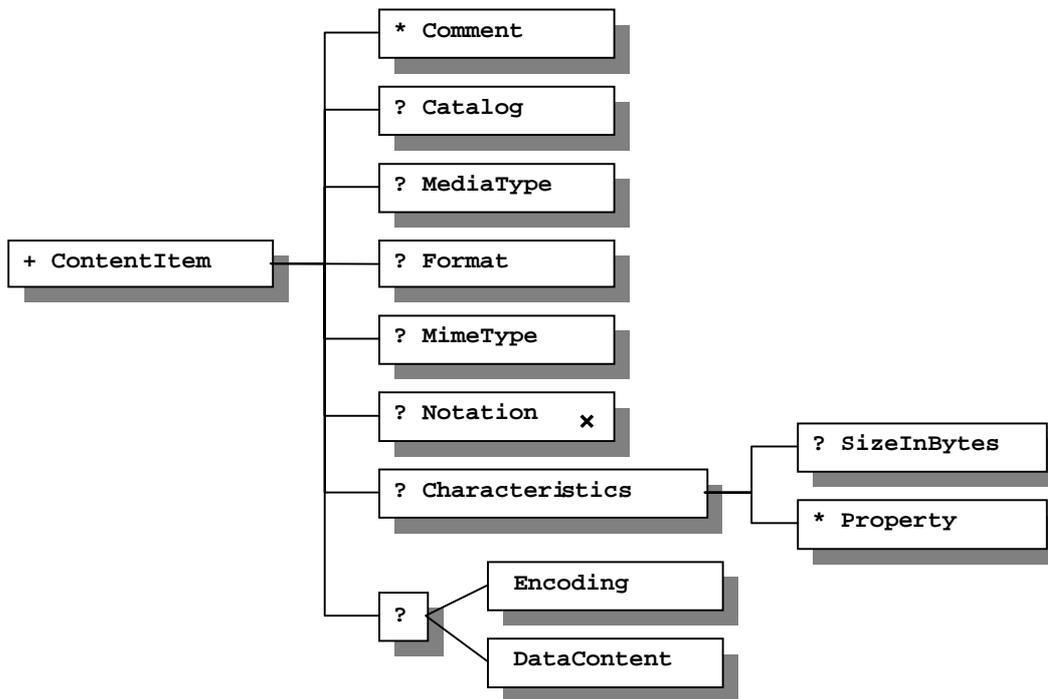
```

```

    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcMediaTypes.xml</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcMediaTypes" Context="MediaType"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcFormats.xml</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcFormats" Context="Format"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcMimeTypes.xml</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcMimeTypes" Context="MimeType"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcNotations.xml</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcNotations" Context="Notation"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:mydomain.org:20010101:myproperties.xml</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="Properties" Context="Property"/>
  </Resource>
</Catalog>
...
<ContentItem Href="urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsML%201.0%20approved:2#item2">
  <MediaType FormalName="Text"/>
  <Format FormalName="TTNITF"/>
  <MimeType FormalName="text/vnd.IPTC.NITF"/>
  <Notation FormalName="NITF"/>
  <Characteristics>
    <SizeInBytes>2736</SizeInBytes>
    <Property FormalName="WordCount" Value="450"/>
  </Characteristics>
</ContentItem>
...
</NewsML>

```

[ツリー図]



[NSK 解説]

ContentItem は、実際のコンテンツデータと、そのデータ形式のメタデータを記述する。

コンテンツデータがテキストの場合は、そのまま **DataContent** に入れることができる。あるいは NewsML 文書とは別のファイルとして外部におき、**ContentItem** 要素の **Href** 属性により参照することもできる。**Href** 属性で参照した場合には **DataContent** 要素は含まない。画像、音声、動画等のバイナリデータの場合は **ContentItem** 要素の **Href** 属性により外部に置くか、**Encoding** 要素によって **DataContent** に埋め込むことができる。

Characteristics 要素ではコンテンツデータのファイルサイズを表す **SizeInBytes** 要素と拡張用の **Property** 要素が規定されている。

[NskNewsML:1 記述形式]

- ContentItem 要素
- ContentItem /Href 属性 ..
- Catalog 要素
- MediaType 要素
- Format 要素
- MimeType 要素
- Notation 要素
- Characteristics 要素
- SizeInBytes 要素
- Property 要素
- DataContent 要素

IPTC ではテキストのフォーマットとして IPTC-NAA NITF を推奨しているが、NskNewsML:1 では、特定していない。

NskNewsML:1 では、バイナリデータは外部ファイルとして **ContentItem** 要素の **Href** 属性 によって参照する形式を推奨する。これは **Encoding** による埋め込みではデータサイズが大きくなるためである。

MediaType、**MimeType**、**Format** 要素は組み合わせてデータ型式を記述する。**MimeType** は極力使用する。

MediaType : テキスト、画像、音声、動画など分類を行う

Text	テキスト
Graphic	画像
Photo	写真
Audio	音声
Video	動画
Animation	アニメーション

MimeType : マイムタイプ

image/jpeg image/tiff text/plain text/xml video/mpeg application/postscript 等。

Format : **MimeType** だけでは表現できない場合に記述することができる。

MimeType= " text/xml " のときは、**Format** は必須。このときの **Format** のボキャブラリは NSK 拡張ボキャブラリを推奨する。

Notation : 要素は使用法が不明瞭なため、使用禁止要素とする。

SizeInBytes は外部ファイルのサイズを示すことができる。

10 進数で記述する。単位は byte だが単位は記述しない。

例) `<SizeInBytes>12736</SizeInBytes>`

例) プレーンテキストの場合

```
<ContentItem>
  <MediaType FormalName="Text" />
  <MimeType FormalName="text/plain" />
  <DataContent>
    .
    .
    .
  </DataContent>
</ContentItem>
```

例) XML コンテンツの場合

```
<ContentItem>
```

```

<MediaType FormalName="Text" />
<Format FormalName="BML" />
<MimeType FormalName="text/xml" />
<DataContent>
.
.
.
</DataContent>
</ContentItem>

```

例) 外部参照の場合

ここでは JPEG ファイルの画像フォーマットの場合を示した。

```

<ContentItem Href= " 20010423photo001.jpg " >
  <MediaType FormalName="Photo" />
  <MimeType FormalName="image/jpeg" />
  <Characteristics>
    <SizeInBytes>12736</SizeInBytes>
  </Characteristics>
</ContentItem>

```

5.9 メタデータ

NewsML は、NewsComponent において、以下のカテゴリーのメタデータの使用を認めている。

- AdministrativeMetadata (管理メタデータ)
- RightsMetadata (権利メタデータ)
- DescriptiveMetadata. (記述メタデータ)

5.9.1 Administrative Metadata (管理メタデータ)

AdministrativeMetadata 要素は、NewsComponent の起源、出所に関する情報を含んでいる。この情報は、AdministrativeMetadata 要素の直接の親要素である NewsComponent に、あるいは NewsComponent の直接の親要素である NewsItem に適用される。

オプションの FileName 要素は、NewsItem の仮想または実際の蓄積ファイル名に一致している。

オプションの SystemIdentifier 要素は、その項目が存在する場所の URL のようなシステムアドレスを指定する。これは、ある意味で XML1.0 仕様書に定義された NewsItem のシステム識別子を規定している。

オプションの Provider 要素と Creator 要素は、その news object をリリースしたり作成した個人及び(または)企業、組織を規定する。(オプションの Comment で、これに関連した追加情報を付加することができる)

オプションで反復可能な source 要素は、news object の素材をどこ(個人および/または企業、組織)が配信したのかを規定する。オプションの NewsItem 属性は、記事配信の際に NewsItem に存在しなければならない。そのために、配信された NewsItem の URN を提供する。source 要素のシーケンスは、NewsItem が経由した加盟社のシーケンスを表示することにも使用することができることに注目せよ。ここでも Comment で、関連した追加情報を付加することができる。

オプションで反復可能な Contributor 要素は、生成された news object の改版や強化を行った個人及び(ま

たは)企業、組織を規定する。この Comment 要素で、それらの関与状況を示すこともできる。

オプションで反復可能な Property 要素は、NewsML DTD 内では明確に与えられていない付加的な AdministrativeMetadata を提供するのに用いることができる。

```
<!ELEMENT AdministrativeMetadata (Catalog? , FileName? , SystemIdentifier? , Provider? ,
Creator? , Source* , Contributor* , Property* )>
<!ATTLIST AdministrativeMetadata %localid; >

<!ELEMENT FileName (#PCDATA )>
<!ATTLIST FileName %localid; >

<!ELEMENT SystemIdentifier (#PCDATA )>
<!ATTLIST SystemIdentifier %localid; >

<!ELEMENT Provider (%party;) >
<!ATTLIST Provider %localid; >

<!ELEMENT Creator (%party;) >
<!ATTLIST Creator %localid; >

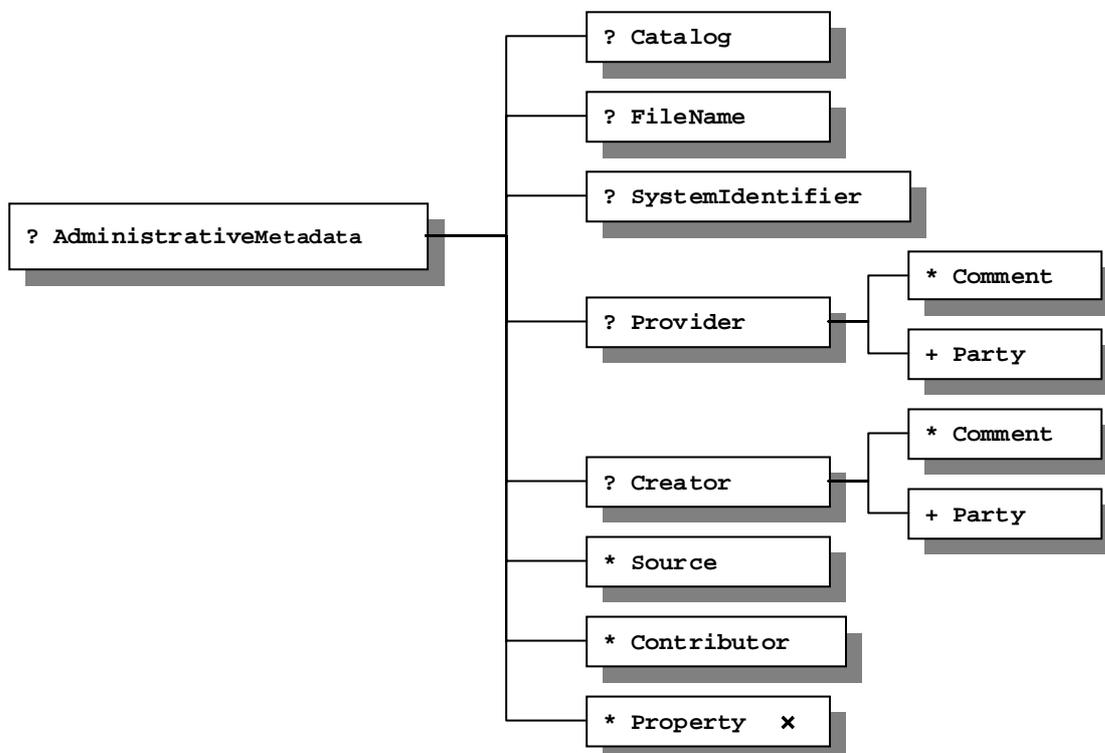
<!ELEMENT Source (%party;) >
<!ATTLIST Source %localid;
        NewsItem CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT Contributor (%party;) >
<!ATTLIST Contributor %localid; >
```

この例では、ファイル名が NewsmlStory.xml で、www.mydomain.com のサブディレクトリ stories にある。配信社は、現在の文書内で Duid 属性の値が company1 である Topic 要素によって表される会社である。作成者は、現在の文書内で Duid 属性の値が person1 である Topic 要素によって表される。関与した人が2人いて、一人は編集校閲者で、もう1人は引用されている。彼らはそれぞれ、現在の文書内で Duid 属性の値が person2 と person3 である Topic 要素によって表される。

```
<AdministrativeMetadata>
  <FileName>NewsmlStory.xml</FileName>
  <SystemIdentifier>http://www.mydomain.com/stories/NewsmlStory.xml</SystemIdentifier>
  <Provider>
    <Party FormalName="News Headlines International" Topic="#company1"/>
  </Provider>
  <Creator>
    <Party FormalName="Doe, John" Topic="#person1"/>
  </Creator>
  <Contributor>
    <Comment>Editorial review</Comment>
    <Party FormalName="Smith, Jane" Topic="#person2"/>
  </Contributor>
  <Contributor>
    <Comment>Quote</Comment>
    <Party FormalName="Dumas, Pierre" Topic="#person3"/>
  </Contributor>
</AdministrativeMetadata>
```

[ツリー図]



[NSK 解説]

Provider 要素は、NewsComponent の配信社を示す。
 Creator 要素は、NewsComponent の作成社を示す。
 それぞれの Party 要素には個別のボキャブラリを使用してよい。

[NskNewsML:1 記述形式]

AdministrativeMetadata 要素 ……
 Catalog 要素 ……
 Provider 要素 ……
 Provider/Party 要素 ……
 Creator 要素 ……
 Creator/Party 要素 ……
 Property 要素 …… x

Provider 要素、Creator 要素共にボキャブラリは原則として自由。
 新聞社、通信社間の通信の場合は NSK オリジナルボキャブラリを推奨するが、配信社と受信社で決める。

(例) A社が作った NewsComponent をA社がB社に配信したデータの場合

```
<AdministrativeMetadata>
  <Provider>
    <Party FormalName= " Acompany " />
  </Provider>
  <Creator>
    <Party FormalName= " Acompany " />
  </Creator>
</AdministrativeMetadata>
```

(例) 上記をさらにB社が配信したデータの場合

```
<AdministrativeMetadata>
  <Provider>
    <Party FormalName= " Bcompany " />
  </Provider>
  <Creator>
    <Party FormalName= " Acompany " />
  </Creator>
</AdministrativeMetadata>
```

5.9.2 Rights Metadata (権利メタデータ)

RightsMetadata 要素は、NewsComponent に関する権利についての情報を持っており、著作権保持者が他者に与えた関連の使用権を含む。

Copyright 要素は、必須の **CopyrightHolder**、**CopyrightDate** 下位要素 およびオプションで反復可能な **Comment** の下位要素を持つ。**assignment** 属性は、著作権がだれによって指定されたか、どの程度の重要性と信頼性を持っているか、ISO8601 基本フォーマットに基づく日付と時間などを表示する。**CopyrightHolder**、**CopyrightDate**要素には、著作権保持者と著作権日付を平文で記述する。

RightsMetadata は、テキスト中にオプションとして **origin** 要素が点在しているものを内容とする下位要素を含んでいる。テキストの内容は人間が理解できるものになっている。**Origin** 要素はこのテキストの全部あるいは一部を包むものであり、そこに自然言語で述べられていることに形式的に対応したデータの項目へのポインタを与える。**Origin** 要素の **href** 属性は、関連するデータを識別する。そしてその **href**属性は http URL か NewsML URNであり、オプションとして *fragment identifier* を続けて持つ。他の方法としては、現在の文書の中で「#」記号に(シャープ)に要素の **duid** が続くシンプルな *fragment identifier* であってもよい。

しかしながら、**origin**要素は、人間に分かるテキストと同じ情報を伝達するどこか他の場所で保持されている、システム処理されるデータへのポインタを与える。**RightsMetadata** の **UsageRights** 下位要素は、NewsComponent に属する使用権についての情報を提供する。**UsageRights** 要素は以下の6つの下位要素から構成されている。使用権を適用する使用タイプを平文で示す **UsageType**、特定の使用権に係る地域や場所を示す **Geography**、使用権所有者を示す **RightsHolder**、NewsComponent の内容の使用に関する制限を示す **Limitations**、最後に、示された権利の期間を示す **StartDate** と **EndDate** である。

```
<!ELEMENT RightsMetadata ( Catalog? , Copyright* , UsageRights* , Property* )>
<!ATTLIST RightsMetadata %localid;
                %assignment; >

<!ELEMENT Copyright ( Comment* , CopyrightHolder , CopyrightDate )>
<!ATTLIST Copyright %localid;
                %assignment; >
```

```

<!ELEMENT CopyrightHolder (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST CopyrightHolder %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT CopyrightDate (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST CopyrightDate %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT UsageRights ( UsageType? , Geography? , RightsHolder? , Limitations? , StartDate? ,
EndDate? )>
<!ATTLIST UsageRights %localid;
                %assignment; >

<!ELEMENT UsageType (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST UsageType %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                %assignment; >

<!ELEMENT Geography (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST Geography %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                %assignment; >

<!ELEMENT RightsHolder (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST RightsHolder %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                %assignment; >

<!ELEMENT Limitations (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST Limitations %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                %assignment; >

<!ELEMENT StartDate (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST StartDate %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                %assignment; >

<!ELEMENT EndDate (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST EndDate %localid;
                xml:lang CDATA #IMPLIED
                %assignment; >

<!ELEMENT Origin (#PCDATA | Origin)*>
<!ATTLIST Origin %localid;
                %assignment;
                Href CDATA #IMPLIED >

```

次の例では、Origin要素が、現在の文書中のTopicsを参照することによって、会社、組織、地域を識別する。国(英国)がIPTC Countries TopicSetを参照することによって識別されている。このTopicSetはISO 2文字・3文字国コード・ネーミング・スキームに一致する*controlled vocabulary*として働く。

```

<RightsMetadata>
  <Copyright>
    <CopyrightHolder><Origin Href="#organization1">International Press
Telecommunications Council</Origin></CopyrightHolder>
    <CopyrightDate>2000</CopyrightDate>
  </Copyright>
  <UsageRights>
    <UsageType>Television</UsageType>
    <Geography><Origin Href="urn:newsml:iptc.org:20001006:Countries#isoc826">United
Kingdom</Origin></Geography>

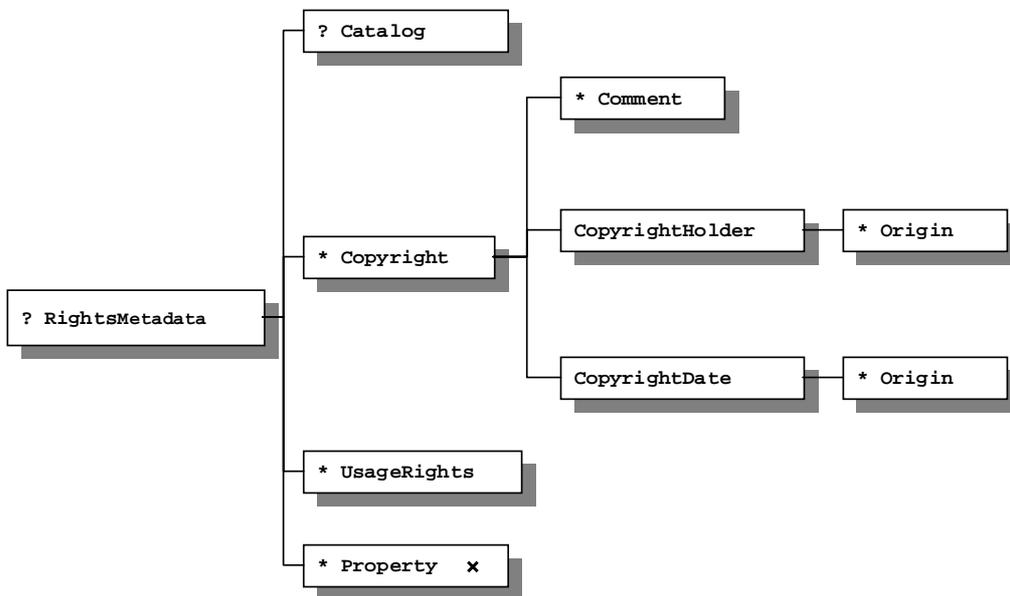
```

```

<RightsHolder><Origin Href="#organization2">BBC</Origin></RightsHolder>
<StartDate>July 2000</StartDate>
<EndDate>December 2000</EndDate>
<Limitations>Acknowledgement of <Origin Href="#organization1">IPTC</Origin>
copyright must be made</Limitations>
</UsageRights>
<UsageRights>
<UsageType>Television</UsageType>
<Geography><Origin Href="#region1">North America</Origin></Geography>
<RightsHolder><Origin Href="#company1">CNN</Origin></RightsHolder>
<StartDate>July 2000</StartDate>
<EndDate>none</EndDate>
<Limitations>Acknowledgement of <Origin Href="#organization1">IPTC</Origin>
copyright must be made</Limitations>
</UsageRights>
</RightsMetadata>

```

[ツリー図]



[NSK 解説]

Copyright 要素は著作権保持者のメタデータを記述する。

UsageRights 要素は使用権のメタデータを記述する。

UsageType には、テレビ、新聞、ウェブなど、使用権が適応されるメディアの種別を自由形式で記述する。

著作権、肖像権などの権利の種類ではないことに注意すること。

[NskNewsML:1記述形式]

- RightsMetadata 要素
- Catalog 要素
- Copyright 要素
- Copyright/CopyrightHolder 要素
- Copyright/CopyrightHolder/@xml:lang

Copyright/CopyrightDate 要素
 Copyright/CopyrightDate/@xml:lang
 Property 要素 x

CopyrightHolder は著作権の保有者を自由記述形式で記述する。
 CopyrightDate は著作権が発生した日付を自由形式で記述する。

例 xml:lang 属性 (0) により言語を記述することができる。

```
<Copyright>
  <CopyrightHolder xml:lang="ja">A 通信社</CopyrightHolder>
  <CopyrightDate xml:lang="ja">平成 13 年</CopyrightDate>
</Copyright>
```

5.9.3 Descriptive Metadata (記述メタデータ)

DescriptiveMetadata 要素は NewsComponent の内容を記述する情報を含んでいる。Language、Genre、SubjectCode、OfInterestTo、TopicOccurrence、Property の各下位要素は、NewsComponent のジャンル、主題、対象視聴者、どの言語を使うといったこと(これは特定の視聴者や出版物に適切かどうかを判断するのに役立つ)を示し、任意の人々、場所、組織、国についての情報や、ニュースが示した他の実世界の事柄、誰がそのニュースに関与しているかという情報を与える。

Language 要素は ContentItem で使われた言語を示している。FormalName 属性の値は Language 要素の形式名である。これは、Vocabulary 要素と scheme 要素により示された *controlled vocabulary* で決まった値を許すことを意味する。

Genre 要素は NewsComponent のジャンルを示している。FormalName 属性の値は Genre の形式名である。Vocabulary 要素と scheme 要素により示された *controlled vocabulary* で決まった値を許すことを意味する。

SubjectCode 要素は、IPTC のサブジェクトコードを含む。それは IPTCSubjectCodes TopicSet で定義されていて、NewsItem の主題を示す。1 つ以上の Subject、SubjectMatter、SubjectDetail 要素からなり、オプションとして 1 つ以上の SubjectQualifier 要素によって拡大される。

OfInterestTo 要素は NewsItem の対象視聴者を示す。Relevance 下位要素は対象視聴者への NewsItem の適合性を示す。FormalName 属性の値は、OfInterestTo、Relevance 要素の形式名を表し、そのことは Vocabulary 要素と scheme 要素により示された *controlled vocabulary* で決まった値を許すことを意味する。

TopicOccurrence 要素は NewsComponent でどんな Topic が現れているかを表す。オプションである HowPresent 属性は、その Topic の出現の性質を示している。Topic 属性の値は、#記号に現在の文書中の Topic の Duid 属性値を続けることによって、構成しなければならない。

オプションで繰り返し可能な Property 要素は、NewsML DTD の中では明示されない任意の付加的な権利メタデータを与えるために使われる。

誰によって、どの程度の信用度で DescriptiveMetadata が割り当てられたのかを示す **assignment** 要素の使用には特に気をつけるべきである。割り当て情報は、もしツリーのより低いレベルで新しい割り当て課題要素によってくつがえされなければ、サブツリー全体に受け継がれる。適性度の能力と重要度を含んだ割り当て情報は、どんな詳細のレベルにでも与えることができることに注意すべきである。

```

<!ELEMENT DescriptiveMetadata ( Catalog? , Language* , Genre? , SubjectCode* ,
OfInterestTo* , TopicOccurrence* , Property* )>
<!ATTLIST DescriptiveMetadata %localid;
                %assignment; >

<!ELEMENT Language EMPTY>
<!ATTLIST Language %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT Genre EMPTY>
<!ATTLIST Genre %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT SubjectCode ((Subject | SubjectMatter | SubjectDetail), SubjectQualifier*)*>
<!ATTLIST SubjectCode %localid;
                %assignment; >

<!ELEMENT Subject EMPTY>
<!ATTLIST Subject %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT SubjectMatter EMPTY>
<!ATTLIST SubjectMatter %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT SubjectDetail EMPTY>
<!ATTLIST SubjectDetail %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT SubjectQualifier EMPTY>
<!ATTLIST SubjectQualifier %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT TopicOccurrence EMPTY >
<!ATTLIST TopicOccurrence %localid;
                %assignment;
                Topic CDATA #IMPLIED >

<!ELEMENT OfInterestTo (Relevance?)>
<!ATTLIST OfInterestTo %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

<!ELEMENT Relevance EMPTY >
<!ATTLIST Relevance %localid;
                %formalname;
                %assignment; >

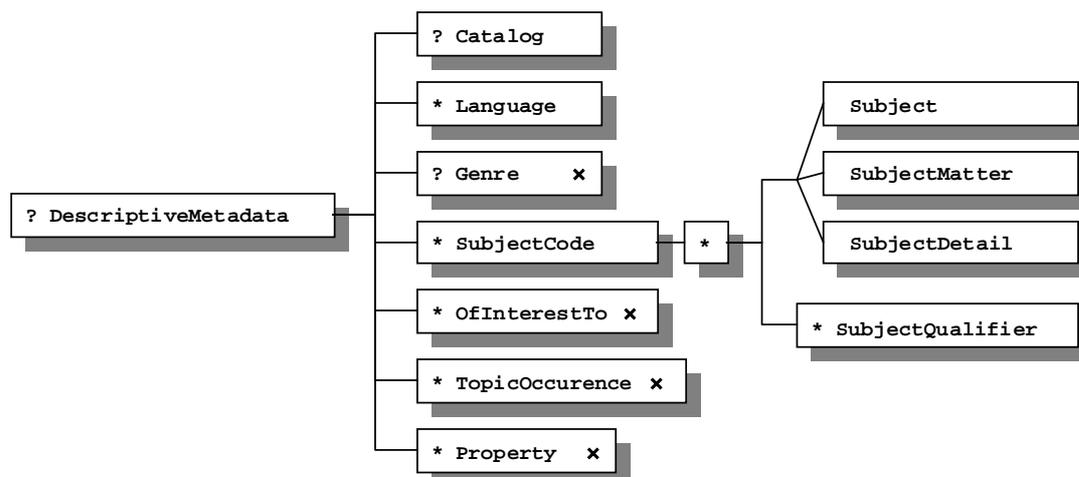
```

この例では、関連のIPTCボキャブラリが、TopicType、Language、Genre、Subject、OfInterestTo要素と、Confidence、Importance属性のためのデフォルトとして宣言されている。その時TopicTypeは、2人の人物 (Bill ClintonとYasser Arafat)、1つのロケーション(The White House Lawn)を含むと規定されている。それからDescriptiveMetadata要素が続く。メタデータは信用度 (Confidence) が「高いHigh」、重要度Importanceが「5」(IPTC importance vocabularyでは「普通」と記されている)が割り振られていると宣言している。記述メタデータによりNewsComponentは英語で記述されていて、ジャンルは「時事 (Current)」、サブジェクトはIPTC Subject「11000000」(IPTC subject codes vocabularyでは政治Politicsと記述)であることがわかる。また、President

Clintonの顕著 (Prominent) な出現、White House Lawnのついで (Passing) の出現、Yasser Arafatの関連して (RelatesTo) の出現がわかる。これはWhite House Lawnでサミット会議に出席するYasser Arafatのヘリコプターの到着を待つPresident Clintonの写真からなるTopicOccurenesの適当なセットである。

```
<Catalog>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcTopicTypes</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcTopicTypes" Context="TopicType"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:Languages</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IsoLanguageCode" Context="Language"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcGenre</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcGenre" Context="Genre"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcSubjectCodes</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcSubjectCode" Context="Subject"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcOfInterestTo</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcOfInterestTo" Context="OfInterestTo"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcConfidence</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcConfidence" Context="@Confidence"/>
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:IptcImportance</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcImportance" Context="@Importance"/>
  </Resource>
</Catalog>
<TopicSet>
  <Topic Duid="person1">
    <TopicType FormalName="Person"/>
    <Description xml:lang="en">President Clinton</Description>
  </Topic>
  <Topic Duid="person2">
    <TopicType FormalName="Person"/>
    <Description xml:lang="en">Yasser Arafat</Description>
  </Topic>
  <Topic Duid="location1">
    <TopicType FormalName="Location"/>
    <Description xml:lang="en">The White House Lawn</Description>
  </Topic>
</TopicSet>
<DescriptiveMetadata Confidence="High" Importance="5">
  <Language FormalName="en"/>
  <Genre FormalName="Current"/>
  <SubjectCode>
    <Subject FormalName="11000000"/>
  </SubjectCode>
  <TopicOccurrence Topic="#person1" HowPresent="Prominent"/>
  <TopicOccurrence Topic="#person2" HowPresent="RelatesTo"/>
  <TopicOccurrence Topic="#location1" HowPresent="Passing"/>
</DescriptiveMetadata>
```

[ツリー図]



[NSK 解説]

DescriptiveMetadata 要素には、NewsComponent 内にどのような内容が格納されているかを説明する情報を記述する。

次のような下位要素を持つ。

Catalog : DescriptiveMetadata の中で使われるボキャブラリを定義する。使用方法に関しては、「Catalog」の章を参照。

SubjectCode : NewsItem の主題を示す。ニュースの分類に使用出来る。

複数の SubjectCode の (下位要素) が記述されている場合は、複数の分類に属することを表す。本要素は、Subject、SubjectMatter、SubjectDetail といった (下位要素) のいずれかもしくはそれら複数の組み合わせで表現する。

ボキャブラリは IPTC を使用する。

IPTC の SubjectCode は、3つの (下位要素) で表現する。それぞれの値は8桁の数値で表現し、先頭2桁が大分類、次の3桁が中分類、最後の3桁が小分類を表現する値となる。【IPTC の SubjectCode】

(下位要素)	意味	値(例)	例の意味
Subject	大分類	15000000	スポーツ
SubjectMatter	中分類	15005000	スポーツ・陸上競技
SubjectDetail	小分類	15005011	スポーツ・陸上競技・10000m 競争

なお、大分類しか記述しない場合は、Subject のみで良い。逆に SubjectDetail は、Subject、SubjectMatter も含んだ値となっているため、Subject、SubjectMatter を併記しなくても良い。SubjectDetail だけの場合でも、Subject、SubjectMatter が設定されている場合と同等に解釈する。

また必要に応じて SubjectQualifier により補足説明することが可能である。

SubjectQualifier では、SubjectCode として指定する主題が、例えばスポーツの場合に、男女の別、プロ / アマ、屋内 / 屋外といった更に詳細な分類を可能とする。上記の例に、以下の SubjectQualifier を付けると、男子陸上 10000m 競争が表現できる。

(下位要素)	意味	値(例)	例の意味
SubjectQualifier	補足情報	15000001	男子

(例1) “夏季オリンピック”に関する記述であることを示す場合

```
<SubjectCode>
  <SubjectDetail FormalName="15073001"/>
</SubjectCode>
```

(例2) “夏季オリンピック陸上 10000m 男子決勝”に関する記述であることを示す場合

```
<SubjectCode>
  <SubjectDetail FormalName="15005011"/>
  <SubjectQualifier FormalName="15000001"/>
  <SubjectQualifier FormalName="15000024"/>
  <SubjectDetail FormalName="15073001"/>
</SubjectCode>
```

[NskNewsML:1 記述形式]

DescriptiveMetadata 要素……………
DescriptiveMetadata /Catalog 要素……………
DescriptiveMetadata /Language 要素……………
DescriptiveMetadata /Genre 要素…………… x
DescriptiveMetadata /SubjectCode 要素……………
DescriptiveMetadata /OfInterestTo 要素…………… x
DescriptiveMetadata /TopicOccurrence 要素 …… x
DescriptiveMetadata /Property 要素…………… x

Language 要素は、FormalName 属性で値を記述する。

(例) <Language FormalName="ja"/>

Subject、SbjectMatter、SubjectDetail、SubjectQualifier 要素の FormalName 属性の値で、IPTC のボキャブラリに不足するコードの追加に関しては、新聞協会を通じて IPTC に申請するものとする。

この例では、ContentItemは日本語で記述されていて、サブジェクトはIPTC Subject 「13008000」(IPTC subject codes vocabularyでは宇宙開発計画 “Space programmes” と記述)であることがわかる。

```
<DescriptiveMetadata>
  <Language FormalName="ja"/>
  <SubjectCode>
    <SubjectMatter FormalName="13008000"/>
  </SubjectCode>
</DescriptiveMetadata>
```

コラム：サブジェクトコードの管理方法について

サブジェクトコードはニュースの主題を示す情報で、言語、データの種類などに依存しないものとして、1997年にIPTCで作成され、メンテナンスされてきた。NewsML以外、これまでもIPTCのIIM、NITFなどのニュースフォーマットにおいて世界中で使われてきた実績がある。

ニュースの主題を数値化、階層化することによりサブジェクトコードは表現される。英語の他、各国言語での説明を追加することにより、どの言語でも使用できる。

サブジェクトコードはIPTCのカテゴリコード分科会でメンテナンスされ、以下のような手続きを経て追加される

- (1) 年3回開催されるIPTCの会議の3週間以上前にIPTC宛に提案を提出
- (2) カテゴリコード分科会での事前検討
- (3) IPTCの全体会議の分科会で検討、承認
- (4) IPTCの標準化委員会でどのように文書化するかを決定

2001年のIPTC年次総会で日本新聞協会から大幅な追加を要望し、過半数が承認された。追加手続きとしては、日本で追加するサブジェクトコードを検討し英語の説明を付加したものを会議の3週間前にIPTCに提出、IPTCの分科会での検討を経て、全体会議で検討された。検討の中で、「スポーツリーグ名」「選挙情報」「政党」などの各国独自の情報を含むものは、キーワードに含むべきものとして承認されなかった。既存の米国の大リーグ名については過去に追加を認めたのは誤りと認識されたが、現時点では既に認められたものとして削除されていない。これらの国に依存する特殊な情報の表現方法はスポーツ、選挙など特殊なデータコンテンツ表現のためのマークアップ作成の中で検討される。国ごとの管理や部分的なローカルな使用など柔軟なサブジェクトコードの運用も提案されたが、世界での共通使用というサブジェクトコードの基本的な概念と相容れないものとして受け入れられなかった。また、この会議の中でメジャー、マイナーなどをサブジェクトクオリファイアに追加、一般的なプロスポーツリーグ情報を少し細分化して識別する方法がUPIから提案され一般的な方法として承認された。

追加が認められたサブジェクトコードと認められていないサブジェクトコードを以下に記述する。(日本語は暫定訳)

追加が認められたサブジェクトコード

漫画(Cartoon), アニメ(Animation), 検察(Prosecution), 組織犯罪(Organized Crime), 自動車事故(Road Accidents), 列車事故(Railway Accidents), 航空・宇宙事故(Air and Space Accidents), 海難事故(Maritime Accidents), 経済団体(Economic organizations), 入試(Entrance examination), 叙勲・賞(Award:Prize), 皇室(Imperial, Royal Matters), サミット(Summit), 少年問題(Juvenile delinquency), 核被爆者(Nuclear Radiation Victims), 軟式野球(Rubberball Baseball), 囲碁(Go)

追加が認められなかったサブジェクトコード

首長選挙(Parliamentary Elections), 議会選挙(Local Assembly Elections), 市長選挙(Gubernatorial, Mayoral Elections), 首相・大統領(Prime Minister, President), 諮問機関(Advisory panels), 与党(Ruling Parties), 野党(Opposition Parties), セントラルリーグ(Japanese Baseball-Central League), パシフィックリーグ(Japanese Baseball-Pacific League), J1リーグ

5.10 NewsLines はメタデータの人間に対する局面を表す

NewsComponentはNewsLinesを含むことができる。その目的はメタデータのある局面を人間が判読できる(出版できる)表現として与えること。NewsLines要素は、HeadLine、SubHeadLine、ByLine、DateLine、CreditLine、CopyrightLine、RightsLine、SeriesLine、SlugLine、KeywordLine *subelement*を含む。HeadLineもあるときに限りSubHeadLineが現れてもよいという例外はあるが、これら全てはオプションで繰り返し可能である。

HeadLine要素は表示可能な見出しを提供し、SubHeadLine要素は表示可能な補助見出しを提供する。

ByLine要素は著者 / クリエイター情報の自然言語陳述を提供する。

DateLine要素はNewsComponent作成の日付および場所、またはそのいずれかの自然言語陳述を提供する。

CreditLine要素はクレジット情報の自然言語陳述を提供する。

CopyrightLine要素は著作権情報の自然言語陳述を提供する。

RightsLine要素は権利情報の表示可能な説明を提供する。これは著作権情報とは全く異なることに注意せよ。著作権情報は誰が*news object*の所有者であるかについての情報である。一方、権利情報は誰がどのような方法で、どのような状況のもとでそれを使用することが許されているかについてである。

SeriesLine要素は、続き物におけるニュースオブジェクトの位置に関する表示可能な説明を提供する。

slugLine要素はテキストの文字列を提供する。おそらくハイパーリンクおよびフォーマットिंगまたはいずれかに飾られており、NewsItemのslug lineを表示するのに使われる。("slug line"の用語の意味とその使い方は、個々の配信社が自身のワークフローと業務慣行の中で定義するものであることに注意する。)

KeywordLine要素は*news object*に関連した表示可能なキーワードのセットを提供する。これはNewsMLシステムが手動もしくは自動の検索を補助することに使える。

NewsLine要素はNewsMLの仕様に含まれない*newsline*の型を含むことを考慮に入れている。それぞれの*newsline*要素は1つのNewsLineType要素を含まなければならない。そして1つ以上のNewsLineText要素を含むことができる。1つ以上のNewsLineText要素があれば、それらが書かれた言語を表すxml:lang属性によって区別される。

NewsLineType要素はユーザー定義のNewsLineの型を表す。FormalName属性の値はNewsLineTypeの形式名である。その意味と許可される値は、Vocabulary属性とScheme属性によって識別される*controlled vocabulary*によって決められる。

NewsLineText要素は、ユーザー定義型のNewsLineのテキストを含む。NewsLineText要素はプレーンテキストとOrigin要素のどんな混合でも含むことができる。

NewsLines要素は、NewsComponentが持つ全てのNewsLineのコンテナである。

```

<!ELEMENT NewsLines ((HeadLine, SubHeadLine?)*, ByLine*, DateLine*, CreditLine*,
CopyrightLine*, RightsLine*, SeriesLine*, SlugLine*, KeywordLine*, NewsLine*)>
<!--ATTLIST NewsLines %localid; -->

<!--ELEMENT HeadLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST HeadLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT SubHeadLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST SubHeadLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT ByLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST ByLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT DateLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST DateLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT CreditLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST CreditLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT CopyrightLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST CopyrightLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT RightsLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST RightsLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT SeriesLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST SeriesLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT SlugLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST SlugLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT KeywordLine (#PCDATA | Origin)*-->
<!--ATTLIST KeywordLine %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT NewsLine (NewsLineType , NewsLineText+)-->
<!--ATTLIST NewsLine %localid; -->

<!--ELEMENT NewsLineText (#PCDATA |Origin)*-->
<!--ATTLIST NewsLineText %localid;
      xml:lang CDATA #IMPLIED -->

<!--ELEMENT NewsLineType EMPTY-->
<!--ATTLIST NewsLineType %localid;
      %formalname; -->

```

この例では、**Origin** 要素はnews linesのパーツからローカルなトピックセットの中のトピックへリンクするのに使われている。この要素は当該のトピックについての外部情報源を参照する**Details** 属性を持っている。付け加えると、ユーザー定義のnewsline のタイプはローカルなトピックセットで宣言され、付加的な**NewsLine**要素で使われる。

```

<TopicSet Duid="LocalTopicSet">
  <Topic Duid="person1" Details=http://mydomain.com/staff.xml#jwilson">

```

```

<TopicType FormalName="person"
  Vocabulary="http://www.iptc.org/NewsML/topicsets/iptc-topictypes.xml"/>
</Topic>
<Topic Duid="position1" Details=http://mydomain.com/positions.xml#staffreporter">
  <TopicType FormalName="position" Vocabulary="#LocalTopicSet"/>
</Topic>
<Topic Duid="newspaper1" Details=http://mydomain.com/papers.xml#dailyrecord">
  <TopicType FormalName="newspaper" Vocabulary="#LocalTopicSet"/>
</Topic>
<Topic Duid="newslinetype1">
  <TopicType FormalName="NewsLineType"
    Vocabulary="http://www.iptc.org/NewsML/topicsets/iptc-topictypes.xml "/>
  <FormalName>ImpactLine</FormalName>
  <Description xml:lang="en">An indication of the significance of the event
described</Description>
</Topic>
<Topic Duid="topictype1">
  <TopicType FormalName="TopicType"
    Vocabulary="http://www.iptc.org/NewsML/topicsets/iptc-topictypes.xml"/>
  <FormalName>position</FormalName>
  <Description xml:lang="en">An job function performed by a person.</Description>
</Topic>
<Topic Duid="topictype2">
  <TopicType FormalName="TopicType"
    Vocabulary="http://www.iptc.org/NewsML/topicsets/iptc-topictypes.xml"/>
  <FormalName>newspaper</FormalName>
  <Description xml:lang="en">A publication that carries news.</Description>
</Topic>
</TopicSet>
...
<NewsLines>
  <HeadLine>Clinton Addresses Crowd</HeadLine>
  <SubHeadLine>New policies announced</SubHeadLine>
  <ByLine>By <Origin Href="#person1">James Wilson</Origin></ByLine>
  <CreditLine><Origin Href="#position1">Staff Reporter</Origin> of <Origin
Href="#newspaper1">The Daily Record</Origin></CreditLine>
  <NewsLine>
    <NewsLineType FormalName="ImpactLine" Vocabulary="#LocalTopicSet"/>
    <NewsLineText>Key pre-election rallying call</NewsLineText>
  </NewsLine>

```


NewsLines/NewsLine要素

複数言語が混在する場合は、`xml:lang`を使い言語を切り換える方法で、複数の要素を並列表記する。テキスト部分はすべて自由形式だが、`NewsLineType`の`FormalName`はNSKオリジナルボキャブラリを使用する。

(各下位要素の説明)

要素名	説明	例
HeadLine	見出し	わかり易いNewsML
SubHeadLine	副見出し	初心者向け解説
ByLine	作成者	日本新聞協会
DateLine	作成日	2001年 5月
CreditLine	クレジット	NSK
CopyrightLine	コピーライトの表記	2001 NSK All rights reserved
RightsLine	権利情報	協会加盟社
SeriesLine	シリーズものの名称と回数	連載 1 回目
KeywordLine	検索用のキーワード	NskNewsML:1 、 1 回目
NewsLine	その他、上記で表現できない情報領域	「絵解き」や「編注」の情報

フォーマットサンプル

```

<NewsLines>
  <!--以下のXXXXXLinesは、省略可能-->
  <HeadLine xml:lang="en">Simple NewsML</HeadLine>
  <SubHeadLine xml:lang="en">for beginner</SubHeadLine>
  <HeadLine xml:lang="ja">わかり易いNewsML</HeadLine>
  <SubHeadLine>初心者向け解説</SubHeadLine>
  <ByLine>日本新聞協会</ByLine>
  <DateLine>2001年 5月</DateLine>
  <CreditLine>NSK</CreditLine>
  <CopyrightLine xml:lang="en">2001 NSK ALL rights reserved</CopyrightLine>
  <RightsLine>協会加盟社</RightsLine>
  <SeriesLine>連載 1 回目</SeriesLine>
  <KeywordLine>NskNewsML:1</KeywordLine>
  <KeywordLine> 1 回目</KeywordLine>
  <NewsLine>
    <NewsLineType FormalName="Caption"/>
    <NewsLineText>内容を変更する場合は新聞協会まで連絡を下さい</NewsLineText>
  </NewsLine>
</NewsLines>

```

5.11 NewsItems への改版の発行

`NewsItem`の新しい版は、改版される`NewsItem`と同じ`ProviderId`、`DateId`、`NewsItemId`を持つ`NewsItem`を含む新しい`NewsML`文書を発行することによって作成される。

`NewsItem`の他の部分に何の変更も行わないで、`NewsManagement`および/または`Identification`の1つ以上の下位要素を修正するために、`RevisionId`要素は、オリジナルのものとまったく同じであるべきであり、その`update`属性の値は「A」に設定されるべきだ。そして、`NewsItem`は、あらゆる変更を組み込む完全な`Identification`および`NewsManagement`要素を入れるべきで、ほかには何も入れてはならない。

もし NewsItem の他の部分が何らかの方法で修正されれば、RevisionId は、以前のものより大きい数字であるべきだ。そして、PreviousRevision 属性は、その前の版の RevisionId に等しくあるべきだ。その時 2 つの選択がある:

- なされた変更を組み入れた完全な NewsItem を発行する。そして RevisionId 要素の Update 属性の値を「N」に設定する。
- NewsItem の NewsComponent 下位要素は、新しいドキュメントに含まず、その代わりに変更したことを示す 1 つ以上の Update 要素を提供する。そして RevisionId 要素の Update 属性の値を「U」に設定する。

Update 要素は、既存の NewsItem に加えた変更を示す。これには、挿入(insertion)、置き換え(replacement)、あるいは削除(deletion)がある。Update 要素が NewsManagement、あるいは Identification 要素、あるいはそれらの子孫(descendants)のどれかを変更するために使うことができないことに注意せよ。NewsItem のこれらの部分への変更は、Identification および NewsManagement 要素の提示だけで、現在の版番号のもとに NewsItem を発行することによってできる。これらは、その全体で以前の Identification および NewsManagement 要素を置き換えるだろう。Update 要素は、以下の種類の下位要素をいくつか含む:

- Delete (削除)
- Replace (置き換え)
- InsertBefore (前に挿入)
- InsertAfter (後ろに挿入)

システムで NewsItem の新しいコピーを作成するのは、受信者の側であり、それまでに既にあるか、配信社側が要求した NewsItem の前の版に対する Update 指示に対応する。NewsItem の新しい版を作成するために、各 Update 要素のそれぞれの下位要素は、変更が生じた順に、順番に処理される。各下位要素の DuidRef 属性の値は、前の版で持っていた要素の Duid に合わせる必要がある。これは指示に合った要素である。削除(Delete)の場合、該当する要素は改訂された NewsItem から省かれる。置き換え(Replace)の場合、該当する要素は Replace 要素の内容に置き換えられる。InsertBefore の場合、InsertBefore 要素の内容が、新しい版で該当する要素の前に付け加えられる。InsertAfter の場合、InsertAfter の内容が、新しい版で該当する要素の後に加えられる。

```
<!ELEMENT Update (InsertBefore | InsertAfter | Replace | Delete )*>
<!ATTLIST Update %localid; >

<!ELEMENT InsertBefore ANY >
<!ATTLIST InsertBefore %localid;
                DuidRef CDATA #REQUIRED >

<!ELEMENT InsertAfter ANY >
<!ATTLIST InsertAfter %localid;
                DuidRef CDATA #REQUIRED >

<!ELEMENT Replace ANY >
<!ATTLIST Replace %localid;
                DuidRef CDATA #REQUIRED >

<!ELEMENT Delete EMPTY >
<!ATTLIST Delete %localid;
                DuidRef CDATA #REQUIRED >
```

NewsItem の変更

[NSK 解説]

NewsML では、発行済みの NewsItem を変更する手段を提供している。変更には次の 3 種類がある。

- 1) NewsItem 全体を、すべて送り返す場合(改版される)
- 2) NewsItem/NewsManagement の変更をする場合(改版されない)
- 3) NewsItem/Update 要素を使って NewsItem 内の部分または全体の変更指示を送る場合(改版される)

以下に詳細を説明する。

- 1) NewsItem 全体を、すべて送り返す場合(改版される)

これは、NewsComponent をはじめ、すべての内容を含めた NewsItem を、新しい版として送ることである。

この場合、NewsItem/Identification/NewsIdentifier/RevisionId 要素を次のように記述し、以下の条件を満たさなければならない。

```
<RevisionId PreviousRevision="1" Update="N">2</RevisionId>
```

- Update 属性値は "N" でなければならない。
- PreviousRevision 属性値(上記の "1")は、NewsItem の前の版と同じでなければならない。
- RevisionId 要素の内容(上記の 2)は、前の版よりも大きい数字にしなければならない。

上記に伴い、PublicIdentifier の値も変化するので注意する必要がある。具体的には、urn:newsml:{ProviderId}:{DateId}:{NewsItemId}:{RevisionId}{RevisionId@Update}の {RevisionId}{RevisionId@Update}が変化する。

(例)

```
<PublicIdentifier>urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T001:2</PublicIdentifier>
```

(例 1)

--発行済みの版--

```
<NewsIdentifier>
```

...

```
<RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
```

```
<PublicIdentifier>urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T001:1</PublicIdentifier>
```

```
</NewsIdentifier>
```

...

--新しい版を送り、改版する--

```
<NewsItem>
```

```
<Identification>
```

```
<NewsIdentifier>
```

...

```
<RevisionId PreviousRevision="1" Update="N">2</RevisionId>
```

```
<PublicIdentifier>urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T001:2</PublicIdentifier>
```

```
</NewsIdentifier>
```

```

</Identification>
<NewsManagement>
...
</NewsManagement>
<NewsComponent>
  <!-- 新しいニュースコンポーネント -->
  ...
</NewsComponent>
</NewsItem>

```

2) NewsItem/NewsManagement の変更をする場合(改版されない)

これはすでに発行済みの NewsItem に対して、NewsItem/Identification や NewsItem/NewsManagement を変更し、NewsItem の他の部分に何の変更も行わない場合に使用する。

この場合、NewsItem/Identification/NewsIdentifier/RevisionId 要素を次のように記述し、以下の条件を満たさなければならない。

```
<RevisionId PreviousRevision="0" Update="A">1</RevisionId>
```

- Update 属性値は "A" でなければならない。
- PreviousRevision 属性値(上記の "0")と RevisionId 要素の内容(上記の "1")は、変更される NewsItem の版と同じでなければならない。
- NewsItem には変更部分を含む完全な形の Identification と NewsManagement 要素のみを記述し、NewsItem の他の要素を記述してはならない。

上記に伴い、PublicIdentifier の値も変化するので注意する必要がある。具体的には、urn:newsml:{ProviderId}:{DateId}:{NewsItemId}:{RevisionId}{RevisionId@Update} の {RevisionId@Update} が省略されず、A になり、{RevisionId}A の記述になる。

受信側は、修正の反映時にもとの NewsIdentifier を変更してはならない。

(例 2) 発行済みの NewsItem のステータスを変更する場合

```
--発行済みの版--
```

1) NewsItem 全体を、すべて送りなおす場合と同じ

```
--上記の版を公開待機にする場合--
```

```

<NewsItem>
  <Identification>
    <NewsIdentifier>
      ...
      <RevisionId PreviousRevision="0" Update="A">1</RevisionId>
      <PublicIdentifier>urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T001:1A</PublicIdentifier>
    </NewsIdentifier>
  </Identification>
  <NewsManagement>
    ...<!--すべて置き換えられるので、省略せずに記述する。-->
    <Status FormalName="Embargoed"/>
    ...
  </NewsManagement>
  <!-- NewsComponent は記述してはいけない -->
</NewsItem>

```

上記を受けた以降、urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T001:1 で指定される NewsItem の内容は、ステータスが公開禁止(Embargoed)になっていなければならない。

(例3)発行済みの NewsItem へ関連情報(NewsManagement/AssociatedWith)を追加する場合

--発行済みの版--

1) NewsItem 全体を、すべて送りなおす場合と同じ

--上記の版へ関連情報(NewsManagement/AssociatedWith)を追加する場合--

```
<NewsItem>
  <Identification>
    <NewsIdentifier>
      ...
      <RevisionId PreviousRevision="0" Update="A">1</RevisionId>
      <PublicIdentifier>urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T001:1A</PublicIdentifier>
    </NewsIdentifier>
  </Identification>
  <NewsManagement>
    ...<!--すべて置き換えられるので、省略せずに記述する。-->
    <AssociatedWith NewsItem="urn:newsml:provider.or.jp:20010503:T029">
      <Comment>解説記事</Comment>
    </AssociatedWith>
    ...
  </NewsManagement>
  <!-- NewsComponent は記述してはいけない -->
</NewsItem>
```

3) NewsItem/Update 要素を使って NewsItem 内の部分または全体の変更指示を送る場合(改版される)

これは Update 要素を使用して、主に NewsComponent 以下の変更を指示する。NskNewsML:1 では Update 要素が使用禁止なので説明は省略する。

5.12 ポインタの使用

NewsML は、明示的に含むよりもむしろ参照によりデータを含むため、ポインタの使用をサポートしている。この手法は ContentItem 内にある外部データ参照の際に使われる。また新しい文書にすべての内容をコピーするする必要がなく、NewsML 中の既存の NewsItem を含む際に使われることもある。

ContentItem の場合、ContentItem の Href 属性は、5.8 [ContentItem の構造](#)でも説明したように、参照によって外部オブジェクトを含むのに使われる。

NewsItem の場合、NewsItemRef は、NewsItemRef 要素を置き換えると判断する NewsItem に対するポインタである。NewsItem 属性は関連した NewsItem へのポインタである。その値は http URL または NewsML URN か、現在の文書中で#記号の後に NewsItem の Duid を置いて構成している fragment identifier である。オプションの Comment は、この NewsItem を含む理由を解説するために使うことができる。

```
<!ELEMENT NewsItemRef (Comment*)>
<!ATTLIST NewsItemRef %localid;
                NewsItem CDATA #IMPLIED >
```

5.13 NewsML の発展

NewsML は、それぞれが宣言された *naming scheme* によって決められている名前を持つ、一般的な *Metadata*、*Property*、*Label*、*NewsLine* 要素を提供する。これらの要素は、コントロールされた方法で、新たなメタデータや *newslines*、*labels* を加えて使うことができる。それゆえ NewsML 文書には、繰り返し拡張する表現能力がある。NewsML 自体の新しい版がリリースされるとき、NewsML *DTD* や *schema* に、新たなメタデータや *newslines*、*labels* のいくつか、あるいは全部を付け加えることが可能である。

5.14 認証とセキュリティ

AdministrativeMetadata は、*NewsComponent* のソース(著作者、発行者、再頒布者など)を特定する。それゆえ NewsML 文書の受信者は、それが誰からまたはどんな組織から来たものかを特定でき、信頼できる情報かどうか判断することができる。

NewsML では認証方法や *news object* のデジタル署名付与の仕組みを明示的に準備していない。*W3C* の *XML-Signatures* 仕様が *W3C* 勧告となり、そこで定義された仕組みが使われるようになるのを待つ。

6 用語

AdministrativeMetadata	管理メタデータ。XMLコンテンツ管理システムにおいて、NewsComponentの出所についての情報と、名付け方の指示を提供するメタデータ。
AllowedValues	プロパティに対して許される値の範囲を決める <i>controlled vocabulary</i> を示すProperty要素の属性。
AssignedBy	だれが、あるいはどのシステムが、メタデータを割り当てた(<i>assigned</i>)のかを示す。
assignment	要素からなるエンティティ。その要素により、メタデータを割り当て(<i>assigned</i>)た人物またはシステム、信頼性の度合い、アサインメントに与える重要性、文脈(<i>context</i>)での参照トピックの存在という性質、などを判断できる。
AssociatedWith	関連した素材を伴ったNewsItemへの参照。
attribute (属性)	XMLの構成は、XML要素のプロパティを表すペアの name-value から成り立っている。属性宣言は要素の開始タグに含まれている。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>例:</p><pre><MyElement MyProperty="myvalue" /></pre><p>MyElement 要素は、値が myvalue の MyProperty プロパティを持っている。</p></div>
BasisForChoice	NewsComponentの下位要素。その <i>content</i> は、NewsComponent内の各アイテムに関連し、アイテム間の選択基準として使われている値を持つデータオブジェクトを識別するXPath宣言である。
ByLine	著者/作者の情報を示している。
Catalog	Resource要素とTopicUse要素の親要素(container)。Resource要素はURNsからURLsへのマップをし、すぐ上のCatalog要素から始まるサブツリー内のある要素の形式名に適用される <i>default vocabularies</i> を示している。
Characteristics	解釈前あるいは解釈後のデータを処理するために必要なシステム要件に関するContentItemの物理的な特徴についての情報を提供する。これは、ファイルサイズのバイト数といったものや、ユーザーが <i>controlled vocabularies</i> を介して定義したり、先々のバージョンでNewsML DTDに加えられるかもしれない他のプロパティをカバーする。
Comment	さまざまな言語により、現行の要素を記述したり、その要素について記述すること。commentの親要素に含まれる情報を拡張した、人間が理解できる形の付加情報を提供する。
Complements (補完)	必要とされているフル情報の一部しか提供されていないとき、付け加えるべきNews objects。
Confidence	所定の文脈(context)で割り当てられたtopic referenceの信頼度。Confidence属性の値は <i>controlled vocabulary</i> によって制御されている。
content	コンテンツ。内容。要素の開始タグと終了タグの間にあるすべてのデータ。

Example:

```
<MyElement>text<ContentItem Href="a.xml" /></MyElement>
```

MyElement 要素の *content* は次の行である。

```
text<ContentItem Href="a.xml"/>
```

ContentItem 要素は *content* を持っていない。

ContentItem	人間に対しプレゼンテーションすることを意図した表現コンテンツ(たとえばテキスト、イメージ、ビデオ、オーディオなど)を伝達するデータオブジェクトを含み、そのデータオブジェクトへのポインタを提供する <i>news object</i> 。
Context	その値が <i>XPath</i> パターンである <i>TopicUse</i> の属性。現在の <i>Catalog</i> に当てはまるサブツリー内にあり、参照トピックが使用された <i>context</i> を示す。
Contributor	生成されたニュースオブジェクトの修正や拡張を行った個人、会社、組織あるいはその組み合わせを示す。
controlled vocabulary	定義された用語とその意味のリスト。公式変更手順により保守される。(<i>naming scheme</i> 参照)。
Copyright	<i>news object</i> の著作権。
CopyrightDate	著作権日付の口語表現。
CopyrightHolder	著作権保持者情報の口語表現。
CopyrightLine	著作権情報の口語表現。
Creator	<i>news object</i> を作成した個人、会社、組織またはその組み合わせ。
CreditLine	信用情報の口語表現。
DataContent	ContentItem の <i>content</i> を保持するデータ。
DateAndTime	日付とオプションの時刻またはその双方の形式表現。ISO 8601 基本フォーマット (CCYYMMDDTHHMMSS {+ または -} HHMM) (世紀、年、月、日、時刻セパレータ、時、分、秒、タイムゾーンセパレータ、時、分) で表現される。システムで自動処理可能。
DateId	NewsItem の日付識別子。ISO 8601 の簡略日付フォーマット (CCYYMMDD)。DateId は NewsItem の形式的な識別子であり、同じ NewsItem の一連のリビジョンでは同じ値が維持されなければならない。
DateLabel	日付および(または)時刻の文字列表現。人が NewsItem を確認するために使用。
DateLine	作成された日付、場所の口語表現。
declaration (宣言)	DTD の中で、その DTD に沿ったドキュメントの特定の構造を定義する文字列。
default vocabulary	他の <i>controlled vocabulary</i> を特に参照し、上書きされるまで、あるいは上書きしない場合、デフォルトの意味と認められた値を与える <i>controlled vocabulary</i> 。
DefaultVocabularyFor	<i>default vocabulary</i> を与える親リソースを示す。 <i>default vocabulary</i> は NewsML ドキュメントのサブツリーの特定のパートに出現し、意味と許可されたデータ値を決定する。
Delete	現在の NewsItem の前の版の NewsItem 中の指定された要素の削除命令。
DerivedFrom	NewsItem がどこから得られたかを示す。

Description	Topicを示す記述。それによって、Topicに関連付けられた形式名の意味を示す。オプションのVariant属性により同じ言語で書かれた複数の記述が可能のため、他のものと区別できる。
DescriptiveMetadata	NewsComponentの内容を記述するメタデータ情報。
Details	Topic要素の属性。URL またはURNの形式で中でTopicに関する追加情報へのポインタを提供。
DOCTYPE declaration	XMLドキュメント中の特別なdeclaration。そのドキュメントが従うDTDを含む外部ファイルを指定する。
DTD	Document Type Definition (文書型定義)。XMLドキュメントの構造を決定するdeclarationsのセット。DTD はドキュメント自体の中にある内部サブセット (internal subset)、ドキュメントのDOCTYPE declaration により参照されるファイル内にある外部サブセット (external subset)、または両者のその組み合わせに含むことができる。
Duid	ドキュメントユニークな識別子 (document-unique identifier)。このオプションの属性により、要素はNewsML ドキュメントの中で唯一のものとして識別される。
DuidRef	参照要素のDuid属性に値が一致する属性。
element (要素)	XML文書の構成要素(component)。要素はelement typeの名前を含む開始タグとオプションのいくつかの属性から始まる。さらに、(下位要素と呼ばれる)別の要素からなるいくつかのcontent、テキスト、またはその双方を含むことができる。要素は終了タグで終わるか、contentがない時は開始タグの最後にスラッシュが附加される。
	<p>Example:</p> <pre><MyElement>some text<EmptyElement /></MyElement></pre> <p>これは text と EmptyElement 型の空要素を含む MyElement 型の要素。</p>
element type	XML要素のカテゴリ。開始、終了タグにおける名称で識別される。特定のelement typeの要素はDTDもしくはschema中のelement typeのdeclarationsで定義された構造化規則を満たさなければならない。
encoding (エンコーディング)	データ・オブジェクトに含まれるデータを解釈する時に適用される規則。encodingの例としては、ASCII、UTF-8、UTF-16、base64、uuencode、zip など。XMLファイルは、これらのencodings(それらはバイトストリームを文字ストリームに翻訳することができる規則を決定する)の内のいずれかを使用することができる。
Encoding	ContentItemの内容を包含するデータのencoding。
EndDate	使用権が終了する日付を指定する口語表現。
entity (エンティティ)	XML文書に参照によって含むことができるデータ・オブジェクト。エンティティは文字番号によって参照された文字列、DTDかschema中の宣言で定義されたテキスト、あるいはテキストか他の種類のデータ(それらはオーディオ、ビデオ、イメージのようなバイナリーデータを含んでいるかもしれない)のいずれかを含んでいる外部ファイルであり得る。
entity reference	エンティティに対してポインタとなっているXML文書の中の文字列で文書内にある。例えば、“The NewsML functional specification”がnfsという名前のエンティティとして定義された場合、“Please refer to the &nfs; for details”というフレー

ズでは、“&nfs”は*entity reference*であり、そのフレーズは“Please refer to the NewsML functional specification for details”という意味となる。

equivalents (等価)	含んでいる情報が等価であるので、選択が行なわれるべき <i>News objects</i> 。
EquivalentList	NewsComponent の <i>属性</i> の1つで、その中の <i>news objects</i> が、内容と/または意味において別の <i>news objects</i> に対して <i>equivalents (等価)</i> であるかどうか、「あるいは <i>complements (補完)</i> であるかどうか、を指し示すもの。
Essential	NewsComponent の <i>属性</i> の1つで、配信社がこの NewsComponent が重要であるとみなしているかどうかを示す。
Euid	要素を唯一(ユニーク)なものにする識別子(element-unique identifier)。すべてのNewsML <i>element type</i> のオプション <i>属性</i> 。同じ親要素内の同じ <i>element type</i> の間で、要素が唯一のものとして(ユニークに)識別されることを可能にする。
external subset	外部サブセット 。XML文書の構造を管理し、その文書の <i>DOCTYPE declaration</i> から参照されたDTDに含まれる <i>declarations</i> 。
FileName	NewsItem の、示唆されたかあるいは実際の記憶ファイル名。
FirstCreated	NewsItem が最初に作成された日付。オプションとしてその時間。ISO8601 基本フォーマットで表現する。
formalname	FormalName 、 Vocabulary <i>属性</i> 、 Scheme <i>属性</i> からなるエンティティ。 FormalName は、 <i>controlled vocabulary</i> によってその意味が決定される文字列からなる。 Vocabulary <i>属性</i> があれば、それは FormalName の意味を解くために使用することができる <i>controlled vocabulary</i> である TopicSet へのポインタを供給する。 Scheme <i>属性</i> があれば、それは <i>controlled vocabulary</i> 中に多分多数ある <i>naming schemes</i> のうち、 FormalName を管理しているものを識別するのに役立つ。
FormalName	<i>controlled vocabulary</i> の中の <i>naming scheme</i> によって意味が決定される文字列。 <i>controlled vocabulary</i> は(要求はされないが)、NewsML TopicSet の形式をとる場合もある。
format(フォーマット)	データオブジェクト内の情報を運ぶために使われるファイルタイプ。フォーマットにより、オブジェクトを加工したり、翻訳、表現したりすることが可能なアプリケーションが決まる。 <i>format</i> の例として、GIF、JPEG、WAV、Microsoft Word、XMLなどがある。
Format	ContentItem のフォーマットの表示。
fragment identifier	URL または URNのうちでリソース内の位置またはサブストリングを識別する部分。#文字によって、URLあるいはURNの主要部分から分けられる。
FutureStatus	指定された将来の日付における NewsItem のステータスの表示。
Genre	NewsComponent のジャンルの表示。
Geography	特定の使用権が当てはまることを指定された地域の口語での表現。
HeadLine	表示することができるヘッドライン。
HowPresent	メタデータを適用する方法の表現
Href	情報が NewsML 文書または外部リソースのどこにあるかを指し示す <i>属性</i> 。

Identification	NewsItem の識別に役立つメタデータ。NewsIdentifier、任意のNameLabel、DateLabelおよびオプションで反復可能なLabelを含む。
IETF	Internet Engineering Task Force
Importance	メタデータを付与するpartyがつけた重要性のランクづけ。
inclusion by reference	参照による内包。 対象物自体の代わりに、データ対象物へのポインタを文書内で使用すること。この機構により、ほんのわずかの文字を伝えることによって、大きいNewsML 文書を送ることを可能になる。伝えられた文字のいくつかがポインタになる。そしてそれは、NewsML 文書が解釈されるが使われるときに、対象物自体に置き換えられる。
InsertAfter	NewsItemの内部で、指定された要素の後にcontentを挿入する指示。
InsertBefore	NewsItemの内部で、指定された要素の前にcontentを挿入する指示。
Instruction	ニュース配信社から NewsItem受信社への指示。
internal subset	内部サブセット。 文書構造を定義する declarations の一部あるいはすべてを含んでいるXML文書の一部分。内部サブセットにないdeclarationsは、外部サブセット (external subset) にある。
IPTC	International Press Telecommunications Council (国際新聞電気通信評議会)
KeywordLine	news objectに関係のあるキーワードの表示可能な一群。これは、手動、あるいは自動化検索を助けるために NewsML システムにより使用することができる。
Label	NewsItem用の人が解読可能なラベル。
LabelText	特定のLabelTypeの Labelを構成するテキスト。
LabelType	Label のユーザー定義の型。FormalName属性の値は、LabelType に対しての形式名である。
Language	ContentItemで使用される用語または言語の識別子。
Limitations	特定の使用権に適用される用語と条件の自然言語表現法。
media type	データ対象物に含まれる情報を人に示す媒体の種類。media type の例は、ビデオ、オーディオ、ラスタ・イメージ、ベクトル・グラフィック、テキストなどである。
MediaType	ContentItemのメディアタイプの指示。
metadata (メタデータ)	システムがデータ対象物を適切に処理することを可能にする目的で、データ対象物と結びつけられたデータ。システムは、コンピュータ・アプリケーション、人間が処理するビジネス・プロセス、またはその2つの組み合わせがある。
Metadata	metadataのユーザー定義型のための入れ物。
MetadataType	この Metadata要素内の Property要素により表されるメタデータ型の指示。
MIME	マルチパート・インターネット・メール・エクステンション。IETFの公式の仕様。インターネット上で伝達されるデータ対象物を解釈、処理または表現する能力のあるアプリケーションへの準拠を可能とするために、そのフォーマットを規定する仕組みを示している。

MIME-type	データ対象物を解釈、処理または表現する能力のあるアプリケーションへの準拠を可能とするために、そのフォーマットを識別する特定の文字列。IETF は標準 <i>MIME-types</i> の登録を行っている。追加の <i>MIME-types</i> のユーザー定義も可能。
MimeType	ContentItem の MIME-type の指示。
NameLabel	NewsItem の識別の助けになる名前として、人間の使用者が使う記号列。
naming scheme	既知の意味をもつ名前や符号の一群。
news object	News ML 文書の主な構成の一つ。異なる種類の <i>news object</i> は、 NewsEnvelope 、 NewsItem 、 NewsComponent 、 ContentItem である。
NewsComponent	<i>news objects</i> の入れ物。お互いとの関連で <i>news objects</i> の役割を識別するために、メタデータをそれらに基づけるために使用される。
NewsEnvelope	1つ以上の NewsItem を NewsML 文書として送信することについての情報。
NewsIdentifier	NewsItem のための固有の識別子。 ProviderId 、 DateId 、 NewsItemId 、 RevisionId で構成される A4-part 識別子と、これら4つの下位要素のコンポーネントすべてを結びつける PublicIdentifier 。
NewsItem	ニュースの意味ある項目。これは NewsML 文書内のXML element type。 NewsItem は簡単なものか複雑なものであり、なにかの媒体によるものか媒体の組み合わせによるものであり得る。そのものが NewsItem であるとわかるのは、ある出来事・事件に関し、特定の時間に、ある視点を表す管理情報を加えることによる。このためには最低限、視点を表すための時間とソース（人または組織）を関連づけるのに十分なメタデータが必要である。
NewsItemId	特定の NewsItem について配信社が決める固有の識別子。 NewsItem の同一性の構成を決定し、これに基づき管理された方法で NewsItemId を割当てるのは配信社の側である。
NewsItemRef	NewsItemRef 要素を置き換えるための、外部の NewsItem へのポインタ。
NewsItemType	NewsItem のタイプ指示
newsline	テキストからなる特殊なニュース・メタデータで、ユーザーにニュース・メタデータに関連する NewsItem に関する情報のキーになる項目を提供することを意図している。 NewsLine 自体により運ばれる情報は、 NewsLine 自体により運ばれる情報の一部か、他のニュース・メタデータのいくつかを複写することが出来る。 NewsLine の例は HeadLine と ByLine 。
NewsLine	NewsML の仕様には含まれないタイプの <i>newsline</i> 。
NewsLines	NewsComponent にあるすべての NewsLine の入れ物。
NewsLineText	ユーザー定義タイプの <i>newsline</i> テキスト。一つの NewsLine に複数の NewsLineText 要素があることがあり、それらは言語によって区別される。
NewsLineType	ユーザー定義の NewsLine タイプの表示。
NewsManagement	NewsItem の管理に関連した情報。
NewsML	NewsML 文書のルート要素。1つの NewsML 文書は、1つの NewsEnvelope 及び1つかそれ以上の NewsItems を包含しなければならない。また、1つの Catalog 要素及び1つの TopicSet 要素を含むことができる。

NewsProduct	NewsML 文書内で全てのNewsItemが所属するプロダクト（製品）に対する識別子。
NewsService	NewsML 文書内で全てのNewsItemが所属するサービスに対する識別子。
notation（ノテーション）	一個のデータと、それを翻訳、処理、表現することが可能な一個のアプリケーションとの間の特定の連携。これは XML 仕様書で定義された正式構文。
Notation	ContentItemの記法（notation）表示。
OfInterestTo	NewsItemがターゲットとする聴衆の表示。
Origin	テキストのすべてあるいは一部を包むもので、自然言語でここに記述されているものに形式的に一致するデータの項目に対するポインタを含む。
Party	ニュースのワークフローで、このNewsItemに対し特別な関係がある個人、会社、組織の表示。
pointer（ポインタ）	その用途がデータオブジェクトを識別するためのキャラクター文字列。そのオブジェクトにリンクを張るためにか、文書を送信するたびごとにそのオブジェクトそのものを送らず文書内に含めるために用いる。
PreviousRevision	現在のNewsItemの前の版のRevisionIdの値。PreviousRevision属性の値は、NewsItemの前の版があれば、RevisionId要素の内容と等しくなければならない。NewsItemの前の版がなければ0になる。
Priority	NewsItem. の優先表示の指示。
Property	NewsComponentまたはTopicのプロパティ。プロパティには名前に加え、簡単なValue もしくは後続のプロパティのセットからなる複雑なvalueいずれかがある。Value属性がプロパティの値のストリング表現を提供する一方、ValueRef属性はTopic内にあるかもしくはデータの他の部分にある値を指定する。AllowedValues属性が存在すれば、それはプロパティに与えられた値の限界を定めるcontrolled vocabularyを指定する。
Provider	news objectを配信する個人、企業、または組織。
ProviderId	NewsItem. を制作したニュース配信社の個別識別子。NewsIdentifierのDateId下位要素から識別される日に配信社が保持しているドメイン名か、controlled vocabularyから引き出される配信社名でなければならない。
public identifier	controlled vocabularyに記述されているか、もしくは、controlled syntaxを使用するリソースを表す文字列。
PublicIdentifier	（XML1.0仕様書で定義された意味の）NewsItemのための公開識別子。
Rank	NewsComponentの中のBasisForChoice要素間の優先順位を示す整数。Rankの値が小さいBasisForChoice要素が大きい値のものより優先される。
raw data	NewsML で定義された構造になってないデータのこと。NewsML アプリケーションを経由してほかのアプリケーションへ、または解読したり、処理することができるユーザーへ転送されなければならない。
Relevance	特定の受信者へのNewsItemの関連性の表示。
Repeat	TransmissionIdの属性の一つで、前の送信の繰り返しを区別する。
Replace	NewsItem内の指定された要素を置き換える命令。

Resource	リソースが提供された場所を示し、NewsML 文書で現在のサブツリー内にある formal name の default vocabulary として使用されているかどうかを示す。
RevisionHistory	NewsItem. の改訂履歴が入っているファイルへのポインター。
RevisionId	該当するNewsItemの版数を正整数で示す。同じProviderId、DateId、NewsItemIdを持つ2つのデータ・オブジェクトが同じコンテンツであることを保証するのは配信社の責任である。わずかであっても、NewsItemを変更して再発行するときは、新しい版には必ず大きい整数のRevisionIdを割り当てなければならない。
RevisionStatus	現在の版にいたる前の版についてのステータスを示す。オプションの Revision 属性は整数であり、該当の版の RevisionId と同じでなければならない。もし、版数がないのであれば、前のすべての版数をステータスに当てはめる。
RightsHolder	使用权 (usage right) を誰が持っているのかを示す文字列。オプションとして、関係する人、会社、組織についてのさらなる情報を、ポインタにより追加することができる。
RightsLine	権利 (right) 情報についての記述であり、著作権 (copyright) 情報とは異なる。著作権情報はニュースオブジェクト所有者について記述するが、権利情報は使用許可を与えた者、その使用方法、使用環境について示す。
RightsMetadata	NewsComponentに関する権利についてのメタデータ。
Role	NewsComponent内で、中のNewsComponentが果たす役割の識別子。
schema	XML文書の階層構造の公式定義。schemaはそれ自身がXML文書であり、W3Cの XML Schema specificationと一致する。DTDで表現するより多くの制約や構造上の法則を持たせることができる。
Scheme	Scheme属性は、controlled vocabulary中に数多くありうるnaming schemesのうち、どれが正当にFormalNameを管理するものなのかを区別させることに使われる。
SentFrom	NewsML 文書を送信する個人、企業、または組織。
SentTo	NewsML 文書を受信する個人、企業、または組織。
SeriesLine	続き物におけるnews objectの位置付けに関する情報について表示用の記述を示す。
SizeInBytes	ContentItemのインラインデータ、または外部参照データの正確なバイト数。
SlugLine	NewsComponentの slug line を表示するのに使われる文字列。ハイパーリンクが張られていたり、書式設定が施されていることもありうる。("slug line" という用語の意味と用法については、個々の配信社が、おのおののワークフローと商慣行の範囲内で定義する問題である)
Source	ニュース・オブジェクトの素材を供給した個人、企業、組織もしくはその組み合わせ。
StartDate	指定された使用权の効力が発生する日付を、コンピュータ言語でない普通の言語で記述したもの。
Status	NewsItemのステータス (状態) を示すもの。

StatusWillChange	指定された日時に自動実行されるステータス(状態)の変更の通知をあらかじめ記述する。
subelement	他の要素に含まれる要素。
	<p>例:</p> <pre><MyElement><Child/><Child/></MyElement></pre> <p>ここでは2つのChildという要素が、MyElementという要素の下位要素になる。</p>
SubHeadLine	表示用の補足見出し。
SubjectCode	SubjectCode要素はIPTCSubjectCodeのコンテナであり、IPTC情報交換モデル(Information Interchange Model=IIM)で定義されるNewsItemの内容を示す。それは1つまたは複数のsubject、SubjectMatter、SubjectDetail、SubjectQualifier下位要素で構成される。オプションで1つまたは複数のSubjectQualifier要素により拡大される。
Subject	NewsItemのSubjectを示す。
SubjectMatter	NewsItemのSubjectMatterを示す。
SubjectDetail	NewsItemのSubjectDetailを示す。
SubjectQualifier	NewsItemのSubjectQualifierを示す。
system identifier	システム上で、リソースの場所を特定するアドレス。これは一般的には、絶対的あるいは相対的なファイルのパスもしくはURI。
SystemIdentifier	NewsItemの(XML1.0仕様書で定義された意味の)システム識別子。
ThisRevisionCreated	NewsItemの最新版が作成された日付。オプションで時間が入る。ISO8601の基本フォーマットで表現される。
topic	ニュースで言及されている実世界のあらゆる事象もしくは概念。 topicの例としてはイラン・イラク戦争、トニー・ブレア、パキスタン首相、IBM、国連、ダイソン電気掃除機、中国、クルディスタン、パリ、クレムリン、エイズ、アスピリンなど
topic reference	Directory内でtopicへのポインタの役割を果たす要素。
Topic	NewsComponentにおいて、正式に命名された事象(topic)もしくは出来事に関する情報を提供するelement。Topicは1つまたはそれ以上のTopicType subelementsをもたなければならない。そのTopicType subelementsはTopicのタイプを表す。
TopicOccurrence	NewsComponentのコンテンツで、あるTopicが発生することの表示。
TopicSet	Topicsの収納場所。
TopicSetRef	最新のものと併合させられるべきTopicSetのポインタ。
TopicType	Topicのタイプの表示。

TopicUse	特定の Topicが NewsML ドキュメントのどこに使われているかを示すもの。
TransmissionId	NewsML ドキュメント送信のための唯一の識別子。
Update	既存の NewsItem の修正。挿入、置換や削除。
Urgency	NewsItem の緊急性の識別子。
Url	Resourceの位置特定に使える URL。
Urn	リソースに世界レベルの識別子を与える URN。PublicIdentifierで記述したように、これは一般的に（必ずしもというわけではないが）NewsML の URN となるだろう。
UsageRights	NewsComponentに属する使用権に関する情報を付与する。その UsageType、Geography、RightsHolder、Limitations、StartDate、EndDateという下位要素は、普通の言語で書かれたメタデータを追加する。
UsageType	自然言語により権利が適用される利用のタイプを示す。
URI	Uniform Resource Indicator の略。特定のリソースを識別する（時には、場所を特定する）のに使われる、世界で一つしかない文字列。URL もしくは URN であろう。
URL	Uniform Resource Locator の略。本来はウェブ上でリソースを見つけることのできるアドレスである。また、これはウェブ・リソースの識別子で、http://のプロトコルがウェブ・リソースを識別し、それにアクセスするのに使われる。
URN	Uniform Resource Name。現在の場所とは無関係に、リソースの場所を特定する世界的に固有の文字列。
UTC	Coordinated Universal Time。協定世界時。国際タイムビューローが定義した時間の基準で、標準的な周波数と時間の信号発信の基礎となる。UTC は（不正確に）グリニッチ標準時（GMT）と呼ばれることも多い。
Value	Property タグの属性。Propertyの値の文字列表現。
ValueRef	Property の値へのポインタ。TopicSet 中の Topic もしくはデータの他の部分。
Variant	Descriptionタグのオプションの属性。タグの属性。同一言語で異なった表現をし、それらを区別する場合に使用する。 .
Vocabulary	ボキャブラリー属性は、FormalNameの意味を解くために使えるcontrolled vocabularyであるカレント文書中のTopicSetを識別する。
W3C	World Wide Web Consortium
XML	Extensible Markup Language 。W3Cが 1998 年 2 月に勧告。
xml:lang	特別な属性（attribute）で、XML specification（仕様書）で定義されている。XML 要素の内容の言語を特定するために使用する。その値は ISO で定める言語コードに従う。

- XPath** [XML Path Language](#)。W3C が 1999 年 11 月に勧告。特定のXML文書中のオブジェクトを参照する方法を規定する。
- XPointer** [XML Pointer Language](#)。W3Cの 2000 年 6 月勧告案（標準化作業中）。汎用的な XML 文書中のオブジェクトを参照する方法を規定する。
- XSLT** [XML Stylesheet Language \(Transformations\)](#)。W3C が 1999 年 11 月に勧告。XML 文書の変換の手法を規定する。

7 付録

7.1 日本新聞協会 NewsML レベル1 ガイドライン表

: 必須 / : 省略可 / : 規定外 / x : 使用停止

タグ名	値	属性名	属性値	省略値	NSK
NewsML	-				
Catalog?	-				
		Href	CDATA	#IMPLIED	
Resource*	-				
Urn?	#PCDATA				
Url*	#PCDATA				
DefaultVocabularyFor*	EMPTY				
		Context	CDATA	#REQUIRED	
		Scheme	CDATA	#IMPLIED	
TopicUse*	EMPTY				
		Topic	CDATA	#REQUIRED	
		Context	CDATA	#IMPLIED	
TopicSet*	-				
		FormalName	CDATA	#REQUIRED	
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED	
		Scheme	CDATA	#IMPLIED	
Comment*	#PCDATA				
		xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
		TranslationOf	IDREF	#IMPLIED	
Catalog?	-				
TopicSetRef*	-				
		TopicSet	CDATA	#IMPLIED	
Comment*	-				
Topic*	-				
		Details	CDATA	#IMPLIED	
Comment*	-				
Catalog?	-				
TopicType+	EMPTY				
		FormalName	CDATA	#REQUIRED	
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED	
		Scheme	CDATA	#IMPLIED	
FormalName*	#PCDATA				
		Scheme	CDATA	#IMPLIED	
Description*	#PCDATA				
		xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
		Variant	CDATA	#IMPLIED	
Property*	-				X
		FormalName	CDATA	#REQUIRED	X
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED	X
		Scheme	CDATA	#IMPLIED	X
		AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	X
		Importance	CDATA	#IMPLIED	X
		Confidence	CDATA	#IMPLIED	X
		HowPresent	CDATA	#IMPLIED	X
		DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	X
		Value	CDATA	#IMPLIED	X
		ValueRef	CDATA	#IMPLIED	X
		AllowedValues	CDATA	#IMPLIED	X
Property*	-				X

NewsEnvelope	-					
TransmissionId?	#PCDATA	Repeat	CDATA	#IMPLIED		
SentFrom?	-					
Comment*						
Party+	EMPTY					
		FormalName	CDATA	#REQUIRED		
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
		Scheme	CDATA	#IMPLIED		
		Topic	CDATA	#IMPLIED		
SentTo?	-					
Comment*						
Party+		上と同じ				
DateAndTime	#PCDATA					
NewsService*	EMPTY					
		FormalName	CDATA	#REQUIRED		
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
		Scheme	CDATA	#IMPLIED		
NewsProduct*	EMPTY					
		FormalName	CDATA	#REQUIRED		
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
		Scheme	CDATA	#IMPLIED		
Priority?	EMPTY					
		FormalName	CDATA	#REQUIRED		
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
		Scheme	CDATA	#IMPLIED		
NewsItem+	-	xml:lang	CDATA	#IMPLIED		
Comment*		TranslationOf 属性値は“ ”				
Catalog?						
Identification	-					
NewsIdentifier	-					
ProviderId	#PCDATA	Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		X
DateId	#PCDATA					
NewsItemId	#PCDATA	Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
		Scheme	CDATA	#IMPLIED		
RevisionId	#PCDATA	PreviousRevision	CDATA	#REQUIRED		
		Update	CDATA	#REQUIRED		
PublicIdentifier	#PCDATA					
NameLabel?	#PCDATA					X
DateLabel?	#PCDATA					X
Label*	-					X
LabelType	EMPTY					X
		FormalName	CDATA	#REQUIRED		X
		Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		X
		Scheme	CDATA	#IMPLIED		X
LabelText	#PCDATA					X

	NewsManagement	-					
	NewsItem	EMPTY					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	FirstCreated	#PCDATA					
	ThisRevisionCreated	#PCDATA					
	Status	EMPTY					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	StatusWillChange?	-					
	FutureStatus	EMPTY					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	DateAndTime						
	Urgency?	EMPTY					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	RevisionHistory?	EMPTY					X
			Href	CDATA	#REQUIRED		X
	DerivedFrom*	-	NewsItem	CDATA	#IMPLIED		
	Comment*						
	AssociatedWith*	-	NewsItem	CDATA	#IMPLIED		
	Comment*						
	Instruction*	-					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	RevisionStatus*						
			Revision	CDATA	#IMPLIED		
	Status						
	Property*						X

	NewsComponent	-		Essential	(yes no)	no
				EquivalentsList	(yes no)	no
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	Comment*					
	Catalog?					
	TopicSet*					
	Role?	EMPTY				
				FormalName	CDATA	#REQUIRED
				Vocabulary	CDATA	#IMPLIED
				Scheme	CDATA	#IMPLIED
	BasisForChoice*	#PCDATA				
				Rank	CDATA	#IMPLIED
	NewsLines?	-				
	HeadLine	(#PCDATA Origin)*		xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	Origin	(#PCDATA Origin)*				
*				AssignedBy	CDATA	#IMPLIED
				Importance	CDATA	#IMPLIED
				Confidence	CDATA	#IMPLIED
				HowPresent	CDATA	#IMPLIED
				DateAndTime	CDATA	#IMPLIED
				Href	CDATA	#IMPLIED
	SubHeadLine?	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	ByLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	DateLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	CreditLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	CopyrightLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	RightsLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	SeriesLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	SlugLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	KeywordLine*	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED
	NewsLine*	-				
	NewsLineType	EMPTY				
				FormalName	CDATA	#REQUIRED
				Vocabulary	CDATA	#IMPLIED
				Scheme	CDATA	#IMPLIED
	NewsLineText+	(#PCDATA Origin)*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED

	AdministrativeMetadata?	-				
	Catalog?					
	FileName?	#PCDATA				
	SystemIdentifier?	#PCDATA				
	Provider?	-				
	Comment*					
	Party+		SentFromと同じ			
	Creator?	-				
	Comment*					
	Party+		SentFromと同じ			
	Source*	-				
			NewsItem	CDATA	#IMPLIED	
	Comment*					
	Party+					
	Contributor*	-				
	Comment*					
	Party+					
	Property*					X
	RightsMetadata?	-				
			AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
			Importance	CDATA	#IMPLIED	
			Confidence	CDATA	#IMPLIED	
			HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
			DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
	Catalog?					
	Copyright*	-				
			AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
			Importance	CDATA	#IMPLIED	
			Confidence	CDATA	#IMPLIED	
			HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
			DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
	Comment*					
	CopyrightHolder	(#PCDATA Origin)*				
			xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
	CopyrightDate	(#PCDATA Origin)*				
			xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
	UsageRights*	-				
			AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
			Importance	CDATA	#IMPLIED	
			Confidence	CDATA	#IMPLIED	
			HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
			DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
	UsageType?	(#PCDATA Origin)*				
			xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
			AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
			Importance	CDATA	#IMPLIED	
			Confidence	CDATA	#IMPLIED	
			HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
			DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
	Geography?	(#PCDATA Origin)*				
			xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
			AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
			Importance	CDATA	#IMPLIED	
			Confidence	CDATA	#IMPLIED	
			HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
			DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	

					RightsHolder?	(#PCDATA Origin)*			
						xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
						AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
						Importance	CDATA	#IMPLIED	
						Confidence	CDATA	#IMPLIED	
						HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
						DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
					Limitations?	(#PCDATA Origin)*			
						xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
						AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
						Importance	CDATA	#IMPLIED	
						Confidence	CDATA	#IMPLIED	
						HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
						DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
					StartDate?	(#PCDATA Origin)*			
						xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
						AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
						Importance	CDATA	#IMPLIED	
						Confidence	CDATA	#IMPLIED	
						HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
						DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
					EndDate?	(#PCDATA Origin)*			
						xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
						AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	
						Importance	CDATA	#IMPLIED	
						Confidence	CDATA	#IMPLIED	
						HowPresent	CDATA	#IMPLIED	
						DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	
					Property*				X

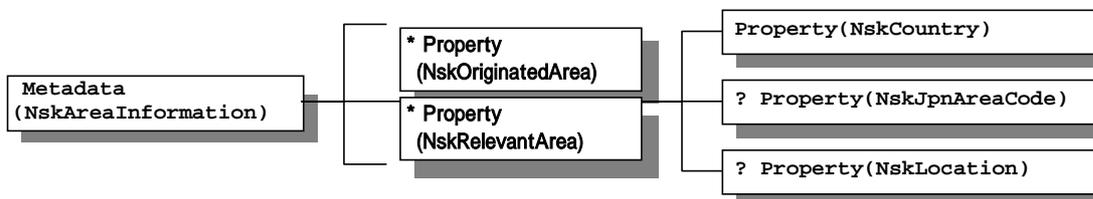
			DescriptiveMetadata?	-							
					AssignedBy	CDATA	#IMPLIED				
					Importance	CDATA	#IMPLIED				
					Confidence	CDATA	#IMPLIED				
					HowPresent	CDATA	#IMPLIED				
					DateAndTime	CDATA	#IMPLIED				
			Catalog?								
			Language*								
				EMPTY							
					FormalName	CDATA	#REQUIRED				
					Vocabulary	CDATA	#IMPLIED				
					Scheme	CDATA	#IMPLIED				
					AssignedBy	CDATA	#IMPLIED				
					Importance	CDATA	#IMPLIED				
					Confidence	CDATA	#IMPLIED				
					HowPresent	CDATA	#IMPLIED				
					DateAndTime	CDATA	#IMPLIED				
			Genre?								X
					FormalName	CDATA	#REQUIRED				
					Vocabulary	CDATA	#IMPLIED				X
					Scheme	CDATA	#IMPLIED				
					AssignedBy	CDATA	#IMPLIED				
					Importance	CDATA	#IMPLIED				
					Confidence	CDATA	#IMPLIED				
					HowPresent	CDATA	#IMPLIED				
					DateAndTime	CDATA	#IMPLIED				
			SubjectCode*	-							
					AssignedBy	CDATA	#IMPLIED				
					Importance	CDATA	#IMPLIED				
					Confidence	CDATA	#IMPLIED				
					HowPresent	CDATA	#IMPLIED				
					DateAndTime	CDATA	#IMPLIED				
			Subject	EMPTY							
					FormalName	CDATA	#REQUIRED				
					Vocabulary	CDATA	#IMPLIED				
					Scheme	CDATA	#IMPLIED				
					AssignedBy	CDATA	#IMPLIED				
					Importance	CDATA	#IMPLIED				
					Confidence	CDATA	#IMPLIED				
					HowPresent	CDATA	#IMPLIED				
					DateAndTime	CDATA	#IMPLIED				
			SubjectMatter	EMPTY							
					FormalName	CDATA	#REQUIRED				
					Vocabulary	CDATA	#IMPLIED				
					Scheme	CDATA	#IMPLIED				
					AssignedBy	CDATA	#IMPLIED				
					Importance	CDATA	#IMPLIED				
					Confidence	CDATA	#IMPLIED				
					HowPresent	CDATA	#IMPLIED				
					DateAndTime	CDATA	#IMPLIED				

	Update+	-				x	
	* {		InsertBefore	ANY		x	
				DuidRef	CDATA	#REQUIRED	
			InsertAfter	ANY			x
				DuidRef	CDATA	#REQUIRED	
			Replace	ANY			x
			DuidRef	CDATA	#REQUIRED		
	Delete	EMPTY			x		
			DuidRef	CDATA	#REQUIRED		
	TopicSet						
	TopicSet*	-					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	* {	#PCDATA	Comment*				
				xml:lang	CDATA	#IMPLIED	
				TranslationOf	IDREF	#IMPLIED	
	Catalog?						
	TopicSetRef*	-					
			TopicSet	CDATA	#IMPLIED		
	Comment*						
	Topic*	-					
			Details	CDATA	#IMPLIED		
	Comment*						
	Catalog?						
	TopicType+	EMPTY					
			FormalName	CDATA	#REQUIRED		
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED		
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	FormalName*	#PCDATA					
			Scheme	CDATA	#IMPLIED		
	Description*	#PCDATA					
			xml:lang	CDATA	#IMPLIED		
			Variant	CDATA	#IMPLIED		
	Property*	-				X	
			FormalName	CDATA	#REQUIRED	X	
			Vocabulary	CDATA	#IMPLIED	X	
			Scheme	CDATA	#IMPLIED	X	
			AssignedBy	CDATA	#IMPLIED	X	
			Importance	CDATA	#IMPLIED	X	
			Confidence	CDATA	#IMPLIED	X	
			HowPresent	CDATA	#IMPLIED	X	
			DateAndTime	CDATA	#IMPLIED	X	
			Value	CDATA	#IMPLIED	X	
			ValueRef	CDATA	#IMPLIED	X	
			AllowedValues	CDATA	#IMPLIED	X	
	Property*					X	

あたりまえのようだが、NewsMLv1.0.dtdとして検証済み(Valid)であること。

7.2 地域情報の表現方法について

[ツリー図]



[NSK 解説]

NewsML には、利用権に関する地域情報を記述するための UsageRights/Geography 要素があるが、新聞協会が必要と考える、ニュースの発生場所やニュースの関連地域という意味での地域表現が可能な要素はない。Metadata 要素の Property 下位要素を用いて記述する方法を新聞協会として規定する。そのため、新聞協会が地域情報用の MetadataType を定義し、Metadata 要素の Property 下位要素を用いて記述することにした。この MetadataType 要素の FormalName 属性値は NskAreaInformation である。

[NskNewsML:1 記述形式]

MetadataType の FormalName 属性値が NskAreaInformation である Metadata 要素内の Property 要素を使用して地域・場所情報を記述する。

Property 要素を 2 階層（親子関係）で表現する。

親要素は、ニュースの発生場所、ニュースの関連する地域、という意味、用途の種別を記述する。下位要素には具体的な地域の値を記述する。

地域情報を表す Property のボキャブラリは NSK を使用する。以下の FormalName がある。

NskOriginatedArea	親要素に使用出来、ニュースの発生場所を表現する。 この FormalName を持つ親要素は繰り返しなし。
NskRelevantArea	親要素に使用出来、ニュースの関連する地域を表現する。 この FormalName を持つ親要素は繰り返しあり。
NskCountry	国を表現する。Value 属性には、IPTC のボキャブラリに記述されている値を使用する。 この FormalName を持つ下位要素は省略不可で繰り返しなし。
NskJpnAreaCode	都道府県 / 市区町村コードを表現する。NSK オリジナルボキャブラリに記述されている値を使用する。 この FormalName を持つ下位要素は省略可で繰り返しなし。
NskLocation	自由な表現で場所を説明する。 この FormalName を持つ下位要素は省略可で繰り返しなし。

なお、1つのニュースに関連する地域が複数ある場合については、親の Property を並列に表記して表現する。

(例)

「ニュースの発生場所」と「ニュースの関連地域」について表現する方法を例示する。

ニュースの発生場所についてのサンプル 1

下記は、ニュースの発生場所が「アメリカ合衆国、ハワイ島ホノルル沖」であることを表している。

```
<Property FormalName="NskOriginatedArea">  
  <Property FormalName="NskCountry" Value="USA"/>  
  <Property FormalName="NskLocation" Value="ハワイ島ホノルル沖"/>  
</Property>
```

ニュースの発生場所についてのサンプル 2 (日本国内の表現)

下記は、ニュースの発生場所が「日本、愛媛県宇和島市、宇和島水産高校」であることを表している。

```
<Property FormalName="NskOriginatedArea">  
  <Property FormalName="NskCountry" Value="JPN"/>  
  <Property FormalName="NskJpnAreaCode" Value="38203"/>  
  <Property FormalName="NskLocation" Value="宇和島水産高校"/>  
</Property>
```

上記の例は、「NskOriginatedArea(ニュースの発生場所)」が「日本」(NskCountry: 国を表すプロパティ)であり、「38203」(NskJpnAreaCode: 都道府県コードを表すプロパティ。38203 は愛媛県宇和島市)であり、「宇和島水産高校」(NskLocation: 自由形式)であることを表している。子 Property 要素は並列表記されていることからわかるとおり、「日本」と「38203」は特に関係を持っていない。「日本の中の38203(愛媛県宇和島市)」という包含関係は表記されていないので、発生場所は「日本であり」「38203である」ことを表現しているだけであることに注意すべきである。

複数の関連地域がある場合

下記は、ニュースの関連地域が、「アメリカ合衆国」と「日本、愛媛県宇和島市」であることを表している。

```
<Property FormalName="NskRelevantArea">  
  <Property FormalName="NskCountry" Value="USA"/>  
</Property>  
  
<Property FormalName="NskRelevantArea">  
  <Property FormalName="NskCountry" Value="JPN"/>  
  <Property FormalName="NskJpnAreaCode" Value="38203"/>  
</Property>
```

7.3 NewsML 複合ガイドライン

[NSK 解説]

NewsML では、`NewsItem`、`NewsComponent`、`ContentItem` それぞれを複数記述してニュースや素材を複合することが出来る。

複合の方法は次のタイプにわかれる

- NewsML 内での `NewsItem` 列挙
- `NewsComponent` 内での `NewsComponent` 列挙
- `NewsComponent` 内での `ContentItem` 列挙
- `NewsComponent` 内での `NewsItem` (`NewsItemRef`) 列挙

[NskNewsML:1 記述形式]

下記の複合形式を()として利用できる。

それ以外の複合方法は(×)。

- `ContentItem` の列挙は、`NewsComponent` 要素の `EquivalentList` 属性が"yes"の場合のみ利用可能。
- `NewsComponent` を 2 階層まで利用可能。
 - 下層(子)の `NewsComponent` の列挙は、上層の `NewsComponent` 要素の `EquivalentList` 属性"yes"と"no"の両方で利用可能。
 - 下層(子)の `NewsComponent` は、NskNewsML:1 の基本形に従う。この `NewsComponent` にも `ContentItem` の列挙が可能。
 - 各 `NewsComponent` の各メタ情報(`NewsLines` , `AdministrativeMetadata` , `RightsMetadata` , `DescriptiveMetadata` , `Metadata`) は、他 `NewsComponent` へは継承されない、各 `NewsComponent` 毎にそれぞれ適切なメタ情報を記述する。

サンプル (ContentItem の列挙) ~ プレーンテキストと XML 記事の複合 ~

```
<NewsComponent EquivalentList="yes" >
...
  <AdministrativeMetadata>
    ...この素材のProvider (提供元) Creator (編集元) など...
    ... 上位NewsItemの情報としても扱われる...
  </AdministrativeMetadata>
...
  <RightsMetadata>
    ... この素材の権利情報...
  </RightsMetadata>
  <ContentItem>
    <MediaType FormalName="Text" />
    <MimeType FormalName="text/plain"/>
    <DataContent>
      ...プレーンテキスト記事...
    </DataContent>
  </ContentItem>
  <ContentItem>
    <MediaType FormalName="Text" />
    <Format FormalName="NskBasicText"/>
    <MimeType FormalName="text/xml"/>
```

```

        <DataContent>
            <body>
                <p>...XMLによる記事のパラグラフ...</p>
            </body>
        </DataContent>
    </ContentItem>
</NewsComponent>

```

サンプル (NewsComponent の列挙) ~ 記事と写真の複合 ~

```

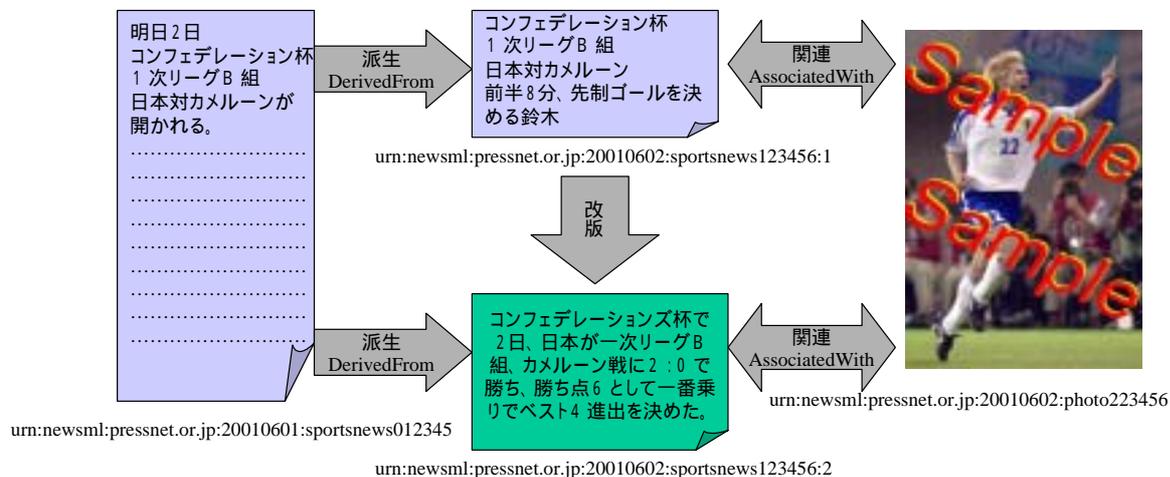
<NewsComponent EquivalentsList="no" >
    <!-- NewsItemとこのNewsComponentの各種メタ情報 -->
    ...
    <AdministrativeMetadata>
        ...このニュースのProvider (提供元) Creator (編集元) など...
        ... 上位NewsItemの情報としても扱われる...
    </AdministrativeMetadata>
    ...
    <RightsMetadata>
        ... このニュースの権利情報...
    </ RightsMetadata>
    <!-- 記事のコンポーネント (NskNewsML:1の単体と同じ形態) -->
    <NewsComponent>
        <!-- 記事に関する各種メタ情報 -->
        ...
        <AdministrativeMetadata>
            ...この記事のProvider (提供元) Creator (編集元) など...
        </AdministrativeMetadata>
        ...
        <RightsMetadata>
            ... この記事の権利情報...
        </ RightsMetadata>
        <ContentItem>
            <MediaType FormalName="Text" />
            ... この記事の物理メタ情報(タイプやフォーマット)と生データ ...
        </ContentItem>
    </NewsComponent>

    <!-- 写真のコンポーネント (NskNewsML:1の単体形態) -->
    <NewsComponent>
        <!-- 写真に関する各種メタ情報 -->
        ...
        <AdministrativeMetadata>
            ...この写真のProvider (提供元) Creator (作成元) など...
        </AdministrativeMetadata>
        ...
        <RightsMetadata>
            ... この写真の権利情報...
        </ RightsMetadata>
        <ContentItem Href="photo.jpg">
            <MediaType FormalName="Photo" />
            ... この写真の物理メタ情報(タイプやフォーマット) ... </ContentItem>
        </ContentItem>
    </NewsComponent>
</NewsComponent>

```

7.4 サンプル

記事サンプルの背景



この記事サンプルには、派生元ニュース、関連ニュース、前版ニュースの情報が含まれている。NewsMLでは、1つのニュースファイル中に、そのニュースの作成された背景や関係ニュースを示すことができる。

[N S K 解説]

記事のサンプルは、DataContent 内に、NskBasicText.dtd で定義された記事を内包している。

画像のサンプルは、画像ファイル (sample.jpg) を別ファイルとして、NewsML 文書から参照する形を取っている。

サンプルの背景は、

- ・ まず、前日1日に明日の試合についての記事が発行されている。
- ・ これから派生して、試合当日鈴木がゴールを決めた時点で発行された記事。
- ・ これを改版したものが、試合後日本が勝利したことを伝える記事 (記事のサンプル) となっている。試合当日の記事は改版されても同じ併用写真 (画像のサンプル) を参照している。

7.4.1 記事単体のサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<!-- 文字エンコーディングは規定しない。ここではUTF-16を指定した。 -->
<!-- つぎのDTDの場所は、今回のサンプルではIPTCにあわせて、実装を規定するものではない -->
<!DOCTYPE NewsML PUBLIC "urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsMLv1.0.dtd:1" "../DTD/NewsMLv1.0.dtd" [
  <ENTITY % NskBasicText.dtd SYSTEM "../DTD/NskBasicText.dtd">
  %NskBasicText.dtd;
]>
<!-- このサンプルの背景 -->
<!-- 試合前日6月1日に、明日の試合についてのニュースが発行されている(派生元ニュース) -->
```

<!--このニュース(第2版)の第1版は、6月2日20時(試合中)に発行された。-->
<!--このニュース(第2版)は、6月2日23時(試合後)に発行された。-->
<!--このニュースに関連ニュースとして、6月2日に発行された鈴木の写真がある-->

<NewsML>

<Catalog>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-format-nsk:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="Format/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iso-language-ja:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="Language/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-mediatype-ja:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="MediaType/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-metadatatype-nsk:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="MetadataType/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-mimetype-ja:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="MimeType/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-newsitemtype-ja:2</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="NewsItemType/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-newslinetype:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="NewsLineType/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-newsproduct:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="NewsProduct/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:Mydomain:20010516:my-newsservices:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="NewsService/@FormalName"/>

</Resource>

<Resource>

<Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-party:1</Urn>

<DefaultVocabularyFor Context="Party/@FormalName"/>

```

</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-priority-ja:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Priority/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-status-ja:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Status/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-status-ja:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="FutureStatus/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Subject/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="SubjectMatter/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="SubjectDetail/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-subjectqualifier-ja:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="SubjectQualifier/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-topictype-nsk:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="TopicSet/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-topictype-nsk:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="TopicType/@FormalName" />
</Resource>
</Catalog>
<NewsEnvelope>
  <TransmissionId>adc123</TransmissionId>
  <SentFrom>
    <Party FormalName="NskSportsSection" />
  </SentFrom>
  <SentTo>

```

```

    <Party FormalName="A-company" />
</SentTo>
<DateAndTime>20010602T230000+0900</DateAndTime>
<NewsService FormalName="SPORTS" />
<NewsProduct FormalName="NskNewsML:1" />
<Priority FormalName="5" />
</NewsEnvelope>
<NewsItem>
  <Comment xml:lang="ja">併用写真があります</Comment>
  <Identification>
    <NewsIdentifier>
      <ProviderId>pressnet.or.jp</ProviderId>
      <DateId>20010602</DateId>
      <NewsItemId>sportsnews123456</NewsItemId>
      <RevisionId PreviousRevision="1" Update="N">2</RevisionId>
      <PublicIdentifier>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010602:sportsnews123456:2</PublicIdentifier>
    </NewsIdentifier>
  </Identification>
  <NewsManagement>
    <NewsItemType FormalName="News" />
    <FirstCreated>20010602T200012+0900</FirstCreated>
    <ThisRevisionCreated>20010602T220043+0900</ThisRevisionCreated>
    <Status FormalName="Usable" />
    <DerivedFrom NewsItem="urn:newsml:pressnet.or.jp:20010601:sportsnews012345">
      <Comment xml:lang="ja">前日のsportsnews012345</Comment>
    </DerivedFrom>
    <AssociatedWith NewsItem="urn:newsml:pressnet.or.jp:20010602:photo223456">
      <Comment xml:lang="ja">併用写真</Comment>
    </AssociatedWith>
  </NewsManagement>
  <NewsComponent xml:lang="ja">
    <Comment>関連写真があります</Comment>
    <NewsLines>
      <HeadLine>鈴木2得点</HeadLine>
      <SubHeadLine>日本準決勝進出</SubHeadLine>
      <ByLine>新聞太郎</ByLine>
      <DateLine>2001年6月2日、新潟県、新潟スタジアム</DateLine>
      <CreditLine>Pressnet</CreditLine>
      <CopyrightLine xml:lang="en">NSK all rights reserved.</CopyrightLine>
      <RightsLine>2次使用禁止、新聞紙面用メディア使用禁止</RightsLine>
      <SeriesLine>コンフェデ杯特集</SeriesLine>
      <KeywordLine>コンフェデ杯</KeywordLine>
      <KeywordLine>サッカー</KeywordLine>
    </NewsLines>
  </NewsComponent>
</NewsItem>

```

```

    <NewsLineType FormalName="Karimidashi" />
    <NewsLineText> サンプル</NewsLineText>
  </NewsLine>
</NewsLines>
<AdministrativeMetadata>
  <Provider>
    <Party FormalName="NSK" />
  </Provider>
  <Creator>
    <Party FormalName="NSK" />
  </Creator>
</AdministrativeMetadata>
<RightsMetadata>
  <Copyright>
    <CopyrightHolder>日本新聞協会</CopyrightHolder>
    <CopyrightDate>2001-2002</CopyrightDate>
  </Copyright>
</RightsMetadata>
<DescriptiveMetadata>
  <Language FormalName="ja" />
  <SubjectCode>
    <!-- Sport -->
    <Subject FormalName="15000000" />
    <!-- Soccer -->
    <SubjectMatter FormalName="15054000" />
    <!-- professional -->
    <SubjectQualifier FormalName="15000010" />
  </SubjectCode>
</DescriptiveMetadata>
<Metadata>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsmil:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-metadataatype-nsk:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="MetadataType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsmil:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-property-nsk:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Property/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsmil:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iso-country-ja:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Property[@FormalName='NskCountry']/@Value" />
    </Resource>
    <Resource>

```

```

    <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-jpnareacode:1</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Context="Property[@FormalName='NskJpnAreaCode']/@Value"/>
  </Resource>
</Catalog>
<!--地域情報を表すMetadata-->
<MetadataType FormalName="NskAreaInformation"/>
<!--NskRelevantAreaは、ニュースの関連地域を表し、NskOriginatedAreaは、発生した場所を表す。NskCountryは国コード、NskJpnAreaCodeは、都道府県市町村コード、NskLocationは、自由記述-->
<Property FormalName="NskRelevantArea">
  <!--日本-->
  <Property FormalName="NskCountry" Value="JPN"/>
  <!--新潟県新潟市-->
  <Property FormalName="NskJpnAreaCode" Value="15201"/>
</Property>
<Property FormalName="NskRelevantArea">
  <!--韓国-->
  <Property FormalName="NskCountry" Value="KOR"/>
</Property>
<Property FormalName="NskRelevantArea">
  <!--カメルーン-->
  <Property FormalName="NskCountry" Value="CMR"/>
</Property>
<Property FormalName="NskOriginatedArea">
  <Property FormalName="NskCountry" Value="JPN"/>
  <Property FormalName="NskJpnAreaCode" Value="15201"/>
  <Property FormalName="NskLocation" Value="新潟スタジアム"/>
</Property>
</Metadata>
<ContentItem>
  <MediaType FormalName="Text"/>
  <Format FormalName="NskBasicText"/>
  <MimeType FormalName="text/xml"/>
  <DataContent>
    <!--ここからNskBasicText.dtdで規定された構造-->
    <body>
      <p>コンフェデレーションズ杯で二日、日本が一次リーグB組、カメルーン戦に2 - 0で勝ち、勝ち点6として一番乗りでベスト4進出を決めた。</p>
    </body>
  </DataContent>
</ContentItem>
</NewsComponent>
</NewsItem>
</NewsML>

```

7.4.2 画像単体のサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<!-- 文字エンコーディングは規定しない。ここではUTF-16を指定した。 -->
<!-- つぎのDTDの場所は、今回のサンプルではIPTCにあわせて、実装を規定するものではない -->
<!DOCTYPE NewsML PUBLIC "urn:newsml:iptc.org:20001006:NewsMLv1.0.dtd:1" "../DTD/NewsMLv1.0.dtd">
<NewsML>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-format-nsk:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Format/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iso-language-ja:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Language/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-mediatype-ja:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="MediaType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-metadatatype-nsk:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="MetadataType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-mimetype-ja:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="MimeType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-newsitemtype-ja:2</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="NewsItemType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-newslinetype:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="NewsLineType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-newsproduct:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="NewsProduct/@FormalName" />
    </Resource>
  </Catalog>
</NewsML>
```

```

</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:Mydomain:20010516:my-newsservices:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="NewsService/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-party:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Party/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-priority-ja:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Priority/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-status-ja:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Status/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-status-ja:1</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="FutureStatus/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="Subject/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="SubjectMatter/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iptc-subjectcode-ja:4</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="SubjectDetail/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:iptc.org:20001006:topicset.iptc-subjectqualifier-ja:2</Urn>
  <DefaultVocabularyFor Context="SubjectQualifier/@FormalName" />
</Resource>
<Resource>
  <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-topictype-nsk:1</Urn>

```

```

    <DefaultVocabularyFor Context="TopicSet/@FormalName" />
  </Resource>
  <Resource>
    <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-topicitype-nsk:1</Urn>
    <DefaultVocabularyFor Context="TopicType/@FormalName" />
  </Resource>
</Catalog>
<NewsEnvelope>
  <TransmissionId>photo123</TransmissionId>
  <SentFrom>
    <Party FormalName="NskSportsSection" />
  </SentFrom>
  <SentTo>
    <Party FormalName="A-company" />
  </SentTo>
  <DateAndTime>20010602T230000+0900</DateAndTime>
  <NewsService FormalName="SPORTSPHOTO" />
  <NewsProduct FormalName="NskNewsML:1" />
  <Priority FormalName="5" />
</NewsEnvelope>
<NewsItem xml:lang="ja">
  <Comment>続けて「マークを受ける中田」の写真を送ります。</Comment>
  <Identification>
    <NewsIdentifier>
      <ProviderId>pressnet.or.jp</ProviderId>
      <Dateld>20010602</Dateld>
      <NewsItemId>photo223456</NewsItemId>
      <RevisionId PreviousRevision="0" Update="N">1</RevisionId>
      <PublicIdentifier>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010602:photo223456:1</PublicIdentifier>
    </NewsIdentifier>
  </Identification>
  <NewsManagement>
    <NewsItemType FormalName="News" />
    <FirstCreated>20010602T200024+0900</FirstCreated>
    <ThisRevisionCreated>20010602T200024+0900</ThisRevisionCreated>
    <Status FormalName="Usable" />
    <AssociatedWith NewsItem="urn:newsml:pressnet.or.jp:20010602:sportsnews123456">
      <Comment xml:lang="ja">関連記事</Comment>
    </AssociatedWith>
  </NewsManagement>
</NewsItem>

```

```

</NewsManagement>
<NewsComponent xml:lang="ja">
  <Comment>続けて「マークを受ける中田」の写真を送ります。</Comment>
  <NewsLines>
    <HeadLine>歓喜する鈴木</HeadLine>
    <SubHeadLine>日本準決勝進出</SubHeadLine>
    <ByLine>写真太郎</ByLine>
    <DateLine>2001年6月2日、新潟県、新潟スタジアム</DateLine>
    <CreditLine>Pressnet</CreditLine>
    <CopyrightLine xml:lang="en">NSK all rights reserved.</CopyrightLine>
    <RightsLine>2次使用禁止、新聞紙面用メディア使用禁止</RightsLine>
    <SeriesLine>コンフェデ杯特集</SeriesLine>
    <KeywordLine>コンフェデ杯</KeywordLine>
    <KeywordLine>サッカー</KeywordLine>
    <NewsLine>
      <NewsLineType FormalName="Caption" />
      <NewsLineText>カメルーン 日本 前半8分、先制ゴールに歓喜する鈴木</NewsLineText>
    </NewsLine>
  </NewsLines>
  <AdministrativeMetadata>
    <Provider>
      <Party FormalName="NSK" />
    </Provider>
    <Creator>
      <Party FormalName="NSK" />
    </Creator>
  </AdministrativeMetadata>
  <RightsMetadata>
    <Copyright>
      <CopyrightHolder>日本新聞協会</CopyrightHolder>
      <CopyrightDate>2001-2002</CopyrightDate>
    </Copyright>
  </RightsMetadata>
  <DescriptiveMetadata>
    <Language FormalName="ja" />
    <SubjectCode>
      <!-- Sport -->
      <Subject FormalName="15000000" />
      <!-- Soccer -->
    </SubjectCode>
  </DescriptiveMetadata>

```

```

    <SubjectMatter FormalName="15054000" />
    <!--professional-->
    <SubjectQualifier FormalName="15000010" />
  </SubjectCode>
</DescriptiveMetadata>
<Metadata>
  <Catalog>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-metadatatype-nsk:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="MetadataType/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.iptc-property-nsk:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Property/@FormalName" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20001006:topicset.iso-country-ja:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Property[@FormalName='NskCountry']/@Value" />
    </Resource>
    <Resource>
      <Urn>urn:newsml:pressnet.or.jp:20010516:topicset.nsk-jpnareacode:1</Urn>
      <DefaultVocabularyFor Context="Property[@FormalName='NskJpnAreaCode']/@Value" />
    </Resource>
  </Catalog>
  <!--地域情報を表すMetadata-->
  <MetadataType FormalName="NskAreaInformation" />
  <!--NskRelevantAreaは、ニュースの関連地域を表し、NskOriginatedAreaは、発生した場所を表す。NskCountry
は国コード、NskJpnAreaCodeは、都道府県市町村コード、NskLocationは、自由記述-->
  <Property FormalName="NskRelevantArea">
    <!--日本-->
    <Property FormalName="NskCountry" Value="JPN" />
    <!--新潟県新潟市-->
    <Property FormalName="NskJpnAreaCode" Value="15201" />
  </Property>
  <Property FormalName="NskRelevantArea">
    <!--韓国-->
    <Property FormalName="NskCountry" Value="KOR" />
  </Property>
  <Property FormalName="NskRelevantArea">
    <!--カメルーン-->

```

```
<Property FormalName="NskCountry" Value="CMR" />
</Property>
<Property FormalName="NskOriginatedArea">
  <Property FormalName="NskCountry" Value="JPN" />
  <Property FormalName="NskJpnAreaCode" Value="15201" />
  <Property FormalName="NskLocation" Value="新潟スタジアム" />
</Property>
</Metadata>
<ContentItem Href="Sample.jpg">
  <MediaType FormalName="Photo" />
  <MimeType FormalName="image/jpeg" />
  <Characteristics>
    <SizeInBytes>15232</SizeInBytes>
  </Characteristics>
</ContentItem>
</NewsComponent>
</NewsItem>
</NewsML>
```

7.5 NewsML データ伝送モデルの例

NewsML を企業間やシステム間で伝達するためのデータ伝送モデルの例を下記のバリエーションで説明する。

この説明によって、特にプロトコルやシステムへの実装を規定するものではない。

NewsML には、1つの NewsML ファイルだけからなるものと、外部ファイルを伴うものがある。

また、外部ファイルを伴う場合はその送り方として下記のようなバリエーションを説明する。

- 単体ファイル伝送
- 外部ファイルを伴う複合データ伝送
 - PUSH&PULL による複合データ伝送
 - PUSH による複合データ伝送
 - 複合データを1つにまとめて PUSH する伝送

下記の説明の中では、PUSH と PULL というデータ伝送方法で説明をしている。

PUSH とは、送り手が能動的にデータを伝送する処理を表す。

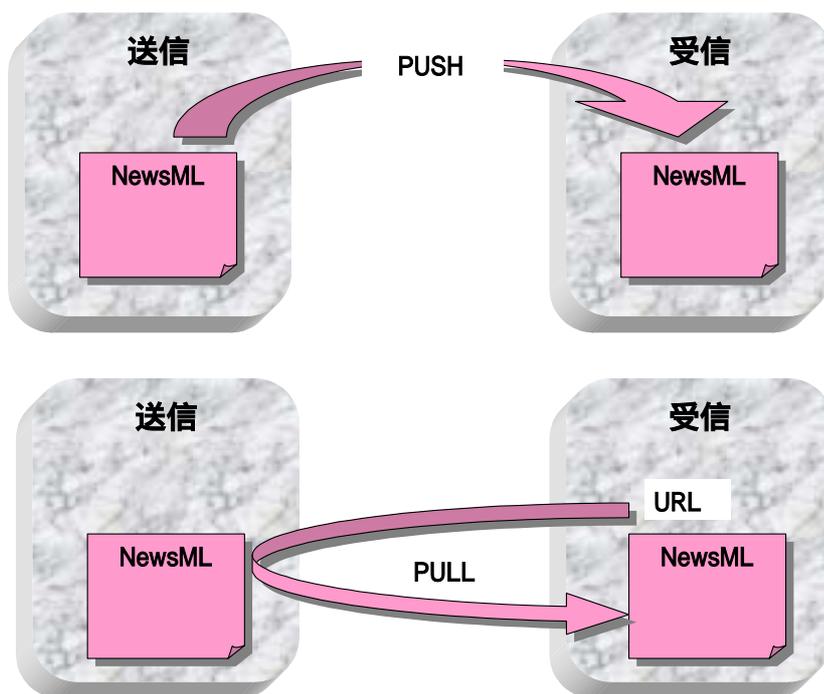
PULL とは、受け手が送り手のシステムからデータを取り出す処理を表す。PULL する場合には、そのデータの所在を知る必要がある。説明の中では、その所在を URL として表している。

URL はプロトコルやインターネットアドレスを含んだもの(<http://アドレス/ファイルパス>)と、ファイルパスだけを記述したものがある。

7.5.1 NewsML 単体ファイル伝送

単体の NewsML ファイル伝送は、1回の PUSH で送ることが出来る。

別の方法として、受け手は URL をなんらかの手段で入手し、ファイルを PULL する方法もある。



7.5.2 外部ファイルを伴う複合データ伝送

NewsML で写真等のバイナリデータを扱う場合、このバイナリデータは NewsML と別ファイルにすることがある。この場合、外部ファイルを含む、複数のファイルを伝送しなければならない。

ここでは、複数ファイルから構成される複合データの伝送方式として、「PUSH+PULL」、「PUSH」、「1つにまとめてPUSH」の3種類のモデルについて説明する。

説明中で、親と子という表現を使っている。親は NewsML ファイルで子の所在(URL 等)をもっており、親のファイルで子ファイルが特定出来ることを前提にしている。

7.5.2.1 PUSH&PULL による NewsML 複合データ伝送

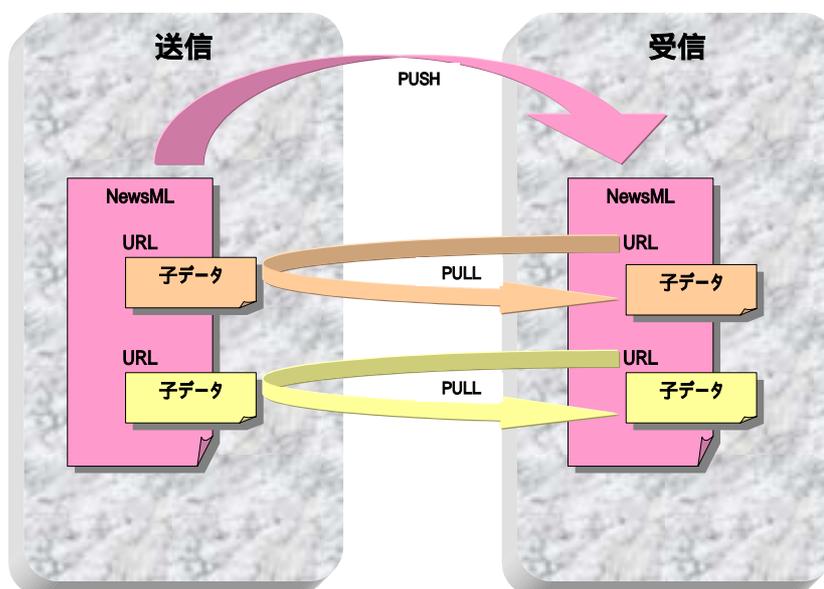
処理概要

送り手は、複合データの親ファイル(NewsML)を PUSH にて伝送。受け手は、親ファイル(NewsML)に記述されている URL を使って子ファイルを PULL で取り出す方式。

送り手が親に記述する URL は、プロトコルとアドレスを含んだ形式で記述しなければならない。また、送り手は、URL に示された場所にデータをあらかじめ準備しておく必要がある。

場合によっては 子ファイルに URL(孫データ)を含む場合も考えられるため、受信側は、再帰的に PULL の処理を行うこともあり得る。

また、他の方法として単体ファイル伝送で書いたように、送り手が親の URL だけを伝送し、受け手はその URL から親ファイルを PULL、さらに親ファイル中の URL を使って、その子ファイルを PULL する方法もある。



利用シーンと特徴

送り手と受け手が常時通信出来る環境での利用。

後述する方法に比べ送り手の処理が単純であり多くの宛先に親ファイルを早く送ることが出来る。

特殊な配信システムを持たずに Web サーバシステムでデータの供給が出来る。

子ファイルの受信失敗時のリトライを受け手側で行うことが出来る。

受けて側は親ファイルを先に受信するため、受信状況を把握出来る。

Web のキャッシュサーバや Web サーバの分散を行って子ファイルの伝送のトラフィックをコントロールしやすい。

受け手が必要に応じて（子ファイルが必要な場合のみ）オンデマンドでデータを受けたい場合に有効。

常時接続ではない接続（ダイヤルアップ接続など）の場合、送り手が子ファイルの伝送を制御できないため接続を切るタイミングを受け手から送り手に伝える手順を追加する必要がある。

7.5.2.2 PUSH による NewsML 複合データ伝送

処理概要

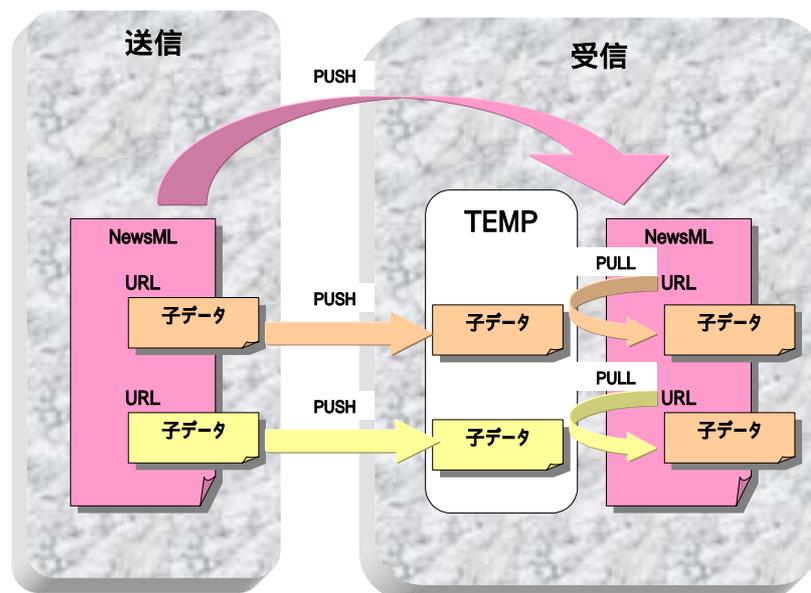
送り手は、全ての子ファイルを PUSH し受け手の一時作業フォルダに伝送する。

次に送り手は、親ファイルを受け手が親だと認識出来る方法で伝送、受け手は親ファイルの受信を検知して受信処理を開始する方式。

送り手が送るデータ中の URL は、プロトコルやアドレスを含まないファイルパスだけを記述することになる。

ここで、受け手が親ファイルであることを認識するためには、下記のような方式が考えられる。

- 親ファイルだと判別出来るように、ファイル名に規則を持たせる。
- 親ファイルを、特別なフォルダ（監視フォルダ・ホットフォルダとも呼ばれる）に送る。
- 親ファイルのファイル名を最後に伝えるマーカファイル等を送る
- 親ファイルの URL を最後に PUSH する（この場合親子の送る順番は自由）



利用シーンと特徴

送り手と受け手は、常時接続でなくてもかまわないため、ダイヤルアップ環境でも利用出来る。

親ファイル(NewsML)が最後に送られてくるため、伝送中のデータがどんなデータか判断出来ない。

送り手が多数の相手に伝送する場合、最後に送る親ファイルは比較的小さいため、子ファイルの伝送にズレがあった場合でも、ほぼ同時に伝送を完了することが出来、仮想的な同報が出来る。

送り手は、あらかじめ親子関係などを再帰的に分析して必要な子ファイルを送る必要がある。

送り手が伝送失敗を検出出来ない場合、受信側では再受信する方法が無い、別の手順を使って再伝送を行うか、伝送保証をする仕組みが必要。

7.5.2.3 複合データを1つにまとめて PUSH する伝送

処理概要

送り手は、複合データの全てのデータを1度に PUSH する方法。

受け手は、受信したデータを、元の複数ファイルに戻して利用する。

1つの方法は複数ファイルをアーカイブして、1つのファイルにして PUSH する方法で、ツールとしては zip,lha,tar と呼ばれるようなアーカイブツールがある。

また、メール伝送に複数ファイルを添付する方法や、http のアップロードに使われる form の post で送り側の cgi に対し multipart で送るといった方法がある。

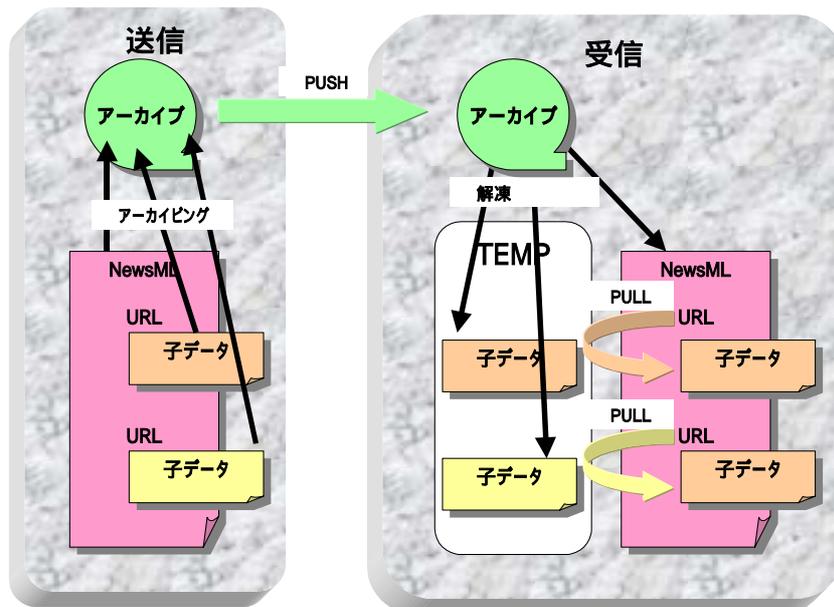
専用のプロトコル(ソケット通信等)を設計して、1回のセッションで複数データを送る方法も考えられる。

受信側では、複数データのうち、どのデータが親であるか判断出来なければならない。これには下記のような方法がある。

- 親ファイルだと判別出来るように、ファイル名や拡張子に規則を持たせる。
- 親ファイルを、特別なフォルダのパス付きで格納する。
- 親ファイルのファイル名を記述した固定ファイル名のファイルを同胞する。
- 他の手段でファイル名を伝える。

送り手は、データ中の URL に、プロトコルやアドレスを含まないファイルパスだけを記述することになる。

受け手は、親ファイルの URL を参照して子ファイルの取り込みを行う。



利用シーンと特徴

送り手は、あらかじめ親子関係などを再帰的に分析して必要な子ファイル把握する必要がある。

一度の通信で複数のデータを伝送することが出来る。

PUSHのみで送るため、常時接続でない場合も利用出来る。

アーカイブの場合解凍しないと中身がどのようなデータか判断出来ない。

アーカイバーは圧縮を行うため伝送効率が良くなる。

添付資料-DefaultVocabularyFor の Context 属性

DefaultVocabularyFor/@Context の適用範囲 (スコープ)

DefaultVocabularyFor/@Context の適用範囲は、Catalog 要素の親要素を基点として、そのサブツリーが、適用範囲 (スコープ) になる。これは、すべてにおいて最優先され、適用範囲 (スコープ) 外に影響することはない。

DefaultVocabularyFor/@Context の値は何を示すか？

DefaultVocabularyFor/@Context の値を XPATH として評価する。適用範囲 (スコープ) 内でこの XPATH に一致する属性に、省略時のコントロールド・ボキャブラリが提供される。もし、Context 属性の値が属性を示していないとき、"/@FormalName" が省略されていることを表す。

たとえば、下記の場合

```
<NewsComponent>
```

```
<NewsComponent>
```

```
<Catalog>
  <Resource>
    <Url>topicset.iptc-format.xml</Url>
    <DefaultVocabularyFor Context="/NewsML//Format"/>
```

```
...
```

```
</Catalog>
```

```
<ContentItem Duid="CI-001">
```

```
  <Format FormalName="..." />
```

```
...
```

```
</ContentItem>
```

```
</NewsComponent>
```

```
<NewsComponent>
```

```
  <ContentItem Duid="CI-002">
```

```
    <Format FormalName="..." />
```

```
...
```

```
  </ContentItem>
```

```
</NewsComponent>
```

DefaultVocabularyFor の
適用範囲 (スコープ)

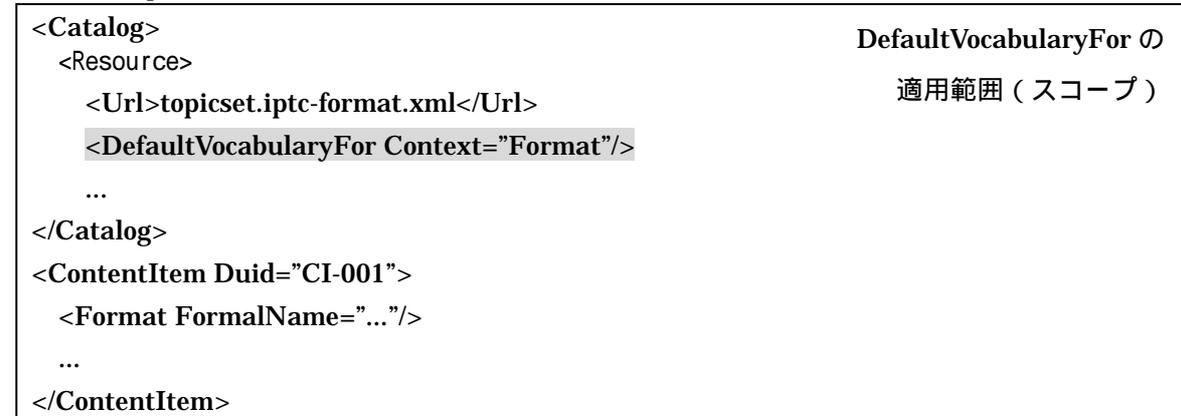
<Catalog>の親要素(この例の場合 ContentItem Duid="CI-001")を基点として Context の文字列を XPATH として一致する属性が対象となる。Context 属性の値の書き方に関わらず、Duid="CI-001"の ContentItem 内にある Resource は、Duid="CI-002"の ContentItem に影響を及ぼすことはない。したがって、Context="/NewsML//Format"のような記述は無意味であるために、そのような表現をすることを推奨しない。

IPTC NewsML 仕様書 V1.00 と同じ効果を表す記述方法は、Context 属性に"./要素名"もしくは、"./要素名/@FormalName"と記述すれば XPATH と適用範囲 (スコープ) が一致するので、理想的である。

参考: <DefaultVocabularyFor Context="Format"/>の表す意味

つぎのような記述があったとき、

<NewsComponent>



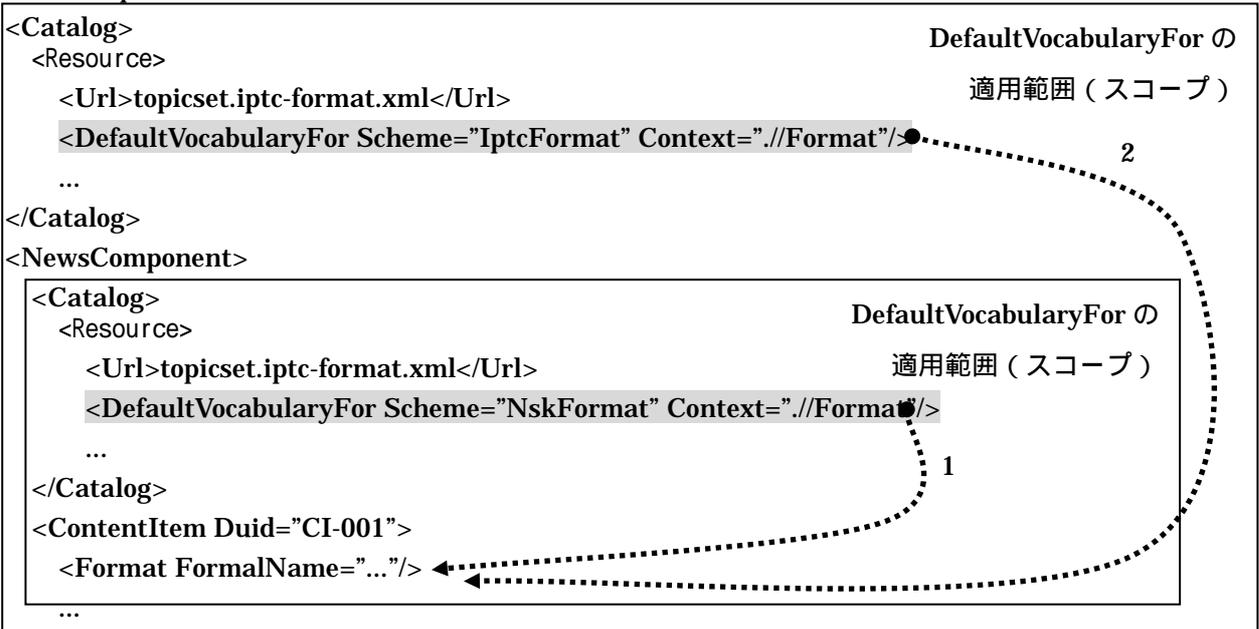
IPTC NewsML 仕様書 V1.00 では、Catalog 要素の親要素のサブツリーにある、すべての要素に対する Format の FormalName 属性についての省略時コントロールド・ボキャブラリを提供することを表した。

IPTC NewsML 仕様書 V1.02 からは Catalog 要素の親要素を基点とした XPATH になるので、Context="Format" のように、"/" がいない場合、NewsComponent 直下の要素を表すことになる。NewsComponent 直下に Format 要素は存在しないので、この指定では、どの Format 要素にも適用されないので注意が必要である。

DefaultVocabularyFor/@Context の優先順位

もし、階層レベルの異なる Catalog/Resource/DefaultVocabularyFor から、XPATH で一致する要素があった場合、当該要素に近い親階層の Catalog による指定が優先される。もし、この Catalog/Resource のコントロールド・ボキャブラリに一致する FormalName と Scheme がなかった場合、XPATH が一致するさらに親階層の Catalog/Resource から一致するコントロールド・ボキャブラリを探す。下図の場合、1、2 の順でコントロールド・ボキャブラリから一致する FormalName と Scheme を探すことになる。

<NewsComponent>



```
</ContentItem>
</NewsComponent>
```

DefaultVocabularyFor 要素が複数連続して記述されている場合

一つの Catalog/Resource 要素のなかに複数の DefaultVocabularyFor 要素があり、Context 属性の値も同じ場合がある。このような場合、省略時 Scheme が複数提供されることになる。

```
<Catalog>
  <Resource>
    <Url>topicset.iptc-format.xml</Url>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="IptcFormat" Context="//Format"/>
    <DefaultVocabularyFor Scheme="NskFormat" Context="//Format"/>
  </Resource>
</Catalog>
```

上記の場合、Format 要素の FormalName 属性にコントロールド・ボキャブラリが適用されるが、2種類の省略時 Scheme が提供される。たとえばコントロールド・ボキャブラリから、先に Scheme が“IptcFormat”で、一致する FormalName を探し、見つからなければ Scheme が“NskFormat”で一致する FormalName を探す。

どちらの Scheme を先に探すかは、明確な規定がないこともあり、探す順序によって結果が異なるコントロールド・ボキャブラリを作成することは推奨しない。

同じように DefaltVocabularyFor 要素が連続していても、Context 属性が異なる場合もある。この場合は、複数の要素に同じコントロールド・ボキャブラリが使われることを意図している。このような場合は、たいてい Scheme 属性が異なり、Context に記述される該当 XPATH 要素ごとに Scheme を変えることによってコントロールド・ボキャブラリの候補を絞り込むような工夫がされている。

```
<TopicSet Duid="LocalTopicSet" Scheme="IptcTopicType" FormalName="LocalVocabulary" >
  <Topic Duid="BooleanTrue">
    <TopicType Scheme="IptcTopicType" FormalName="Property"/>
    <FormalName Scheme="Boolean">True</FormalName>
  </Topic>
  <Topic Duid="BooleanFalse">
    <TopicType Scheme="IptcProperty" FormalName="Property"/>
    <FormalName Scheme="Boolean">False</FormalName>
  </Topic>
  <Topic Duid="DayMonday">
    <TopicType Scheme="IptcProperty" FormalName="Property"/>
    <FormalName Scheme="Day">Monday</FormalName>
  </Topic>
  <Topic Duid="DayTuesday">
    <TopicType Scheme="IptcProperty" FormalName="Property"/>
    <FormalName Scheme="Day">Tuesday</FormalName>
  </Topic>
</TopicSet>
```

...

<Catalog>

<Resource>

<Url>#LocalTopicSet</Url>

<DefaultVocabularyFor Scheme="Boolean" Context="Property[@FormalName='Print']/@Value"/>

<DefaultVocabularyFor Scheme="Day" Context="Property[@FormalName='PrintDay']/@Value"/>

</Resource>

</Catalog>

...

<Property FormalName="Print" Value="True"/>

<Property FormalName="PrintDay" Value="Monday"/>

NewsML チーム名簿

日本新聞協会 NewsML レベル1策定メンバー 新データフォーマット策定チーム(第1期 NewsML チーム)

= 幹事、 = 副幹事 (敬称略)

社名	職名	氏名	在籍期間
朝日新聞東京本社	現・名古屋本社映像センター映像技術チーム	古澤 孝樹	2000.9 - 2001.3
"	映像センター映像技術セクション副主任職	竹原 大祐	2001.4 - 2001.6
"	情報企画室主査	吉田 元	2000.9 - 2001.3
"	経営戦略室	矢崎 朋夫	2000.9 - 2001.6
"	次期システムプロジェクト	町田 温	2001.4 - 2001.6
"	次期システムプロジェクト	小海 則人	2001.4 - 2001.6
毎日新聞東京本社	編集局編集制作総センター地域面グループ	竹中 俊広	2000.9 - 2001.3
"	制作技術局技術部主任	菅田 公一	2000.9 - 2001.6
"	総合メディア事業局技術開発部副部长	小野寺 尚希	2000.9 - 2001.6
読売新聞社	メディア戦略局開発部	三宅 学	2000.9 - 2001.6
日本経済新聞社	情報技術本部メディア開発グループ	宮崎 創一	2000.9 - 2001.6
東京新聞	編集局電送部部次長職	杉本 雅昭	2000.9 - 2001.6
"	編集局電送部	加島 裕士	2000.9 - 2001.6
"	制作局入力部副参事	榎本 宏幸	2000.9 - 2001.6
産経新聞東京本社	製作局報道システム部係長	高津 雅彦	2000.9 - 2001.6
"	製作局報道システム部	鬼頭 知義	2000.9 - 2001.6
"	デジタルメディア本部企画管理室システム部	鈴木 達也	2000.9 - 2001.6
日刊スポーツ新聞社	情報システム本部開発部副主事	竹谷 耕司	2000.9 - 2001.6
共同通信社	情報システム局情報技術部	篠塚 裕志	2000.9 - 2001.6
"	情報システム局システム部	内田 強	2000.9 - 2001.6
時事通信社	システム局技術部主任	島原 源一郎	2000.9 - 2001.6
"	システム局開発部	森本 佳輝	2000.9 - 2001.6
"	システム局技術部(当時)	岡田 匡史	2000.9 - 2001.3
日本放送協会	報道局制作センターシステム開発部チーフエンジニア	鈴木 辰男	2000.11 - 2001.6
北海道新聞社	メディア局データベース部部次長	太田 圭一	2000.9 - 2001.6
河北新報社	制作局管制部	五井 克浩	2000.9 - 2001.6
山形新聞社	制作局システム部主任	丹 政樹	2000.9 - 2001.6
福島民報社	システム局システム部	上田 幸春	2000.9 - 2001.6
静岡新聞社	制作技術局システム開発部	築地 宏和	2000.9 - 2001.6

信濃毎日新聞社	制作局電算部	山岸 拓巨	2000.9 - 2001.6
中日新聞社	メディア局システム開発部	小倉 智之	2000.9 - 2001.6
中国新聞社	編集制作本部制作技術局電算グループ	小松 康昭	2000.9 - 2001.6
高知新聞社	メディア開発局システム開発部	松下 武志	2000.9 - 2001.6
西日本新聞社	制作技術局電算部主事	塩崎 真治	2000.9 - 2001.6
熊本日日新聞社	メディア開発局システム開発部次長	岡松 暁夫	2000.9 - 2001.6
南日本新聞社	メディア開発局メディア情報部副部長	田中 勝男	2000.9 - 2001.6
A F P 通信社	東京支局	青山 亨	2000.10 - 2001.6
ロイター・ジャパン	マーケティング・マネージャー、ロイター・メディア	鶴岡 直樹	2000.11 - 2001.6
アドビシステムズ	アプリケーションエンジニア	今西 祐之	2000.11 - 2001.6
N T T データ	開発本部ビジネスモデル開発部シニアエキスパート	新村 敦子	2000.12 - 2001.6
キヤノン	カメラ新規市場販売推進センター カメラ販売推進プロジェクトカメラビジネス推進課課長	山本 敏彦	2000.11 - 2001.6
"	イメージコミュニケーション本部カメラ事業部カメラ事業企画部カメラ DS 企画課課長	丸山 太郎	2000.11 - 2001.6
キヤノン販売	デジタルオフィス開発部	内藤 賢一	2000.11 - 2001.6
サイベース	通信公共営業部	小野寺 誠	2001.2 - 2001.6
サカティンクス	新規事業推進室機材開発営業部マネージャー	喜多 秀和	2001.2 - 2001.6
"	新聞事業部システム販売推進室マネージャー	阿部 浩之	2001.2 - 2001.6
"	研究開発本部印刷製版技術研究所アシスタントマネージャー	佐藤 義幸	2001.2 - 2001.6
ソニーコミュニケーションネットワーク	エンジニアリング&デザイングループ・マネージャー	藤井 文一郎	2000.11 - 2001.6
東芝	e-ソリューション社デジタルメディアシステム部新聞システム担当主務	土方 紀和	2000.11 - 2001.6
ニコン	ニコンシステム第3システム本部第2部主幹	宮本 亮	2000.10 - 2001.6
"	ニコンシステム第3システム本部第2部副主幹	前田 宏隆	2000.10 - 2001.6
日本アイ・ピー・エム	通信・メディア・公益システム事業部ソリューションスペシャリスト	草野 寿美生	2000.10 - 2001.6
"	ビジネス・イノベーション・サービス ワイヤレス・コンサルティング アソシエート・コンサルタント	大平 剛	2000.10 - 2001.6
"	ソフトウェア開発研究所情報マネジメント技術アーキテクト	福田 昇	2000.10 - 2001.6
"	ソフトウェア事業部ソフトウェアマーケティングコミュニケーション	藤原 隆弘	2000.10 - 2001.6
日本オラクル	放送メディア事業開発部マネージャー	山本 宰司	2001.2 - 2001.6
"	ビジネスソリューション本部流通サービス S C 部プリンシパルコンサルタント	上野 暢彦	2001.2 - 2001.6
日本システム技術	営業部企画担当部長	林 克美	2000.10 - 2001.6

日本電気 (NECソリューションズ)	メディア・エネルギーソリューション事業部ソリューションビジネス推進部主任	佐藤 剛	2000.11 - 2001.6
"	第三公共システム開発事業部 第1メディア・エネルギーシステム開発部	新田 一樹	2000.11 - 2001.6
NECエンジニアリング	メディアネットワーク事業部第二メディア開発部	栗原 勝則	2000.10 - 2001.6
"	メディアネットワーク事業部第二メディア開発部	松江 則彦	2001.1 - 2001.6
富士写真フイルム	印刷システム部ソリューショングループ	奥井 美喜雄	2000.10 - 2001.6
富士通	システム本部情報出版システム統括部第2システム部	三友 洋一	2000.10 - 2001.6
プロセス資材	技術部技術2課	鍛冶田 修	2000.10 - 2001.6
ページコンプ研究所	取締役	高沢 通	2000.11 - 2001.6
方正	新聞システム事業部開発プロジェクトリーダー	長谷川 育正	2000.11 - 2001.6
"	新聞システム事業部開発エンジニア	趙 勝軍	2000.11 - 2001.6
ヤフー	Yahoo!ニュース/天気プロデューサー	小林 聡史	2000.10 - 2001.6
"	テクノロジープロデューサー	石田 幸央	2000.10 - 2001.6

日本新聞協会 NewsML レベル1策定メンバー 第2期 NewsML チーム

= 幹事、 = 副幹事 (敬称略)

社名	職名	氏名	在籍期間
朝日新聞東京本社	電子電波メディア局ニュースセクション	竹原 大祐	2001.6 - 2002.4
"	制作局システム部	西丸 玄	2001.6 - 2002.4
"	制作局システム部	相馬 暁	2002.4 - 2002.7
"	次期システムプロジェクト	町田 温	2001.6 - 2002.7
毎日新聞東京本社	総合メディア事業局技術開発部副部長	小野寺 尚希	2001.6 - 2002.7
"	制作技術局技術部主任	田中 孝次	2002.6 - 2002.7
"	制作技術局技術部	長谷 貴臣	2001.6 - 2002.7
"	総合メディア事業局サイバー編集部編集委員	平野 秋一郎	2001.6 - 2002.7
読売新聞東京本社	メディア戦略局開発部	三宅 学	2001.6 - 2002.7
日本経済新聞社	情報技術本部上級エンジニア	高橋 裕	2002.5 - 2002.7
"	情報技術本部メディア開発グループ	宮崎 創一	2001.6 - 2002.7
東京新聞	編集局機報部次長	杉本 雅昭	2001.6 - 2002.7
"	編集局機報部	加島 裕士	2001.6 - 2002.7
"	制作局入力部副参事	榎本 宏幸	2001.6 - 2002.7
産経新聞東京本社	製作局報道システム部次長補	大島 義衛	2001.6 - 2002.7
"	製作局システム管制部	坂本 一之	2001.6 - 2002.7
報知新聞社	制作局システム部	小堀 弘治	2001.6 - 2002.7
"	制作局システム部	東原 章治	2001.6 - 2002.7
日刊スポーツ新聞社	情報システム本部開発部副主事	竹谷 耕司	2001.6 - 2002.7
スポーツニッポン新聞東京本社	システム本部開発・ネットワーク部技師補	荒井 雅樹	2001.6 - 2002.7
"	システム本部編集技術部主事	内藤 正人	2001.6 - 2002.7
東京ニュース通信社	情報システム室システム管理部課長	尾西 龍吾	2001.6 - 2002.7
共同通信社	情報システム局情報技術部主査	篠塚 裕志	2001.6 - 2002.7
"	情報システム局システム部主査	水野 秀一	2001.6 - 2002.7
"	情報システム局システム部	内田 強	2001.6 - 2002.7
時事通信社	システム局技術部主任	島原 源一郎	2001.6 - 2002.7
"	システム局開発部主任	森本 佳輝	2001.6 - 2002.7
"	システム局開発部	赤倉 優蔵	2001.7 - 2002.7
日本放送協会	報道局制作センター(システム開発)チーフエンジニア	宮田 英雄	2001.6 - 2002.7

日本短波放送	デジタル事業局デジタル事業部課長	紅林 秀美	2001.6 - 2002.7
"	編成局長付チーフデジタルコンテンツディレクター	塩山 雅昭	2001.6 - 2002.7
産経新聞大阪本社	製作局報道システム部	山崎 敏宏	2001.6 - 2002.7
"	製作局システム管制部	池田 正行	2001.6 - 2002.7
北海道新聞社	メディア局電子編集部部次長	太田 圭一	2001.6 - 2002.7
"	情報技術局技術開発部	井村 浩也	2001.6 - 2002.7
河北新報社	システム局システム部	五井 克浩	2001.6 - 2002.7
山形新聞社	制作局システム部主任	丹 政樹	2001.6 - 2002.7
福島民報社	統合メディア室メディア企画部	上田 幸春	2001.8 - 2002.7
信濃毎日新聞社	制作局電算部	山岸 拓巨	2001.6 - 2002.7
中日新聞社	編集局機報部	藤田 俊広	2001.6 - 2002.7
新潟日報社	システム室システム開発部	石川 尚彦	2001.6 - 2002.7
京都新聞社	システム局情報技術部主任	高乗 昌人	2001.6 - 2002.7
山陽新聞社	情報技術研究室	寺沢 紀昌	2001.6 - 2002.7
"	情報技術研究室	水田 英行	2001.10 - 2002.7
西日本新聞社	制作技術局電算部主事	塩崎 真治	2001.6 - 2002.7
熊本日日新聞社	メディア開発局システム開発部次長	岡松 暁夫	2001.6 - 2002.7
ロイター・ジャパン	マーケティング・マネージャー、ロイター・メディア	鶴岡 直樹	2001.6 - 2002.7
イワタ	技術部次長	川村 秀人	2002.5 - 2002.7
サカタインクス	研究開発本部印刷製版技術研究所アシスタントマネージャー	佐藤 義幸	2001.6 - 2002.7
"	研究開発本部印刷製版技術研究所	山田 昌太郎	2001.6 - 2002.7
"	新聞事業部システム販売推進室アシスタントマネージャー	森 亨一	2001.6 - 2002.7
産能コンサルティング	ビジネスシステム事業部報道担当主任	鈴木 辰也	2001.11 - 2002.7
東京データネットワーク	技術管理部次長	中里 浩	2001.6 - 2002.7
"	技術管理部主任	木村 勝也	2001.6 - 2002.7
東芝	e-ソリューション社デジタルメディアシステム部新聞システム担当主務	土方 紀和	2001.6 - 2002.7
ニコンシステム	第3システム本部第2部グループリーダー	宮本 亮	2001.6 - 2002.7
"	第3システム本部第2部	前田 宏隆	2001.6 - 2002.7
日本アイ・ピー・エム	通信・メディア・公益システム事業部サービス事業開発副主管ソリューション・スペシャリスト	草野 寿美生	2001.6 - 2002.7
"	ソフトウェア事業部エマージング・テクノロジー・アーキテクト	藤原 隆弘	2001.6 - 2002.7

日本オラクル	ビジネスソリューション本部流通サービス SC 部 プリンシパルコンサルタント	上野 暢彦	2001.6 - 2002.7
"	ブロードバンドビジネス開発部マネジャー	山本 宰司	2001.6 - 2002.7
日本システム技術	営業部企画担当部長シニア・ビジネス・アーキテクト	林 克美	2001.6 - 2002.7
日本電気 (NECソリューションズ)	メディア・エネルギーソリューション事業部 ソリューションビジネス推進部主任	佐藤 剛	2001.6 - 2002.7
"	第三公共システム開発事業部	新田 一樹	2001.6 - 2002.7
NECエンジニアリング	インターネットターミナル事業部第二メディア開発部	栗原 勝則	2001.6 - 2002.7
"	インターネットターミナル事業部第二メディア開発部	松江 則彦	2001.6 - 2002.7
富士通	情報出版システム統括部第一新聞システム部	吉田 裕司	2001.6 - 2002.7
"	システム本部情報出版システム統括部第一新聞システム部	衛藤 賢一	2001.8 - 2002.7
"	プロジェクト A-XML XML ビジネス開発部	稲荷 教司	2002.3 - 2002.7
"	プロジェクト A-XML XML ビジネス開発部	伊藤 隆	2002.4 - 2002.7
"	システムインテグレーション事業本部第二新聞システム部	神崎 正敬	2002.3 - 2002.7
プロセス資材	技術部技術 3 課担当課長	羽山 悦生	2001.6 - 2002.7
ページコンプ研究所	取締役	高沢 通	2001.6 - 2002.7
松下電送グラフィックプリンティング	システムパブリッシング課	宮本 和幸	2002.5 - 2002.7

日本新聞協会 NewsML レベル1策定メンバー 第3期 NewsML チーム

= 幹事、 = 副幹事 (敬称略)

社名	職名	氏名	在籍期間
朝日新聞東京本社	広告局広告管理部システム担当 (EDI 推進チーム)	相馬 暁	2002.7 -
毎日新聞東京本社	総合メディア事業局技術開発部副部長	小野寺 尚希	2002.7 -
"	制作技術局技術部技師	田中 孝次	2002.7 -
"	制作技術局技術部	長谷 貴臣	2002.7 -
"	総合メディア事業局サイバー編集部	猪狩 淳一	2002.7 -
読売新聞東京本社	メディア戦略局開発部主任	三宅 学	2002.7 -
"	メディア戦略局編集部	野口 潔	2002.7 -
日本経済新聞社	情報技術本部上級エンジニア	高橋 裕	2002.7 - 2003.3
"	情報技術本部システムリーダー	森口 剛	2003.4 -
東京新聞	編集局機報部次長	杉本 雅昭	2002.7 -
"	編集局機報部	藤田 俊広	2002.7 -
"	編集局機報部	加島 裕士	2002.7 -
"	システム局東京システム部技師	武江 完次	2002.7 -
産経新聞東京本社	制作局報道システム部次長	大島 義衛	2002.7 -
"	制作局システム管制部	坂本 一之	2002.7 -
"	デジタルメディア局システム部長	脇 雅英	2002.7 - 2003.5
"	デジタルメディア局システム部	林 裕司	2003.5 -
日刊スポーツ新聞社	情報システム本部開発部副主事	竹谷 耕司	2002.7 -
"	情報システム本部システム部	山口 晃	2002.7 -
スポーツニッポン新聞東京本社	システム本部開発・ネットワーク部技師補	荒井 雅樹	2002.7 -
東京ニュース通信社	情報システム室システム管理部課長	尾西 龍吾	2002.7 -
"	情報システム室システム管理部	杉浦 英生	2002.7 -
共同通信社	総合システム開発本部主査同等	篠塚 裕志	2002.7 -
"	情報システム局情報技術部	増田 真人	2002.7 -
"	情報システム局システム部	荒木 善正	2002.7 -
"	総合システム開発本部	内田 強	2002.7 -
時事通信社	システム局開発部主任	森本 佳輝	2002.7 -
"	システム局開発部	赤倉 優蔵	2002.7 -
日本短波放送	編成報道局チーフディレクター	掛原 雅行	2002.7 -
読売新聞大阪本社	メディア戦略室事業部	藤井 浩一	2002.7 -

産経新聞大阪本社	制作局報道システム部	山崎 敏宏	2002.7 -
"	制作局システム管制部	池田 正行	2002.7 -
スポーツニッポン新聞大阪本社	システム本部	大利 哲也	2002.7 -
"	システム本部	志岐 忠彦	2002.7 -
北海道新聞社	情報技術局技術開発部	井村 浩也	2002.7 -
河北新報社	システム局システム部	五井 克浩	2002.7 -
山形新聞社	制作局システム部	名取 信	2002.7 -
福島民報社	総合メディア室メディア企画部	上田 幸春	2002.7 -
静岡新聞社	制作技術局システム開発部	築地 宏和	2002.7 -
信濃毎日新聞社	制作局電算部	山岸 拓巨	2002.7 -
新潟日報社	システム室システム開発部	石川 尚彦	2002.7 -
北國新聞社	メディア開発室システム部副主任	岩崎 剛	2002.7 -
京都新聞社	システム局情報技術部主任	高乗 昌人	2002.7 -
神戸新聞社	制作局システム部システム課副課長	園田 誠	2002.7 -
"	メディア局情報技術部	前川 雄樹	2002.7 -
山陽新聞社	編成局システム部	片山 康夫	2002.7 -
"	編成局システム部	武元 哲哉	2002.7 -
西日本新聞社	システム技術局情報システム部主事	塩崎 真治	2002.7 -
熊本日日新聞社	メディア開発局システム開発部次長	岡松 暁夫	2002.7 -
南日本新聞社	メディア開発局システム開発部	松元 博幸	2002.7 -
日刊編集センター	ラテ配信局付部長(番組・システム担当)	大坂 信博	2002.7 - 2003.1
"	ラテ配信局マネージャー	一ノ瀬 智	2002.7 -
イワタ	常務取締役	額田 進	2002.10 -
"	技術部長	内田 富久	2002.10 -
"	技術部次長	川村 秀人	2002.7 - 2002.10
産能コンサルティング	営業部報道システム担当主任	鈴木 辰也	2002.7 -
東芝e-ソリューション社	ソリューション第二部新聞ソリューション担当	淵山 央樹	2002.7 -
ニコンシステム	第4システム本部第1開発部グループリーダ	宮本 亮	2002.7 -
"	第4システム本部第1開発部	前田 宏隆	2002.7 -
日本アイ・ピー・エム	通信・メディア・公益システム事業部 サービス事業開発副主管ソリューション・スペシャリスト	草野 寿美生	2002.7 - 2003.6
"	通信・メディア・公益システム事業部 デジタルメディア・アーキテクト	藤原 隆弘	2002.7 -
日本システム技術	営業部企画担当部長シニア・ビジネス・アーキテクト	林 克美	2002.7 -
"	技術1部	白鳥 和夫	2002.7 -

日本電気	メディア・エネルギーソリューション事業部 ソリューションビジネス推進部マネージャ	佐藤 剛	2002.7 -
"	第三公共システム開発事業部	福永 哲	2002.7 -
"	第三公共システム開発事業部	大内 龍也	2002.7 -
"	第三公共システム開発事業部	明石 隆文	2002.7 -
NECエンジニアリング	インターネットターミナル事業部ニューズメディア開発部	松江 則彦	2002.7 -
富士通	システムインテグレーション事業本部第三システムインテグレーション事業部第一新聞システム部	神崎 正敬	2002.7 -
"	プロジェクト A-XML XML ビジネス開発部	伊藤 隆	2002.7 -
"	情報メディアシステム事業部	加藤 英明	2003.5 -
松下電送グラフィックプリンティング	システムパブリッシング課技師	宮本 和幸	2002.7 -